

F D活動報告書

第 19 号 (2023 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2024 年 3 月

はじめに

関西大学大学院会計研究科は、創設からこれまで、教育体制、カリキュラムおよび教育内容・方法など常に研究科として見直し、改善を試みてきた。また、個々の教員においても、それぞれが自己研鑽を繰り返し、最善の教育を目指して取り組んできた。このような取組みを組織的に行っているのが、FD(Faculty Development)活動である。そして、このFD活動を推進してきたのが教務・FD委員会およびその下部組織としての専攻分野別教務・FD委員会である。このFD活動報告書は、FD活動の一環として作成しており、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしている。

本研究科では、このFD活動によって、教員の教育能力および教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っている。教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されない。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的な事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

本FD活動報告書は、2023年度のFD活動をまとめた第19号である。2023年度は、後掲の総括にもある通りアンケートの回収率を向上させるための改善も行い、より一層高い精度の分析がなされるよう努めた。また、2023年度は4度目となる会計大学院評価機構による認証評価を受審した。FD活動は主要な評価項目のひとつとして位置づけられている(第5章 教育内容等の改善措置)が、結果として、これも含めて評価基準のすべてを満たしているという評価を受け、「認定会計大学院」の称号を得ることができた。

我々は、今後もこのFD活動を通じて、「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計専門職業人」を養成すべく、会計専門職教育を継続的に充実・発展させていかなければならない。

今後も、FD活動を継続して行い、FD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育が向上していくであろうと確信している。

2024年3月

会計研究科長 三島 徹也

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2023年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。

授業評価アンケートは2020年度からオンライン方式（無記名）で実施しており、第14回目または第15回目の講義でQRコード付のアンケート依頼用紙を授業担当者が配付している。

オンライン方式で回答した内容はシステムで集計され、今後の授業内容および方法の改善のため、各授業担当者にフィードバックされる。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び総括については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5) 対象科目リスト(索引)

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
導入科目群	中級商業簿記	2	1	財務会計	春・秋	11・49
	中級工業簿記	2	1	管理会計	春・秋	12・50
基本科目群	上級簿記論	2	1	財務会計	春前・秋	13・14・51
	上級財務会計論	2	1	財務会計	春後・秋	15・16・52
	上級原価計算論	2	1	管理会計	春前・秋	17・18・53
	上級管理会計論	2	1	管理会計	春後・秋	19・20・54
	監査制度論	2	1	監査	春後・秋	21・22・55
	監査基準論	2	1	監査	春・秋	23・24・56
	企業法	2	1	法律・税務	春前・秋	25・26・57
	会計専門職業倫理	2	2	監査	春・秋	27・28・58
	会計基準論	2	1	財務会計	春	29
	会計制度論	2	1	財務会計	春	30
発展科目群	財表作成簿記論	2	1	財務会計	秋	59
	戦略管理会計論	2	1	管理会計	秋	
	企業分析論	2	1	管理会計	秋	60
	監査実施論	2	1	監査	秋	
	監査報告論	2	1	監査	秋	61
	商取引法	2	1	法律・税務	春	31
	会社法	2	1	法律・税務	秋	62
	民法	2	1	法律・税務	秋	
	法人税法	2	1	法律・税務	春	32
	上級税務会計論	2	1	法律・税務	春	33
	経営学理論	2	1	経営・経済	春	
	経営戦略・組織論	2	1	経営・経済	秋	
	統計学	2	1	経営・経済	秋	
	ミクロ経済学	2	1	経営・経済	秋	
	特殊講義(コンサルティング実務)	2	1	管理会計	秋	
	特殊講義(税務と会計)	2	1	横断科目	秋前	63
	特殊講義(会計専門職業数学)	2	1	横断科目	春	
	特殊講義(公会計論)	2	1	財務会計	秋	64
	特殊講義(BATIC演習)	2	1	財務会計	秋	
	特殊講義(IFRS演習)	2	1	財務会計	秋	
	特殊講義(自治体マネジメントと監査)〈公監査論〉	2	1	監査	春	34
	特殊講義(民法(債権))	2	2	法律・税務	春	
	特殊講義(資本市場論)	2	2	経営・経済	春	35
	特殊講義(貸借対照表論)	2	1	財務会計	秋	65
	特殊講義(不正摘発監査論)	2	2	監査	春	36
	特殊講義(国際監査事例研究)	2	2	監査	秋	
	特殊講義(起業・株式公開事例研究)	2	2	経営・経済	春	
	特殊講義(会計検査制度論)	2	1	監査	秋	
	特殊講義(企業情報の読み方と使い方)	2	1	横断科目	秋後	66
	特殊講義(新規ビジネスの立上げと成長戦略)	2	1	横断科目	春後	
	特殊講義(企業マネジメントと会計)	2	1	横断科目	春	37
	特殊講義(連結会計実務)	2	1	財務会計	不開講	
	特殊講義(実践デジタル監査演習・ICAEA JAPAN 寄附講座)	2	2	監査	秋	
発展科目群	英文会計論	2	2	財務会計	秋	
	IFRS会計論	2	2	財務会計	春	38
発展科目群	組織再編会計論	2	2	財務会計	秋	
	コストマネジメント論	2	2	管理会計	秋	
	企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	不開講	
	マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	春	
	内部監査論	2	2	監査	春	
	国際監査基準論	2	2	監査	春	
	上級会社法	2	2	法律・税務	春	39
	租税法理論	2	2	法律・税務	秋	67
	租税法会計論	2	2	法律・税務	秋	68
	国際税務論	2	2	法律・税務	春	40
	コーポレート・ファイナンス論	2	2	経営・経済	秋	69
	インベストメント論	2	2	経営・経済	春	41
	マクロ経済学	2	2	経営・経済	春	
	基本会計プログラム演習	2	1	財務会計	春	42
	会計事例研究	2	1	財務会計	春	43
	会社経理実務	2	1	財務会計	秋	70
	管理会計事例研究	2	1	管理会計	秋	
監査事例研究	2	1	監査	秋	71	
基本監査プログラム演習	2	1	監査	秋	72	
アカデミック・ソリューション	2	1	個別演習科目	通隔	73~75	
論文指導(導入)	2	1	個別演習科目	春	44・45	
論文指導(基礎)	2	1	個別演習科目	秋	76・77	
実践会計プログラム演習	2	2	財務会計	秋	78	
IFRS事例研究	2	2	財務会計	春		
ディスクロージャー実務	2	2	財務会計	秋	79	
国際管理会計事例研究	2	2	管理会計	秋		
実践監査プログラム演習	2	2	監査	不開講		
企業法判例演習	2	2	法律・税務	秋		
税務事例研究	2	2	法律・税務	春		
企業実践コミュニケーション	2	2	経営・経済	春		
プロフェッショナル・ソリューション	2	2	個別演習科目	通隔	80~82	
論文指導(実践)	4	2	個別演習科目	通年	83・84	
総括						87

※掲載対象科目は、2023年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

Ⅱ . 2023 年度授業評価アンケートフォーム

2023 年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD 委員会

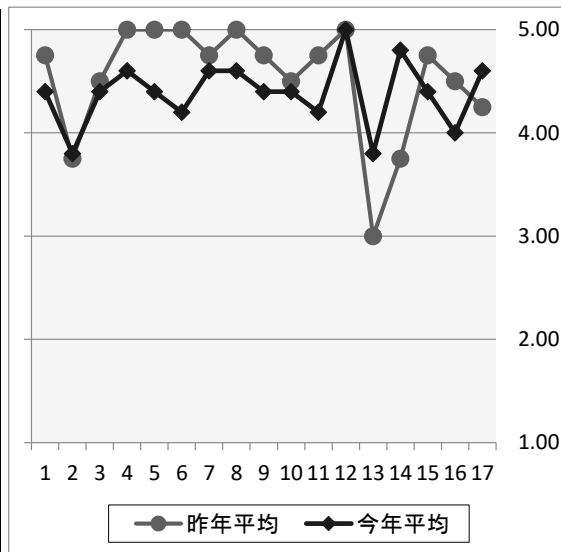
NO	質問内容	回答
1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
2	この授業の進捗はどうか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
7	ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
12	この授業への出席状況はどうか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたが。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	

— 以上 —

Ⅲ-(1). 2023 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	11	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.40	4	5	4
2	3.75	3.80	3・4	5	3
3	4.50	4.40	4	5	4
4	5.00	4.60	5	5	4
5	5.00	4.40	4	5	4
6	5.00	4.20	4・5	5	3
7	4.75	4.60	5	5	4
8	5.00	4.60	5	5	4
9	4.75	4.40	4	5	4
10	4.50	4.40	4	5	4
11	4.75	4.20	4・5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	3.80	5	5	1
14	3.75	4.80	5	5	4
15	4.75	4.40	4	5	4
16	4.50	4.00	4・5	5	2
17	4.25	4.60	5	5	4
回答者数	4	5			



受講生の傾向

受講生は、ごく一部の学生を除き、総じて簿記の習熟度が低い状況であった。定期的にミニテストを行って学習の進捗と成果を確認したが、理解が追いついていない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学習の遅れが目立ち、講義計画を一部変更して対応した。また、授業時間外に補習を行ったり、補習の希望があれば申し出るように伝えて、学習の遅れを取り戻す機会を設けたが、これに積極的な受講生はいなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

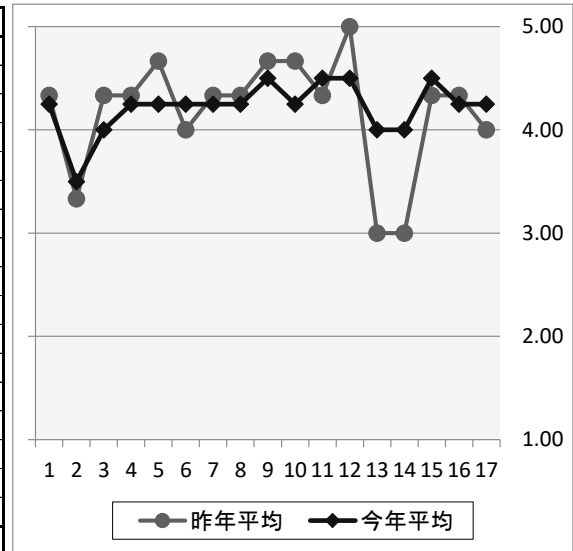
科目の特性上、この講義に遠隔授業は馴染まず、対面授業の方が教育効果が高い。また、対面授業の方が受講生のニーズに合致している。今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、昨年度に比べると低いが、単年度の結果としてみれば概ね高いポイントを得ている。学習意欲を高めるように誘導したい。

科目	中級工業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春水1
受講者数	8	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.25	5	5	3
2	3.33	3.50	3・4	4	3
3	4.33	4.00	4	5	3
4	4.33	4.25	5	5	3
5	4.67	4.25	4	5	4
6	4.00	4.25	4	5	4
7	4.33	4.25	4	5	4
8	4.33	4.25	4	5	4
9	4.67	4.50	4・5	5	4
10	4.67	4.25	4	5	4
11	4.33	4.50	4・5	5	4
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	3.00	4.00	5	5	2
14	3.00	4.00	5	5	2
15	4.33	4.50	4・5	5	4
16	4.33	4.25	4	5	4
17	4.00	4.25	4	5	4
回答者数	3	4			



受講生の傾向

毎回小テストを実施したため、ほぼ全員が毎回復習してきて、真面目であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
講義中に問題演習する時間を設けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

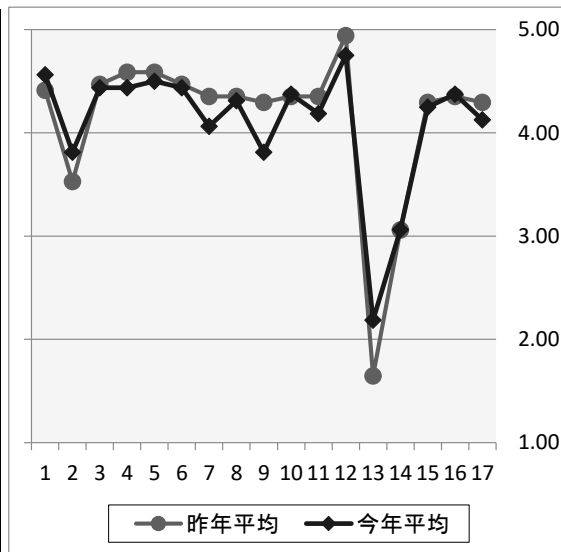
毎回復習テストを実施し、次回までに勉強してくることを促したが、復習してこない生徒がいるので、講義時間内で演習する時間を増やして、知識の定着させるようにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義中の問題演習と毎回の小テストを次年度も続けていく。

科 目	上級簿記論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	20	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.41	4.56	5	5	4
2	3.53	3.81	4	5	3
3	4.47	4.44	5	5	3
4	4.59	4.44	5	5	3
5	4.59	4.50	4・5	5	4
6	4.47	4.44	4	5	4
7	4.35	4.06	4	5	1
8	4.35	4.31	4	5	2
9	4.29	3.81	4	5	1
10	4.35	4.38	4	5	4
11	4.35	4.19	4	5	2
12	4.94	4.75	5	5	4
13	1.65	2.19	2	4	1
14	3.06	3.06	3	5	2
15	4.29	4.25	4	5	3
16	4.35	4.38	4	5	4
17	4.29	4.13	4	5	2
回答者数	17	16			



受講生の傾向

A1クラスの受講生は、ほぼ1年次生である。簿記の習熟度が高い受講生もいたが、それ以上に簿記の習熟度が低い受講生が多かった。なかには、明らかに簿記の基礎力に欠ける受講生も多いた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記の習熟度が低い受講生が多く、それに配慮して講義を展開した。日商2級の学力に不安がある受講生には「中級商業簿記」の履修を促したが、履修した者はいなかった。また、例年の課外講座とは別に、新たに講座を用意して、簿記の苦手な受講生に参加を促したが、これに積極的な受講生もほとんどいなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

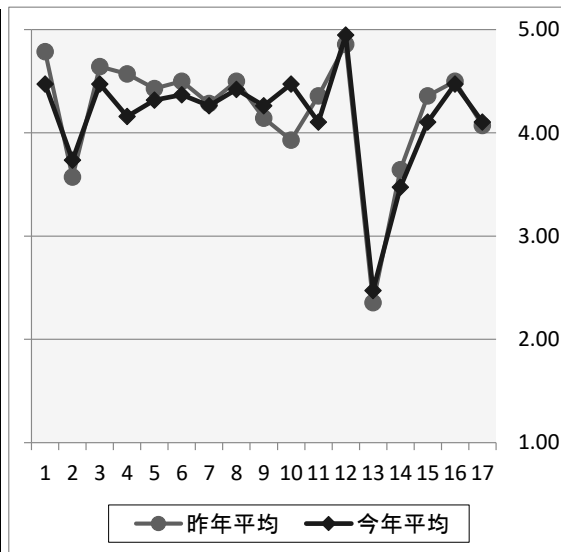
科目の特性上、この講義に遠隔授業は馴染まず、対面授業の方が教育効果が高い。また、対面授業の方が受講生のニーズに合致している。ただ、簿記の基礎力に欠ける受講生が多く、日商2級の学力に達していない状態で日商1級の内容を学修することは難しいであろう。日商2級の学力に少しでも不安がある受講生には、「中級商業簿記」の履修を促すことにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにしたい。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

科目	上級簿記論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	22	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.47	5	5	2
2	3.57	3.74	3	5	2
3	4.64	4.47	5	5	3
4	4.57	4.16	5	5	1
5	4.43	4.32	5	5	1
6	4.50	4.37	5	5	2
7	4.29	4.26	5	5	1
8	4.50	4.42	5	5	2
9	4.14	4.26	4	5	2
10	3.93	4.47	5	5	3
11	4.36	4.11	4	5	1
12	4.86	4.95	5	5	4
13	2.36	2.47	1	5	1
14	3.64	3.47	5	5	1
15	4.36	4.11	4	5	2
16	4.50	4.47	5	5	3
17	4.07	4.11	4	5	2
回答者数	14	19			



受講生の傾向

A2クラスの受講生は、1年次生と2年次生である。簿記の習熟度が高い受講生もいたが、それ以上に簿記の習熟度が低い受講生が多かった。なかには、明らかに簿記の基礎力に欠ける受講生も多いた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記の習熟度が低い受講生が多く、それに配慮して講義を展開した。日商2級の学力に不安がある受講生には「中級商業簿記」の履修を促したが、履修した者はいなかった。また、例年の課外講座とは別に、新たに講座を用意して、簿記の苦手な受講生に参加を促したが、これに積極的な受講生もほとんどいなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

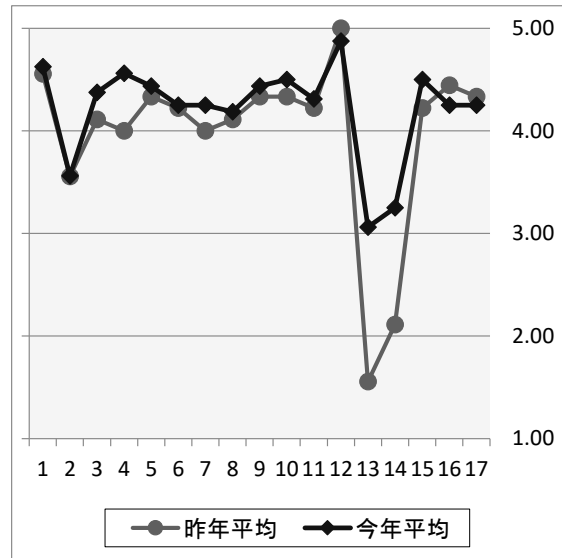
科目の特性上、この講義に遠隔授業は馴染まず、対面授業の方が教育効果が高い。また、対面授業の方が受講生のニーズに合致している。ただ、簿記の基礎力に欠ける受講生が多く、日商2級の学力に達していない状態で日商1級の内容を学修することは難しいであろう。日商2級の学力に少しでも不安がある受講生には、「中級商業簿記」の履修を促すことにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにした。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

科目	上級財務会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	19	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.63	5	5	4
2	3.56	3.56	3	5	3
3	4.11	4.38	5	5	3
4	4.00	4.56	5	5	4
5	4.33	4.44	4	5	4
6	4.22	4.25	4・5	5	2
7	4.00	4.25	4	5	3
8	4.11	4.19	4	5	3
9	4.33	4.44	5	5	1
10	4.33	4.50	4・5	5	4
11	4.22	4.31	4・5	5	3
12	5.00	4.88	5	5	4
13	1.56	3.06	2・3	5	1
14	2.11	3.25	2・3	5	2
15	4.22	4.50	4・5	5	4
16	4.44	4.25	4・5	5	2
17	4.33	4.25	4	5	3
回答者数	9	16			



受講生の傾向

ほとんどの受講生は全回出席し真摯に受講していたが、3回以下の欠席をする受講生も散見された。冒頭数回の小テストが芳しくなく、学習方法が確立していない受講生が少なくないように感じるが、中間試験後を機に後半には解消されたように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度はA1A2の2クラスの試験を同一にしようとし、小テストを関大LMSで実施したが、学習の動機づけになっていない可能性を考慮し、2クラス別の小テストをそれぞれ教室にて紙による実施を行った。また、他の制度との比較をしながらの解説は説明対象の理解の要点がわかりづらくなることから、比較を紹介せずに説明を行い、理解が浸透した頃に追加的に比較での説明をするように変更した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

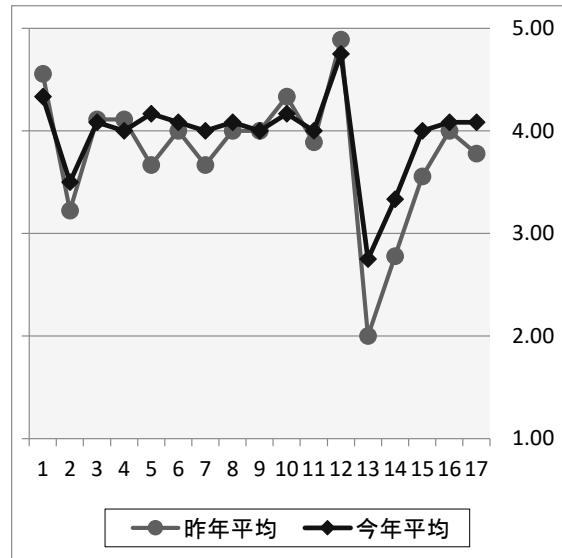
教室の件は、教員にとってコントロール不能であるので、その影響は所与とし、小テストを関大LMSで実施するとしても、授業中の受講態度に緊張感が維持できるような小テストの内容と実施に工夫するつもりである。また、比較をしながらの解説は説明対象の理解がしづらく要点がボケるようであるので、授業での比較の要素を減らし、比較は別途行うように授業内容を再構築するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度より改善された授業評価アンケートの結果であったため、対応の方向性はしばらく維持するつもりである。具体的には、講義資料は関大LMS経由で配布し、小テスト及び試験は紙で行うことで学習の促進に繋げ、理解が浸透するまで他の制度との比較を加えた説明をできるだけ少なくし、講義の最終回付近で比較を交えて理解を深めるような説明に再構築していく。

科目	上級財務会計論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	15	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.33	5	5	1
2	3.22	3.50	3	5	2
3	4.11	4.08	5	5	1
4	4.11	4.00	4	5	1
5	3.67	4.17	4	5	1
6	4.00	4.08	4・5	5	1
7	3.67	4.00	4	5	1
8	4.00	4.08	4	5	1
9	4.00	4.00	5	5	1
10	4.33	4.17	5	5	1
11	3.89	4.00	4	5	1
12	4.89	4.75	5	5	3
13	2.00	2.75	3	5	1
14	2.78	3.33	3	5	2
15	3.56	4.00	5	5	1
16	4.00	4.08	4・5	5	1
17	3.78	4.08	4	5	2
回答者数	9	12			



受講生の傾向

このクラスは月曜2時限がC506、木曜3時限がC507教室での開講であり、教室の規模の大きいC507で後ろに座る学生が少ないながら存在するだけでなく、教卓から受講生が物理的に距離が遠くなるためか、受講生の物理的な密度が下がるためか、授業での緊張感が下がっているように感じられた。出席については全回出席の受講生は多くはないものの、昨年度より予習や復習にかかる時間も多くなっており、全体としては真摯に受講しているように感じる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

A1クラスと同様であり、昨年度はA1A2の2クラスの試験を同一にしようとし、小テストを関大LMSで実施したが、学習の動機づけになっていない可能性を考慮し、2クラス別の小テストをそれぞれ教室にて紙による実施を行った。また、他の制度との比較をしながらの解説は説明対象の理解の要点がわかりづらくなることから、比較を紹介せずに説明を行い、理解が浸透した頃に追加的に比較での説明をするように変更した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

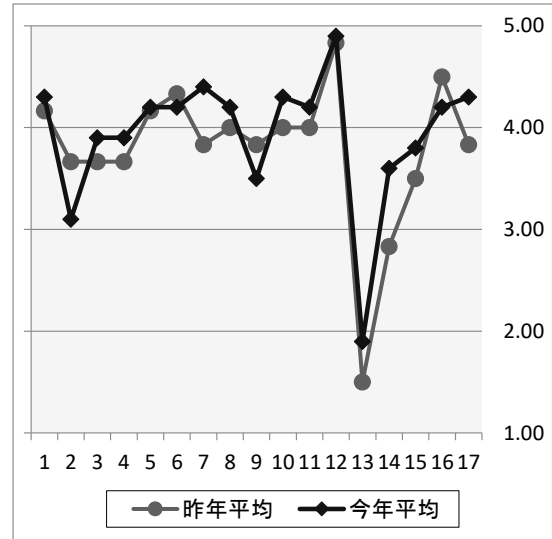
教室の件は、教員にとってコントロール不能であるので、その影響は所与とし、小テストを関大LMSで実施するとしても、授業中の受講態度に緊張感を維持し、予習・復習をしっかりできるような小テストの内容と実施に工夫するつもりである。また、比較をしながらの解説は説明対象の理解がしづらく要点がボケるようであるので、授業での比較の要素を減らし、比較は別途行うように授業内容を再構築するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

A1クラスでは昨年度より改善された授業評価アンケートの結果であったが、A2クラスでの改善が認められないと思われる。教室の規模の問題か再履修の受講生が一定程度含まれるためか、この差異についての理由は不明である。予習や復習にかかる時間は増加しており、A1クラスでは改善しているため、対応の方向性はしばらく維持するつもりである。具体的には、講義資料は関大LMS経由で配布し、小テスト及び試験は紙で行うことで学習の促進に繋げ、理解が浸透するまで他の制度との比較を加えた説明をできるだけ少なくし、講義の最終回付近で比較を交えて理解を深めるような説明に再構築していく。

科目	上級原価計算論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	19	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.30	4	5	4
2	3.67	3.10	3	5	2
3	3.67	3.90	4	5	3
4	3.67	3.90	4	5	3
5	4.17	4.20	4	5	2
6	4.33	4.20	4	5	3
7	3.83	4.40	4	5	4
8	4.00	4.20	4	5	4
9	3.83	3.50	3・4	4	3
10	4.00	4.30	4	5	4
11	4.00	4.20	4	5	3
12	4.83	4.90	5	5	4
13	1.50	1.90	1	5	1
14	2.83	3.60	5	5	2
15	3.50	3.80	4	5	3
16	4.50	4.20	4	5	3
17	3.83	4.30	4	5	4
回答者数	6	10			



受講生の傾向

会計士志望の受講生と税理士志望の受講生のレベル差が大きい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の終了時に復習教材(トレーニング)での復習が単位取得にあたっては望まれる旨を明確に伝えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

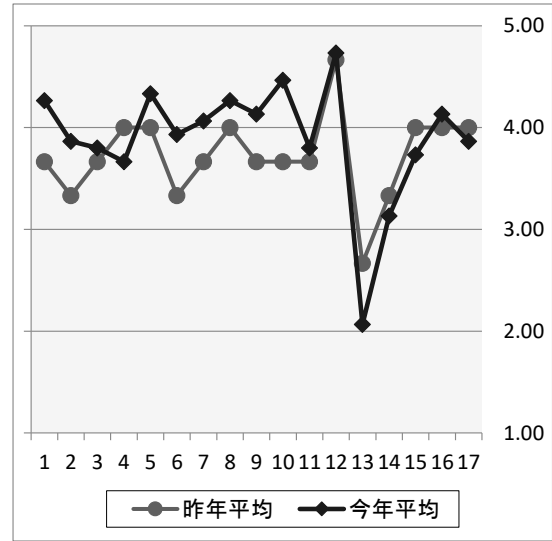
授業前の予習、復習を促し、効果的に学習内容を定着してもらえるような工夫を行いたい。
具体的には、授業の最後に次回までに予習すべき内容と復習をすべき問題などを伝える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税理士志望の受講生については、復習のみでなく予習も有効である旨を伝える。

科目	上級原価計算論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	21	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.67	4.27	4	5	2
2	3.33	3.87	3	5	3
3	3.67	3.80	4	5	2
4	4.00	3.67	4	5	1
5	4.00	4.33	4	5	3
6	3.33	3.93	4・5	5	2
7	3.67	4.07	5	5	2
8	4.00	4.27	5	5	3
9	3.67	4.13	5	5	1
10	3.67	4.47	5	5	3
11	3.67	3.80	5	5	1
12	4.67	4.73	5	5	4
13	2.67	2.07	1	5	1
14	3.33	3.13	2	5	1
15	4.00	3.73	5	5	1
16	4.00	4.13	5	5	2
17	4.00	3.87	5	5	1
回答者数	3	15			



受講生の傾向

会計士志望の受講生と税理士志望の受講生のレベル差が大きい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の終了時に復習教材(トレーニング)での復習が単位取得にあたっては望まれる旨を明確に伝えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

授業前の予習、復習を促し、効果的に学習内容を定着してもらえるような工夫を行いたい。
具体的には、授業の最後に次回までに予習すべき内容と復習をすべき問題などを伝える。

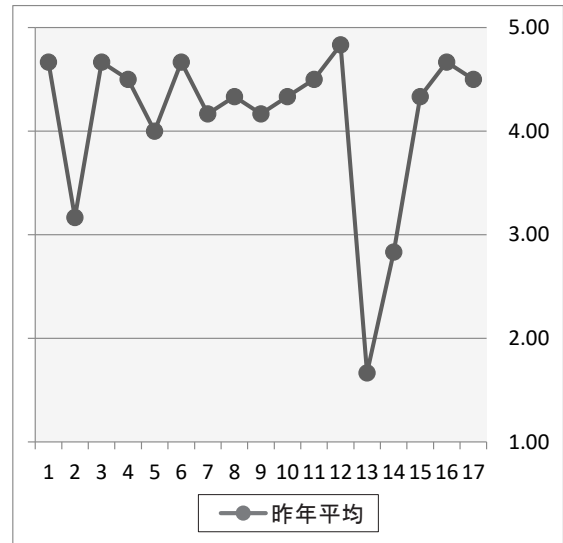
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税理士志望の受講生については、復習のみでなく予習も有効である旨を伝える。

科目	上級管理会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	19	回答者数	0

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	—	—	—	—
2	3.17	—	—	—	—
3	4.67	—	—	—	—
4	4.50	—	—	—	—
5	4.00	—	—	—	—
6	4.67	—	—	—	—
7	4.17	—	—	—	—
8	4.33	—	—	—	—
9	4.17	—	—	—	—
10	4.33	—	—	—	—
11	4.50	—	—	—	—
12	4.83	—	—	—	—
13	1.67	—	—	—	—
14	2.83	—	—	—	—
15	4.33	—	—	—	—
16	4.67	—	—	—	—
17	4.50	—	—	—	—
回答者数	6	0			

※今年度未実施のため、今年平均値なし



受講生の傾向

会計士志望の受講生と税理士志望の受講生のレベル差が大きい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の終了時に復習教材(トレーニング)での復習が単位取得にあたっては望まれる旨を明確に伝えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

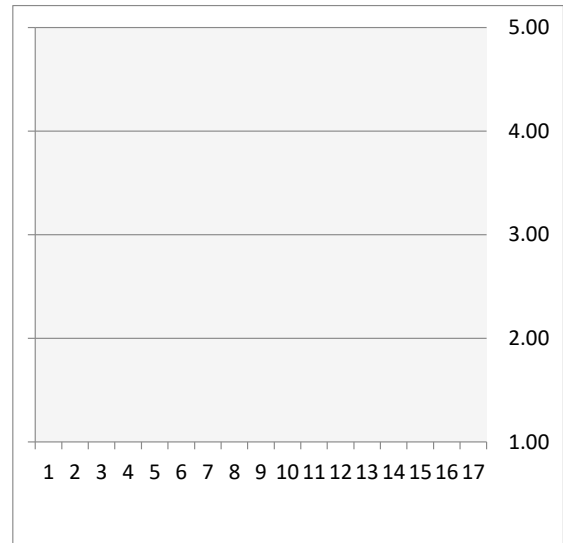
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税理士志望の受講生については、復習のみでなく予習も有効である旨を伝える。

科目	上級管理会計論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	13	回答者数	0

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	—	—	—	—
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
11	—	—	—	—	—
12	—	—	—	—	—
13	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—
17	—	—	—	—	—
回答者数	0	0			



※昨年度・今年度ともに未実施のため、平均値なし

受講生の傾向

会計士志望の受講生と税理士志望の受講生のレベル差が大きい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の終了時に復習教材(トレーニング)での復習が単位取得にあたっては望まれる旨を明確に伝えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

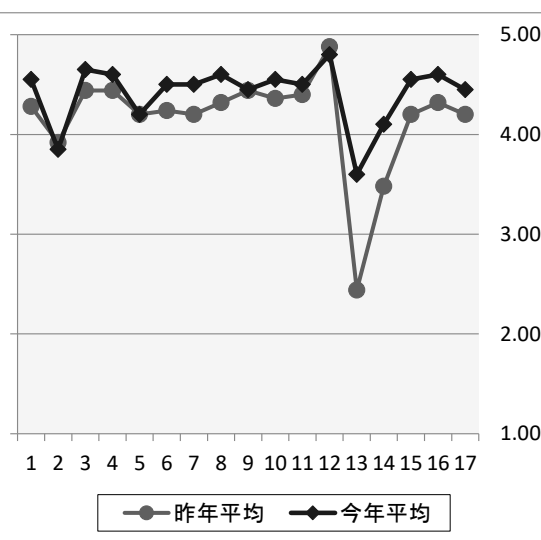
該当なし(担任者変更・昨年度未実施)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税理士志望の受講生については、復習のみでなく予習も有効である旨を伝える。

科目	監査制度論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	23	回答者数	20

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.28	4.55	5	5	3
2	3.92	3.85	4	5	2
3	4.44	4.65	5	5	3
4	4.44	4.60	5	5	2
5	4.20	4.20	5	5	2
6	4.24	4.50	5	5	2
7	4.20	4.50	5	5	2
8	4.32	4.60	5	5	4
9	4.44	4.45	5	5	3
10	4.36	4.55	5	5	3
11	4.40	4.50	5	5	2
12	4.88	4.80	5	5	3
13	2.44	3.60	5	5	1
14	3.48	4.10	5	5	2
15	4.20	4.55	5	5	3
16	4.32	4.60	5	5	3
17	4.20	4.45	4	5	4
回答者数	25	20			



受講生の傾向

本科目が基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は90%以上と極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は非常に高いと解される。

講義進度は若干早い(項目2)と評価されてはいるものの前年度よりは少し適度なレベルに落ち着いており、全体的に評価は前年度より改善している。配布資料の適切さ(項目6)、機材の使い方(項目7)、質問への対応(項目8)についても、評価が昨年度より改善した。小テスト等の効果(項目9)は昨年度レベルの評価となっている。

また課題予習(項目13)・復習(項目14)に対する時間も昨年度より大きく改善しており、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)の結果に繋がっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に改訂された監査基準及び実務指針を反映した網羅的かつ体系的なパワーポイントによる教材を作成し配布した。また配布資料の最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日までにアップロードし、WEB配信により受講生が予習・復習をできるようにした。このせいもあって、今年度の学生からの復習課題の添削依頼が昨年度より多くなった。

また小テストによる勉学の動機付けについても、例年通り、2回分の授業が終了することに理解度を確認する目的と復習を促すために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施した。翌週回の小テストの添削後、コメントを付して各自に返却するとともに、添削の際のポイントを解説するとともに優秀答案を氏名を伏せて配布した。

最終的に講義2回(復習課題の確認)→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

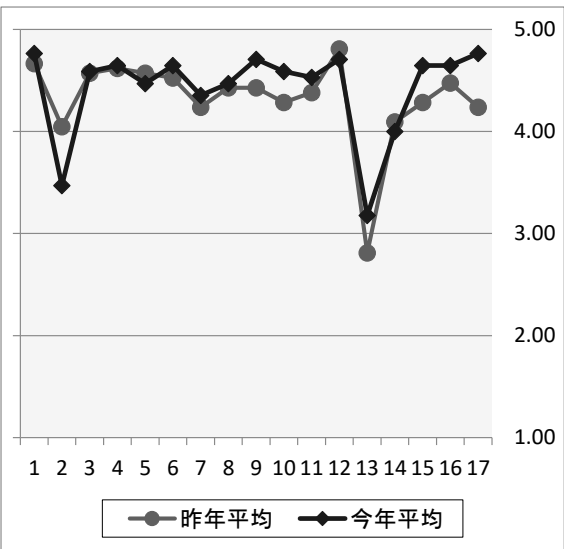
講義終了時に自主的に復習課題の解答を持参し添削を依頼するものや、自発的な質問をするものも出始めたので、これまで通り録画ファイルによる復習とそれに基づく復習課題への対応を促進したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習課題の解答による振り返りを促すため、毎講義時間終了時に復習課題の問題確認をすることで復習課題への対応を促したい。

科目	監査制度論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後火3・金2
受講者数	20	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.76	5	5	4
2	4.05	3.47	3	5	2
3	4.57	4.59	5	5	3
4	4.62	4.65	5	5	2
5	4.57	4.47	5	5	2
6	4.52	4.65	5	5	3
7	4.24	4.35	5	5	3
8	4.43	4.47	5	5	3
9	4.43	4.71	5	5	3
10	4.29	4.59	5	5	3
11	4.38	4.53	5	5	1
12	4.81	4.71	5	5	3
13	2.81	3.18	4・5	5	1
14	4.10	4.00	5	5	2
15	4.29	4.65	5	5	2
16	4.48	4.65	5	5	2
17	4.24	4.76	5	5	4
回答者数	21	17			



受講生の傾向

本科目が基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は90%以上に極めて近い出席率であり勉学に対する意欲は非常に高いと解される。

今年度は講義進度(項目2)について、若干早いという評価がなされていたが、A1クラスと同様、A2クラスでも講義進度が適切な水準に落ちついている。また全体的に評価は昨年度とほぼ同程度ないしは項目によっては若干の改善が見られる。

特に小テスト等の効果(項目9)やクラスの規模(項目10)、満足度(項目10)は評価が向上し資料配布(項目6)、機材の使い方(項目7)、質問への対応(項目8)に対する評価は昨年度並みと言える。

また理解度(項目17)や能力の向上(項目16)、触発(項目15)は昨年度よりも向上しているため、本科目に対する学生の意識は比較的高くなったことが評価できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度においても、A1クラスと同様、改訂監査基準及び実務指針を反映した網羅的かつ体系的なパワーポイントによる教材を配布した。また配布資料の最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日までにアップロードし、WEB配信により受講生が予習・復習をできるようにした。

また小テストによる勉学の動機付けについても、例年通り、2回分の授業が終了するごとに理解度を確認する目的と復習を促すために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施した。翌週回に小テストの添削後、コメントを付して各自に返却するとともに、添削の際のポイントを解説するとともに優秀答案を氏名を伏せて配布した。

最終的に講義2回(復習課題の確認)→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

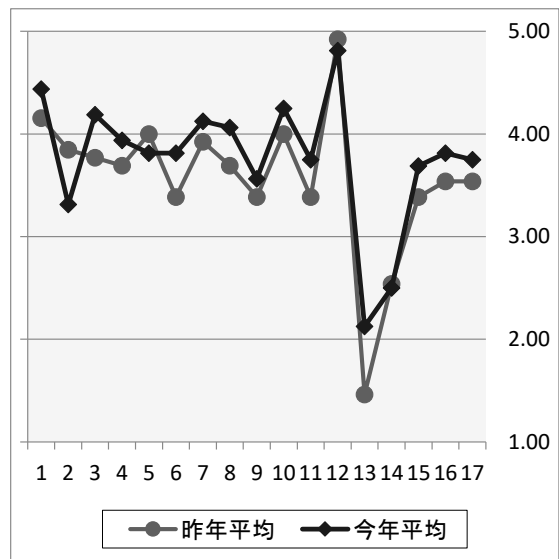
講義終了時に自主的に復習課題の解答を持参し添削を依頼するものや、自発的な質問をするものも出始めたので、これまで通り録画ファイルによる復習とそれに基づく復習課題への対応を促進したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

毎授業時間終わりに解答すべき復習課題を口頭で確認することで、毎回の復習課題への解答を促したい。

科目	監査基準論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春水2
受講者数	21	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.15	4.44	4	5	4
2	3.85	3.31	3	4	2
3	3.77	4.19	4	5	3
4	3.69	3.94	4	5	3
5	4.00	3.81	4	5	2
6	3.38	3.81	4	5	2
7	3.92	4.13	4	5	3
8	3.69	4.06	4	5	3
9	3.38	3.56	3	5	1
10	4.00	4.25	4	5	3
11	3.38	3.75	4	5	1
12	4.92	4.81	5	5	4
13	1.46	2.13	2	4	1
14	2.54	2.50	2	5	1
15	3.38	3.69	4	5	1
16	3.54	3.81	4	5	1
17	3.54	3.75	4	5	1
回答者数	13	16			



受講生の傾向

進捗度は、昨年度の3.85ポイント(「3:ちょうど良い」より「4:早い」寄り)から3.31ポイントの「3:ちょうど良い」へ改善している。

また、予習時間は昨年の30分未満(1.46ポイント)から30分程度を超える2.13ポイントへ改善している。その他の項目もおおむね昨年に比べ改善している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業スピード(口頭スピード)は抑制し、関大LMS提示資料も抑制のうえ、メリハリをつけた授業を心掛けた。また、毎回の授業で、記憶する事の重要性和、記憶することで理解が容易になる点に言及した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

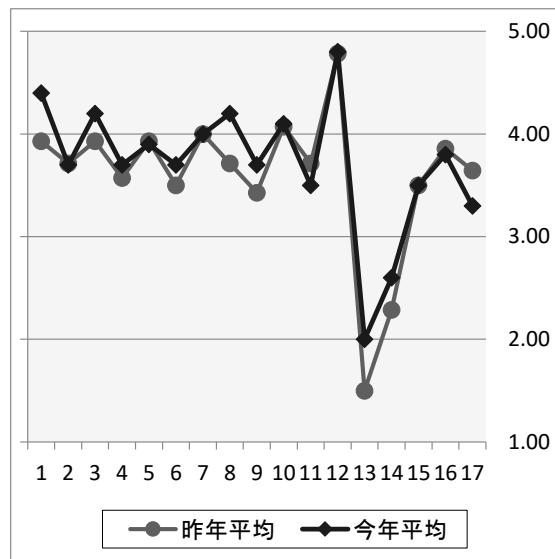
- ・授業スピードは現状を維持する。
- ・配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明により時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を血肉化させる(一度憶えこむ)事が避けられない点を強調し、受講前に当日のスライド内容の概要を把握しておく事が血肉化に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・授業スピードは引き続き現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・引き続き配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明に時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を憶える必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

科目	監査基準論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春水3
受講者数	16	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.93	4.40	4	5	4
2	3.71	3.70	3	5	3
3	3.93	4.20	4	5	3
4	3.57	3.70	4	5	1
5	3.93	3.90	4	5	2
6	3.50	3.70	4	5	1
7	4.00	4.00	4	5	1
8	3.71	4.20	4・5	5	3
9	3.43	3.70	4	5	1
10	4.07	4.10	4	5	2
11	3.71	3.50	4	5	1
12	4.79	4.80	5	5	4
13	1.50	2.00	1・2	5	1
14	2.29	2.60	2	5	2
15	3.50	3.50	4	5	1
16	3.86	3.80	4	5	1
17	3.64	3.30	3・4	5	1
回答者数	14	10			



受講生の傾向

質問項目1の授業内容がシラバスに沿った内容かどうか、昨年の「4: そう思う」に近い3.93ポイントから、「5: 強くそう思う」寄りの4.40ポイントへ改善した。

また、質問項目13の予習時間も、昨年の30分未満(1.50ポイント)から30分程度(2.00ポイント)へ改善した。

一方で、質問項目17の授業の理解度が、昨年の3.64ポイント(「3: どちらとも言えない」より「4: そう思う」寄り)から、3.30ポイントへと「3: どちらとも言えない」寄りに悪化している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業スピード(口頭スピード)は抑制し、関大LMS提示資料も抑制のうえ、メリハリをつけた授業を心掛けた。また、毎回の授業で、記憶する事の重要性和、記憶することで理解が容易になる点に言及した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

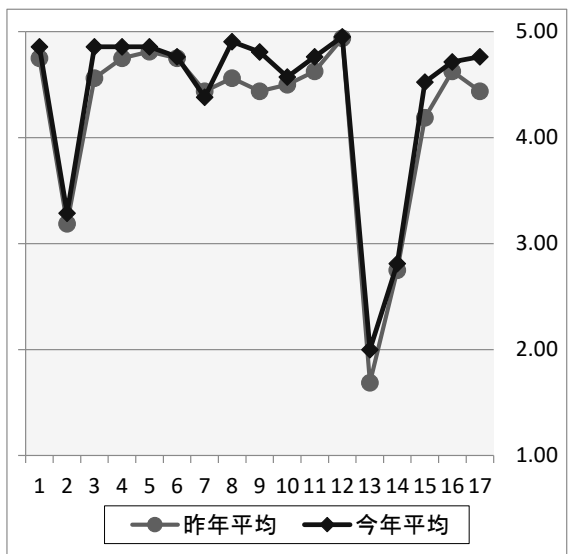
- ・授業スピードは現状を維持する。
- ・配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明により時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を血肉化させる(一度憶えこむ)事が避けられない点を強調し、受講前に当日のスライド内容の概要を把握しておく事が血肉化に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・授業スピードは引き続き現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・引き続き配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明に時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を憶える必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

科 目	企業法(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3
受講者数	22	回答者数	21

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.86	5	5	4
2	3.19	3.29	3	5	3
3	4.56	4.86	5	5	4
4	4.75	4.86	5	5	4
5	4.81	4.86	5	5	4
6	4.75	4.76	5	5	3
7	4.44	4.38	5	5	1
8	4.56	4.90	5	5	4
9	4.44	4.81	5	5	4
10	4.50	4.57	5	5	3
11	4.63	4.76	5	5	3
12	4.94	4.95	5	5	4
13	1.69	2.00	1	5	1
14	2.75	2.81	2	5	2
15	4.19	4.52	5	5	3
16	4.63	4.71	5	5	4
17	4.44	4.76	5	5	3
回答者数	16	21			



受講生の傾向

受講生は22名で、基本科目としては適正な人数で、ほとんどの学生が授業に対してまじめにかつ熱心に出席し、積極的に参加していた。企業法は、会計未修者の学生でも履修可能な科目となっており、さらに法学初学者であっても受講できるよう配慮している科目なので、難易度としてはあまり高いとは感じられていないようで、授業進度も比較的ちょうど良いようである。ただ、論述式および択一式の小テストなどを実施しているの、予習や復習の時間がもう少し取られていればと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法の授業は法学初学者に対して、その他の法学の授業(例えば、会社法、商取引法、民法等)のためにも、法学の基礎を教えるという重要な役割があるので、今年度は企業法の授業の中で法学の基礎的な知識や用語の意味などを極力教えるように心がけた。授業の中では理解度を確認するために公認会計士短答式試験を利用した8回の短答式小テストを行い、また授業期間中3回の論文式小テストを行った。特に論文式については、最初は論文作成が難しかった受講生も論文作成の練習回数を重ねるごとに論文を作成することができるようになっていた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

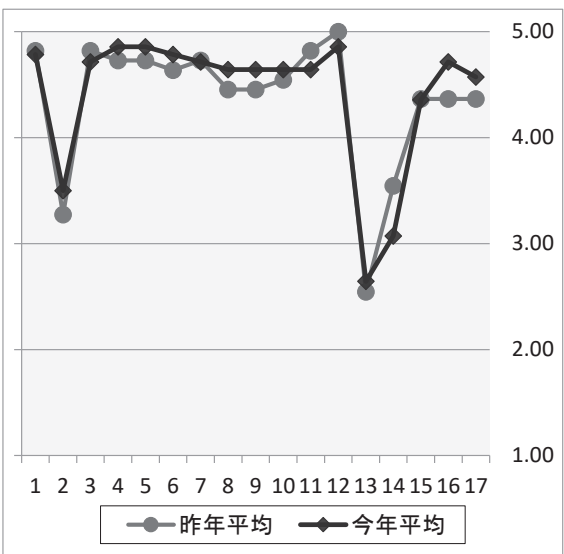
ここ最近の傾向であるが、企業法受講生の学力が向上してきている。以前よりも受講生の授業理解度が高く、小テスト(特に論文式)の結果を見ても成績が上がってきている。これを踏まえて、次年度以降は、受講生の学力を見極めて、もう少し授業のレベルをあげていくことを考えたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法は、本会計研究科の法学に関する基礎の科目を構成するので、すでに企業法を学習した学生については理解を再確認してもらい、ないしより理解を深めてもらい、法学初学者については、必要最低限の法学に関する学力を身に付けてもらいたい。そのためにも授業を受けて終わりというのではなく、授業中に行う小テスト等を利用して、受講生にはよりしっかりと理解してもらえよう、多くの学生(特に苦手とする)が時間外学修(予習復習等)に取り組むような工夫をしていきたい。

科目	企業法(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前火3・金2
受講者数	16	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.82	4.79	5	5	4
2	3.27	3.50	3	5	3
3	4.82	4.71	5	5	4
4	4.73	4.86	5	5	4
5	4.73	4.86	5	5	4
6	4.64	4.79	5	5	4
7	4.73	4.71	5	5	4
8	4.45	4.64	5	5	3
9	4.45	4.64	5	5	3
10	4.55	4.64	5	5	4
11	4.82	4.64	5	5	4
12	5.00	4.86	5	5	4
13	2.55	2.64	2・3	5	1
14	3.55	3.07	3	5	2
15	4.36	4.36	5	5	3
16	4.36	4.71	5	5	4
17	4.36	4.57	5	5	3
回答者数	11	14			



受講生の傾向

企業法A2クラスは、A1クラスよりも受講生の人数は少なく16名であった。こちらもほとんどの学生が授業に対してまじめにかつ熱心に参加し、積極的に参加していた。企業法は、会計未修者の学生でも履修可能な科目となっており、さらに法学初学者であっても受講できるよう配慮している科目なので、難易度としてはあまり高いとは感じられていないようで、授業進度も比較的ちょうど良いようである。ただ、論述式および択一式の小テストなどを実施しているため、予習や復習の時間がもう少し取られていればと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

A1クラスでも述べたことであるが、同様に、企業法の授業は法学初学者に対して、その他の法学の授業(例えば、会社法、商取引法、民法等)のためにも、法学の基礎を教えるという重要な役割があるので、今年度は企業法の授業の中で法学の基礎的な知識や用語の意味などを極力教えるように心がけた。授業の中では理解度を確認するために公認会計士短答式試験を利用した8回の短答式小テストを行い、また授業期間中3回の論文式小テストを行った。特に論文式については、最初は論文作成が難しかった受講生も論文作成の練習回数を重ねるごとに論文を作成できるようになっていた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

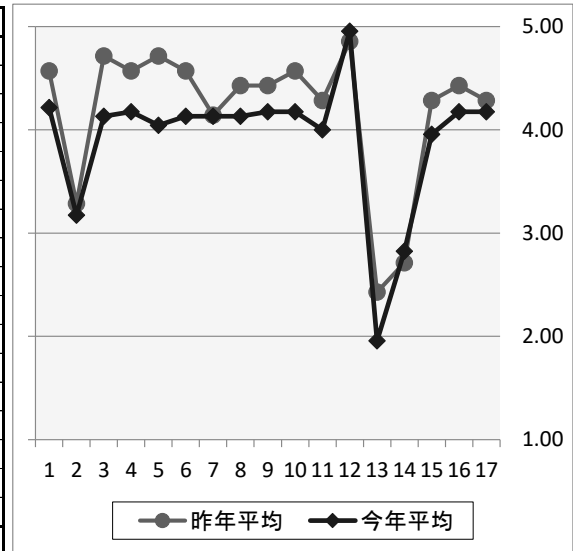
ここ最近の傾向であるが、A1クラスと同様に企業法受講生の学力が向上してきている。以前よりも受講生の授業理解度が高く、小テスト(特に論文式)の結果を見ても成績が上がってきている。これはA2クラスに所属する2年生受講生も同様である。これを踏まえて、次年度以降は、受講生の学力を見極めて、もう少し授業のレベルをあげていくことを考えたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の対応においても、A1クラスと同様に、企業法は、本会計研究科の法学に関する基礎の科目を構成するので、すでに企業法を学習した学生については理解を再確認してもらい、ないしより理解を深めてもらい、法学初学者については、必要最低限の法学に関する学力を身に付けてもらいたい。そのためにも授業を受けて終わりというのではなく、授業中に行う小テスト等を利用して、受講生にはよりしっかりと理解してもらえよう、多くの学生(特に苦手とする)が時間外学修(予習復習等)に取り組むような工夫をしていきたい。

科目	会計専門職業倫理(A1)		
配当年次	2	開講時限	春木1
受講者数	25	回答者数	23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.22	4	5	2
2	3.29	3.17	3	5	3
3	4.71	4.13	4	5	3
4	4.57	4.17	4・5	5	3
5	4.71	4.04	4	5	3
6	4.57	4.13	4・5	5	2
7	4.14	4.13	4	5	2
8	4.43	4.13	4・5	5	2
9	4.43	4.17	4	5	3
10	4.57	4.17	4	5	3
11	4.29	4.00	4	5	3
12	4.86	4.96	5	5	4
13	2.43	1.96	2	5	1
14	2.71	2.83	2	5	1
15	4.29	3.96	4	5	1
16	4.43	4.17	4	5	1
17	4.29	4.17	4	5	3
回答者数	7	23			



受講生の傾向

受講生25名のクラスであり、うち留学生が約10名受講していた。全般的に真面目且つ前向きに学習に取り組んでいたものと見られる。留学生のレベルはかなり開きがあり、中には日本語の理解も十分できない者もあり、かなり配慮が必要な局面もあった。今回は、アンケートの回収に協力を呼びかけたことから、25人中23人の回答が得られた。そのためか、全般にやや昨年より低めの数値となっているが、概ね同様の傾向といえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

事例研究の課題を早めに割り当て、グループ毎に早めに分析等の取組みを行うよう促した。(ただし、その結果を見ると、必ずしも掘り下げが十分であったとはいえないグループもあった。)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

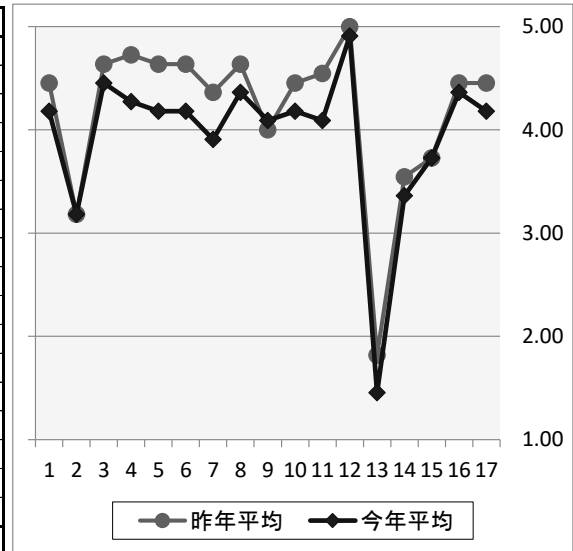
職業倫理の重要性を再認識する機会を与えるとともに、自らで倫理抵触事例の問題点を掘り下げようとする自発的な取組みを促していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業内容に関しては、今後、標準テキストの利用が可能となることから、これまで不足していたような観点を加えて授業を進めていくのが良いと考えられる。事例研究などは、即席ではなく、じっくり取り組んで欲しいため、必要に応じて、進捗度等を管理していくことも検討してほしい。

科目	会計専門職業倫理(A2)		
配当年次	2	開講時限	春木2
受講者数	22	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.45	4.18	4	5	4
2	3.18	3.18	3	4	3
3	4.64	4.45	4	5	4
4	4.73	4.27	4	5	4
5	4.64	4.18	4	5	3
6	4.64	4.18	4	5	3
7	4.36	3.91	4	5	2
8	4.64	4.36	4	5	4
9	4.00	4.09	4	5	3
10	4.45	4.18	4	5	3
11	4.55	4.09	4	5	3
12	5.00	4.91	5	5	4
13	1.82	1.45	1	3	1
14	3.55	3.36	3・5	5	1
15	3.73	3.73	4	5	2
16	4.45	4.36	4・5	5	3
17	4.45	4.18	4	5	2
回答者数	11	11			



受講生の傾向

受講生の内訳は、公認会計士志望者15名、税理士志望者5名、一般企業の経理部等への希望者2名の計22名で、うち留学生は2名であった。必修科目でもあり出席率はよく、受講態度も良好であり、課題もほぼ期日内に提出されていた。課題の内容については、ほとんどが丁寧に取り組む姿勢が伺える一方、簡略な記載にとどまる者も見受けられ、ややばらつきがみられた。発表を含むグループワークについては、班ごとに、熱心さ、丁寧さなど取り組み方に差異が見られるものの、概ね、資料収集、資料作成、内容検討、発表等それぞれが役割分担し、チームワークよく取り組んでいた。最終的な感想としては、熱心に取り組んだ班の方が満足度は高かったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

できるだけ講義内で質疑応答をすることにより、受講生の発言を促し、一方的な講義とならないように心がけた。また、プレゼンテーションの質疑やディスカッションは、いったん小グループでの話し合いの時間を経て発表する形式としたことで、全体として発言しやすいようになったと感じている。また、教員はグループ内の話し合いの際、グループを回って、様々な意見やまとめていく過程を聞き、発言者以外の意見、取り組み方などにも留意するようにした。講義全体のカリキュラムは制度説明、DVD鑑賞、ディスカッション、プレゼンテーションと方法が多岐にわたっており、受講生にとって興味深かったものは各々異なるものの、ケース・スタディや講義中の質疑などでも受講生が主体的に関わることができるよう、考える時間を確保し、小グループでのディスカッションを実施し、発言する機会を設けたことは、結果的に具体的なイメージが理解できた、答えの背景を考えることができたなど、好意的な意見が多かった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

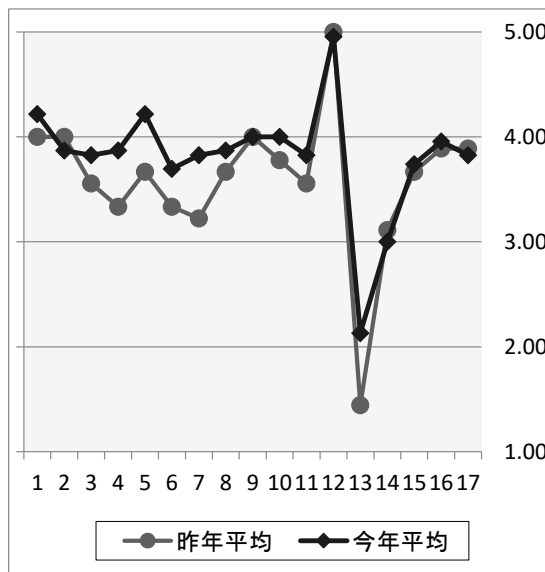
引き続き、質疑応答、ケース・スタディ、グループワーク等を通じ、受講生が主体的に講義に取り組めるように努める。ディスカッションは、やや特定の受講生に発言が偏りがちであったため、議題を早期に提示するなどし、受講者全員に発言の機会を求めると、受講生が主体的に参加できるような工夫をしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、質疑応答などを中心に、座学中心ではなく受講生が主体的に講義に取り組めるように努める。ディスカッションについても、まず小グループでの意見交換を経るなど、発言しやすい雰囲気を作ることに留意する。

科目	会計基準論		
配当年次	1	開講時限	春月1
受講者数	31	回答者数	23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.22	4・5	5	1
2	4.00	3.87	4	5	1
3	3.56	3.83	4	5	1
4	3.33	3.87	4	5	1
5	3.67	4.22	4・5	5	1
6	3.33	3.70	4	5	1
7	3.22	3.83	4	5	1
8	3.67	3.87	4	5	1
9	4.00	4.00	4	5	1
10	3.78	4.00	4	5	1
11	3.56	3.83	4	5	1
12	5.00	4.96	5	5	4
13	1.44	2.13	2	5	1
14	3.11	3.00	3	5	2
15	3.67	3.74	4	5	1
16	3.89	3.96	4	5	1
17	3.89	3.83	4	5	1
回答者数	9	23			



受講生の傾向

基本的にほとんど全ての受講生が真摯に受講していると感じたが、月曜1時限であることからか全出席の受講生が少なめであった。また、冒頭数回の授業において、まだ自分なりの学習方法が定まっておらず戸惑っている受講生が少なからずいたように感じるが、回を追うごとにこの点は解消できていったようである。オフィス・アワーを活用して、対応しようとした受講生もあり、学習に対して真摯であった印象を受けた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度において、教科書とした書籍を取得せずに教員による配布資料のみで受講する受講生が増えていると感じたため、教科書とした書籍の取得を前提とせず、著作権上問題のない資料を除き、全ての資料を関大LMSを通じて配布した。また、配布する資料と提示に留める資料を明確にしつつ、受講生に学習のポイントを認識できるよう促した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

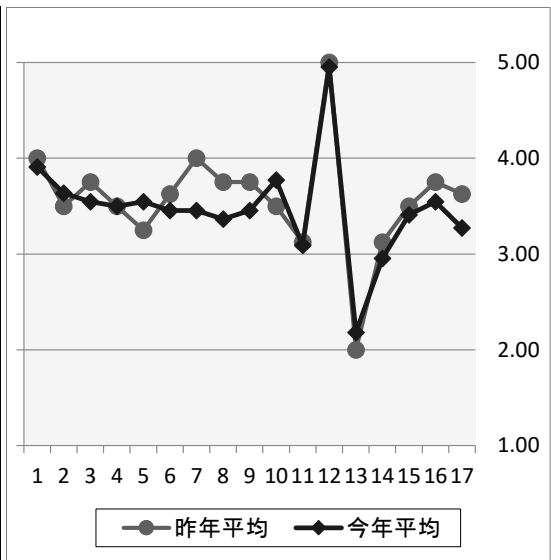
アンケート結果から、昨年度より予習・復習の時間が減少し、一方で従来どおりの対面授業での講義資料を教員の準備不足であると感じる受講生が増えていると思われる。「受講生の傾向」に示したとおり、受講生の受講方法あるいは学習ツールに変化が生じている結果として生じた現象であると想像され、このような変化に適合するように学習の誘導や資料作成を調整する工夫を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の反応が全体的に良くない状態となった昨年度よりは受講生の反応が改善したと思われる。資料の配布や提示については今年度の方法を維持しつつ、追加学習や予習復習につながるような資料を逐次追加作成するなどの工夫を講じるつもりである。

科目	会計制度論		
配当年次	1	開講時限	春月4
受講者数	26	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	3.91	4	5	1
2	3.50	3.64	4	5	2
3	3.75	3.55	3	5	2
4	3.50	3.50	4	5	1
5	3.25	3.55	4	5	1
6	3.63	3.45	4	5	1
7	4.00	3.45	4	5	1
8	3.75	3.36	4	5	1
9	3.75	3.45	3・4	5	1
10	3.50	3.77	4	5	1
11	3.13	3.09	4	5	1
12	5.00	4.95	5	5	4
13	2.00	2.18	1・2	5	1
14	3.13	2.95	3	5	1
15	3.50	3.41	4	5	1
16	3.75	3.55	4	5	1
17	3.63	3.27	4	5	1
回答者数	8	22			



受講生の傾向

回答者数は十分に思われるので一般的な傾向が読み取れる。満足度が3.1とやや低く、出席はほぼ皆勤、時間外の学習は低い。目安にしている項目2「授業の進捗」が3.64と高いのは、消化不良を意味している(最適は3.0)。全体としてみれば、勉強についていけない履修生が多くいたことを示す。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全体的な傾向は昨年度とあまり変わらない。勉学意欲を高めようとした試みが成功していないように思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

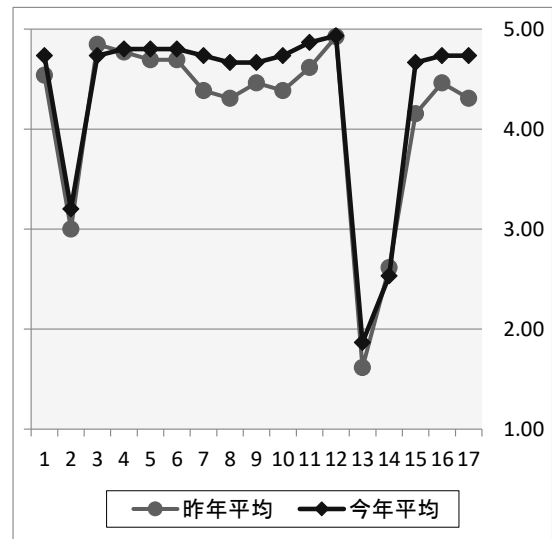
昨年度に記した対応(対面での授業として、教室での対話を増やす)が今年の受講者に受け入れがたく勉学意欲を下げたのであれば、教室での議論を下げて、講義外での課題を増やす(つまり昨年の方針へ少し戻す)が必要かと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年の担当はない。

科 目	商取引法		
配当年次	1	開講時限	春金4
受講者数	21	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.73	5	5	4
2	3.00	3.20	3	4	3
3	4.85	4.73	5	5	4
4	4.77	4.80	5	5	4
5	4.69	4.80	5	5	4
6	4.69	4.80	5	5	4
7	4.38	4.73	5	5	4
8	4.31	4.67	5	5	3
9	4.46	4.67	5	5	4
10	4.38	4.73	5	5	4
11	4.62	4.87	5	5	4
12	4.92	4.93	5	5	4
13	1.62	1.87	1・2	4	1
14	2.62	2.53	3	4	1
15	4.15	4.67	5	5	3
16	4.46	4.73	5	5	4
17	4.31	4.73	5	5	4
回答者数	13	15			



受講生の傾向

今年度「商取引法」受講者は21人であった。「商取引法」は、商法と金融商品取引法を扱い、範囲は広く難易度も高いが、受講生はほとんどが出席率もよく、受講態度もまじめであった。1年生はほとんどが企業法と同時並行で受講していることになるが、企業法は基礎のみを学習するが、商取引法はその分野においては、基礎から応用にいたるまで扱うので、企業法に比べて商取引法を難しく感じる学生がいたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

商取引法は扱う範囲が広いが、その広い範囲をむらなく網羅的に理解できるよう心がけた。その反面、詳細については授業から割愛せざるを得なくなったが、この点は授業動画を別途LMSにUPするなどして、学生の自習にゆだねることとした。ただ、網羅的に扱うとメリハリのない授業となりがちであるのでこの点を気遣った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

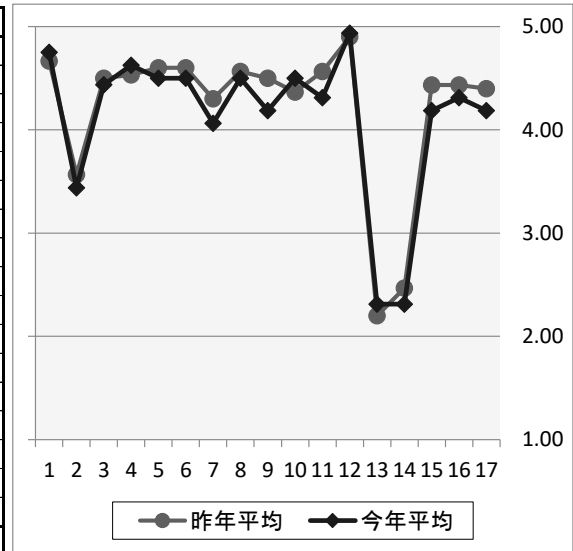
この商取引法という授業は、商法総則商行為法および金融商品取引法を扱うものであるから、分量も多くやや難易度も高い。さらには、1年生の春学期からの授業ということもある。そういう意味では、15回の授業を効率的に進めていくのと同時に、動画等を利用した補助教材を併せて、効果的な授業を行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記でも述べたが、商取引法は扱う範囲が広く、進度・難易度ともに動画教材等を利用するなどの試みを続けながら、今後は学生が全範囲をむらなく網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるがより踏み込んだ議論にも言及して、メリハリのある授業を行っていきたいと思う。

科目	法人税法		
配当年次	1	開講時限	春金4
受講者数	19	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.75	5	5	4
2	3.57	3.44	3	5	3
3	4.50	4.44	4	5	4
4	4.53	4.63	5	5	3
5	4.60	4.50	5	5	3
6	4.60	4.50	5	5	3
7	4.30	4.06	4	5	2
8	4.57	4.50	4・5	5	4
9	4.50	4.19	5	5	2
10	4.37	4.50	4・5	5	4
11	4.57	4.31	5	5	2
12	4.90	4.94	5	5	4
13	2.20	2.31	2	5	1
14	2.47	2.31	2	5	1
15	4.43	4.19	4	5	2
16	4.43	4.31	4	5	2
17	4.40	4.19	4	5	2
回答者数	30	16			



受講生の傾向

受講生19名の構成は、公認会計士志望者が12名、税理士志望者が7名であった。授業評価アンケートNo.10(クラスの規模)の結果が改善された理由は、昨年度32名の受講生に対し、今年度は19名に減少したことによると思われる。今年度の受講生の傾向としては、昨年度と同様、既修者と初学者との理解度の差が大きく、特に、過去問の解答を述べさせると歴然であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義レジュメを公認会計士試験の過去問に対応した内容に変更した。当該レジュメの内容をベースに受講生に過去問に取り組む時間を提供後、少なくとも3名以上から解答を述べさせ、受講生間で誤りの解答情報を共有するように努めた。また、過去問には最高裁判決に依拠して作成されているものがあるため、合計10回の課題レポートを受講生に課し、また、講義レジュメでも最新の租税判例の情報をフォローするようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

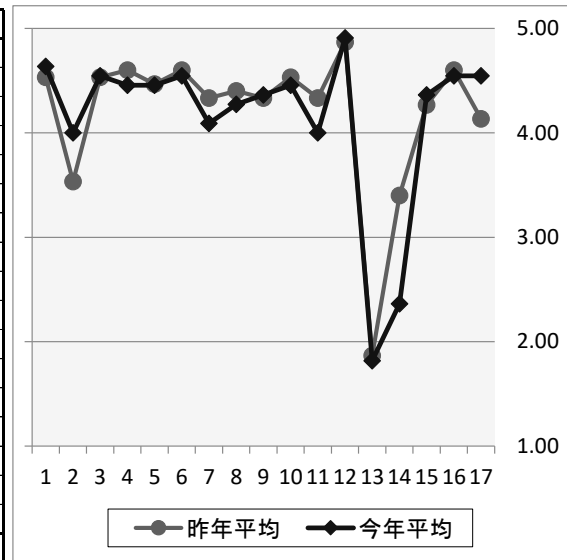
まず、公認会計士試験の過去問に対し、複数の受講生に解答を述べさせる方法は、誤解答の傾向が明らかになる点で、単なる情報共有以上の意味を有しているように思われたため、次年度も引き続き実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の過去問に対応した講義レジュメの作成は、有効だったと思われる。次年度も令和5年度の公認会計士試験の過去問を新たに追加し、それに対応した講義レジュメを作成したい。また、少なくとも3名以上から過去問の解答を述べさせる方法は、受講生に他の受講生の解答との違いによって、理解が深まっているようであった。授業時間の制約もあるが、次年度も実施したい。

科目	上級税務会計論		
配当年次	1	開講時限	春木4
受講者数	18	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.53	4.64	5	5	4
2	3.53	4.00	3・5	5	3
3	4.53	4.55	5	5	4
4	4.60	4.45	4	5	4
5	4.47	4.45	5	5	3
6	4.60	4.55	5	5	3
7	4.33	4.09	4・5	5	3
8	4.40	4.27	4	5	3
9	4.33	4.36	4・5	5	3
10	4.53	4.45	4	5	4
11	4.33	4.00	4	5	1
12	4.87	4.91	5	5	4
13	1.87	1.82	1	3	1
14	3.40	2.36	2・3	4	1
15	4.27	4.36	4・5	5	3
16	4.60	4.55	5	5	4
17	4.13	4.55	5	5	4
回答者数	15	11			



受講生の傾向

今年度の受講生の傾向として、公認会計士志望者が税理士志望者よりも多く、また、前者は税務会計の既修者が多く、初学者である他の受講生との理解度の差は歴然としていた。昨年度よりも授業の進捗が早いという結果は、その現れと思われる(アンケートNo.2)。本科目は予習よりも復習に時間のかかる科目であるが、昨年度に比べ、復習時間が減少していた(アンケートNo.14)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第一は、昨年度と同様、公認会計士試験の過去問の解答を授業開始時点で予め配布し、計算プロセスを中心に講義を行った。第二は、第9回講義以降の内容を見直して負担の均等化を図るとともに、頻出度の高いものから順に講義で取り扱うことにした。第三は、各回の講義の最初に前回の復習問題を解答、解説する時間を設けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

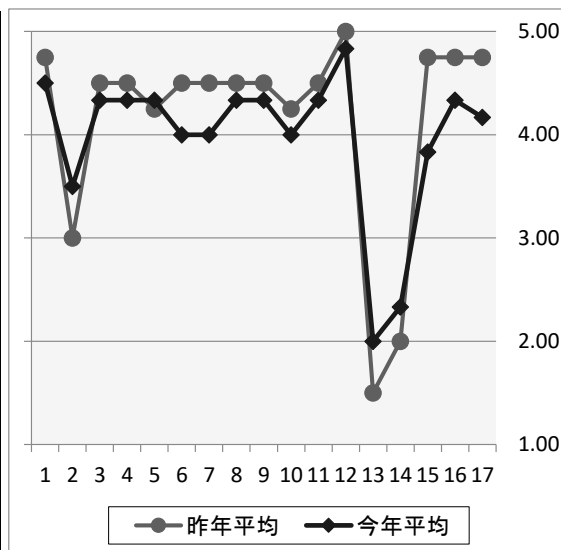
まず、公認会計士試験の過去問の解答を授業開始時点で配布し、計算過程を主として解説する方法は、初学者の定期試験の結果から有効であったと思われるため、次年度も引き続き継続したい。次に、第9回講義以降に取り扱う項目の見直しは今年度有効であったと思われるが、取り扱うべき項目が増えていく状況下、次年度も更なる見直しを検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の過去問を項目ごとにまとめた講義レジュメに基づく講義は非常に有益だった、と受講生から聞いているため、次年度も継続したい。なお、授業時間の制約から全ての過去問を取り入れて講義を行うことは無理なため、講義内で取り扱う公認会計士試験の過去問を選別し、講義レジュメのボリュームをコントロールしたい。

科目	特殊講義(自治体マネジメントと監査) <特殊講義(公監査論)>		
配当年次	1	開講時限	春金1
受講者数	7	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.50	3	5	3
3	4.50	4.33	4	5	4
4	4.50	4.33	4	5	4
5	4.25	4.33	4	5	4
6	4.50	4.00	4	5	2
7	4.50	4.00	4	5	2
8	4.50	4.33	4	5	4
9	4.50	4.33	4	5	4
10	4.25	4.00	4	5	2
11	4.50	4.33	4	5	4
12	5.00	4.83	5	5	4
13	1.50	2.00	2	3	1
14	2.00	2.33	2	3	2
15	4.75	3.83	4	5	2
16	4.75	4.33	4	5	4
17	4.75	4.17	4	5	3
回答者数	4	6			



受講生の傾向

公監査には事前の知識のない受講生が殆どであった。それらの者にも分かるような事例を交えた説明を行ったり、身近な基礎自治体に係る発表を行わせたりした。アンケートに対しては積極的に協力してくれたことは良かったと思う(最終日、1名欠席)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の関心が持てるよう極力身近な最近の話題を取り上げ、解説するようにした。また、自らの住む自治体に関する課題を与えて報告させた。恐らく初めて自分たちの住む町のことを調べたものと思われ、やや公的部門への関心が持てたように感じられた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

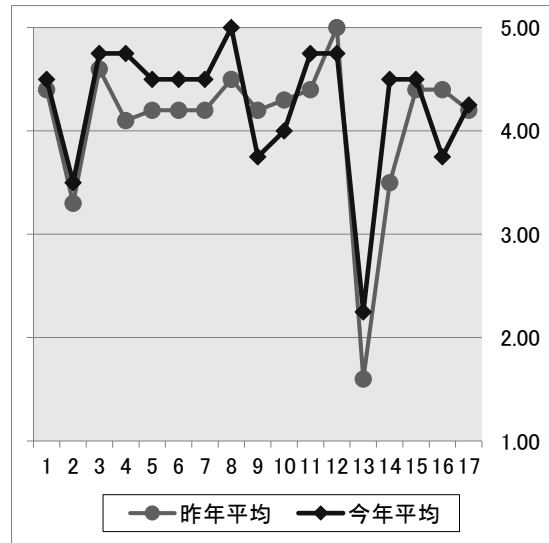
受講生の関心が持てるようさらに身近な話題を取り上げ、課題を与えて積極的に調べ報告するなどの方策を採りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

やはり最近話題となっているトピックを取り上げるのが最も有効と思われる。そのため、すべてのテーマに関して、「ああ、そういうことだったのか」と改めて納得できるような説明の仕方を工夫したい。

科目	特殊講義(資本市場論)		
配当年次	2	開講時限	春水2
受講者数	8	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.50	4・5	5	4
2	3.30	3.50	3	5	3
3	4.60	4.75	5	5	4
4	4.10	4.75	5	5	4
5	4.20	4.50	4・5	5	4
6	4.20	4.50	4・5	5	4
7	4.20	4.50	4・5	5	4
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.20	3.75	3	5	3
10	4.30	4.00	4	4	4
11	4.40	4.75	5	5	4
12	5.00	4.75	5	5	4
13	1.60	2.25	1	4	1
14	3.50	4.50	4・5	5	4
15	4.40	4.50	4・5	5	4
16	4.40	3.75	5	5	2
17	4.20	4.25	5	5	3
回答者数	10	4			



受講生の傾向

受講生の内訳は公認会計士志望者5名、税理士志望者1名、一般企業等への就職希望者2名、その他社会人1名(複数希望を含む)の計8名で、うち留学生は1名であった。履修理由としては、会計専門職として資本市場への理解を深めたいというものが多く、その他は投資への興味があるため、などであった。将来役立つ知識を得たいという目的もあり、全体的に受講態度も良好で、課題もほぼ期限内に提出されており、講義中の質疑応答にも前向きに取り組んでいた。講義内に演習も取り入れ、また、グループワークを2回行い、グループ単位でのプレゼンテーションを行ったが、資料収集、資料作成、発表とチームワークよく取り組んでおり、発表内容もよく検討されており、熱心に取り組んだ姿勢が伺えた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の当初に、ある記事を提示し、この内容が理解できることがゴールと伝えることで、受講生も最終的な目標が見えやすく、何を学ぶかが明確になったのではと感じている。講義内容の前提となる知識については、できるだけ講義内容で解説し、復習課題(レポートや演習)を行うことで、受講生の知識の定着度・理解度を確認するようにした。また、受講生が興味を持てるように、事業内容と関連する事例を多く取り上げたことは、イメージを持てることができた、実践的な講義だったとの感想もあり、好評であった。グループワークでは、講義内にグループで討議する時間を設け、教員も巡回することで、議論の過程を確認するようにした。グループワークによるプレゼンテーションは、時間もかかり、受講生への負担も多い半面、受講生が主体的に関わる機会であり、受講生の感想としても、大変だったが学びも多く良い機会となったとの意見があった。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

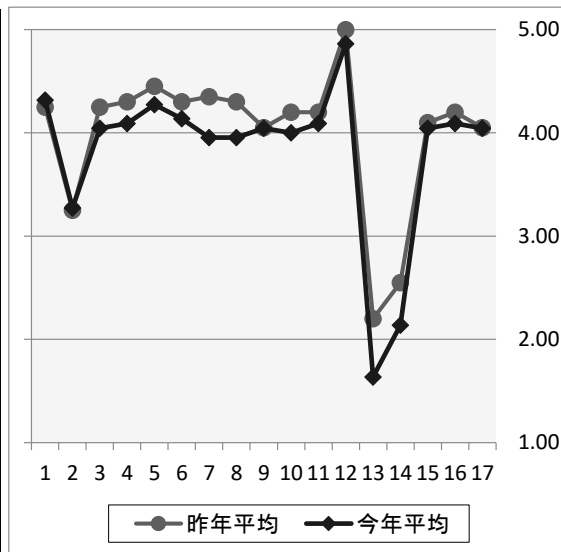
受講生各人の学習の進捗度等に配慮しつつ、グループワーク、ディスカッション等を積極的に取り入れ、全体的な知識の習得の底上げを図り、受講生が主体的に講義に取り組めるように努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題や質疑応答で受講生の知識の定着などを確認しながら、グループワーク等を取り入れるなど、引き続き受講生が主体的に関わるように努める。また、会計専門職として資本市場に関して将来役立つ知識を事例や実務経験を通して伝えていくように心がける。

科目	特殊講義(不正摘発監査論)		
配当年次	2	開講時限	春水3
受講者数	26	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.32	4	5	3
2	3.25	3.27	3	4	3
3	4.25	4.05	4	5	3
4	4.30	4.09	4	5	3
5	4.45	4.27	4	5	3
6	4.30	4.14	4	5	3
7	4.35	3.95	4	5	3
8	4.30	3.95	4	5	3
9	4.05	4.05	4	5	3
10	4.20	4.00	4	5	2
11	4.20	4.09	4	5	3
12	5.00	4.86	5	5	4
13	2.20	1.64	1	5	1
14	2.55	2.14	2	5	1
15	4.10	4.05	4	5	3
16	4.20	4.09	4	5	2
17	4.05	4.05	4	5	3
回答者数	20	22			



受講生の傾向

公認会計士試験の勉強している人が多く、皆熱心に講義を聴いている。レポートの内容もよく、期末テストの結果も概ね良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

こちらから積極的に問いかけ、答えてもらう形式にはできたと思う。復習と予習の時間が少ない問題に対しては、課題やレポートを増やした。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

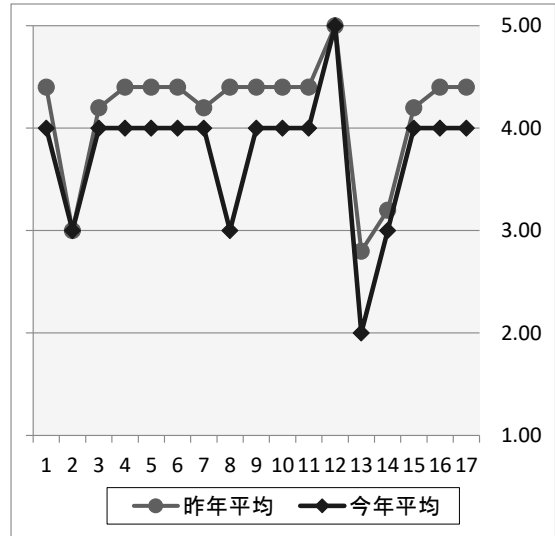
ディスカッション形式も取り入れて、生徒同士の議論でより理解が深まるようにしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ディスカッション形式は難しいので、知識や思考力の定着に向けて、課題とレポートを今年度より増やしたい。

科目	特殊講義(企業マネジメントと会計)		
配当年次	1	開講時限	春火4
受講者数	6	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.20	4.00	4	4	4
4	4.40	4.00	4	4	4
5	4.40	4.00	4	4	4
6	4.40	4.00	4	4	4
7	4.20	4.00	4	4	4
8	4.40	3.00	3	3	3
9	4.40	4.00	4	4	4
10	4.40	4.00	4	4	4
11	4.40	4.00	4	4	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.80	2.00	2	2	2
14	3.20	3.00	3	3	3
15	4.20	4.00	4	4	4
16	4.40	4.00	4	4	4
17	4.40	4.00	4	4	4
回答者数	5	1			



受講生の傾向

回答者数が1なのでクラス全体の傾向は測りえない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一人なので特定意見になるが、進捗は最適、授業は皆勤、時間外学習は十分と言える。満足度等は昨年の平均よりやや低いものの、概して高いと言える。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

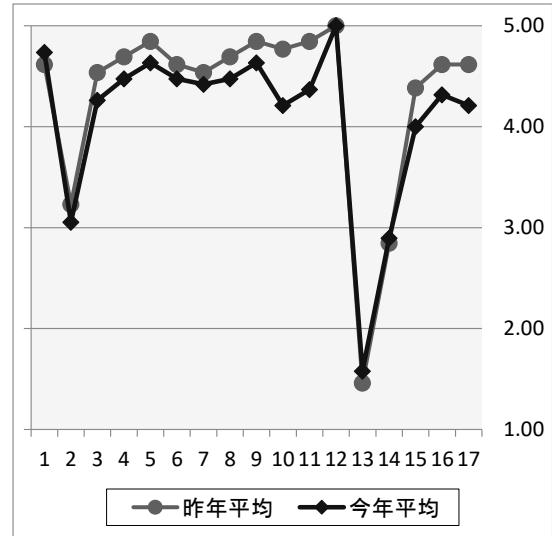
昨年同様に評価が高かったようなので、来年の授業も継続したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年の担当はない。

科目	IFRS会計論		
配当年次	2	開講時限	春火2
受講者数	20	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.62	4.74	5	5	4
2	3.23	3.05	3	4	3
3	4.54	4.26	4	5	4
4	4.69	4.47	4	5	4
5	4.85	4.63	5	5	4
6	4.62	4.47	5	5	3
7	4.54	4.42	4	5	4
8	4.69	4.47	4	5	4
9	4.85	4.63	5	5	4
10	4.77	4.21	4	5	2
11	4.85	4.37	4	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.46	1.58	1	4	1
14	2.85	2.89	2	5	1
15	4.38	4.00	4	5	3
16	4.62	4.32	4	5	3
17	4.62	4.21	4	5	3
回答者数	13	19			



受講生の傾向

就職活動等で1ないし2回ほど欠席する受講生が散見されたが、それ以外での欠席はなく真摯に受講していたと思われる。また、今年度より公認会計士の実務補修所での単位読み替え制度の対象となったことから受講生が多くなっていたが、従来どおりの受講生は半分弱となっている。事前に配布した資料をそれぞれ準備し、復習にも充分時間を割き、理解を深めようとする受講生がほとんどであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の半分以上が実務補修所での単位読み替えの利用を考えていることから、近い将来に公認会計士となるつもりである受講生がほとんどであり詳細は必要に応じてその時に各自必要に応じて学習すると認識し、IFRSの各基準の基本的な考え(日本基準との比較を踏まえつつ)や骨格となる重要部分の理解に注力し、小テストについてもそれを意識して作成した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

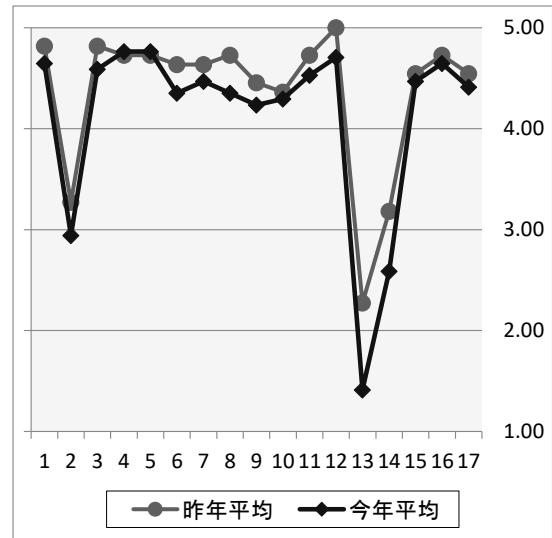
受講生のほとんどがアンケートに回答していることから、全体傾向であると理解している。受講生の反応は、昨年度に引き続き、概ね良好であるため、基本的に各基準の重要内容に絞りこみ、特徴の理解のしやすさを維持しようとする。さらに、できるだけ日本基準との比較における理解も深まるよう工夫を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の反応は、昨年度に引き続き概ね良好であると思われる。昨年度と比較し、結果が悪くなった項目とよくなった項目があり、制度変更により受講した受講生と従来どおりの希望で受講した受講生が混在した結果と受け止めているが、いずれの受講生であっても学習意欲がたかまるような工夫を講じつつ、基本的に各基準の重要内容に絞りこみ、特徴の理解のしやすさを維持しようとする。

科 目	上級会社法		
配当年次	2	開講時限	春木3
受講者数	19	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.82	4.65	5	5	4
2	3.27	2.94	3	4	2
3	4.82	4.59	5	5	4
4	4.73	4.76	5	5	4
5	4.73	4.76	5	5	4
6	4.64	4.35	4・5	5	2
7	4.64	4.47	4	5	4
8	4.73	4.35	5	5	3
9	4.45	4.24	4・5	5	3
10	4.36	4.29	4	5	3
11	4.73	4.53	5	5	4
12	5.00	4.71	5	5	4
13	2.27	1.41	1	3	1
14	3.18	2.59	2	4	1
15	4.55	4.47	4	5	4
16	4.73	4.65	5	5	4
17	4.55	4.41	4・5	5	3
回答者数	11	17			



受講生の傾向

上級会社法は、公認会計士試験や企業法をとりわけ得意にしたい学生が受講する科目であるが、今年度はそれにもかかわらず19名の受講生があった。レベルとしては公認会計士試験レベルの高度なものを扱い、かつ企業法はもちろん会社法を十分に理解していることを前提とする授業であるから、それを認識している受講生であるので、全体として授業に対して熱心で授業態度もよく積極的であった。また、授業進度・レベルについても問題なかったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本科目は、企業法関連の科目としては、公認会計士試験を目指す学生が多い科目であるので、特に難易度の高い論文作成指導などを中心として授業を行うことによって各学生に対応するというを行い、極力一人一人をきめ細かく指導するようにして、個々の理解を深めることを心掛けた。それと同時に、それぞれの学生の能力を見極めながら進度およびレベルについてバランスをとるように授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

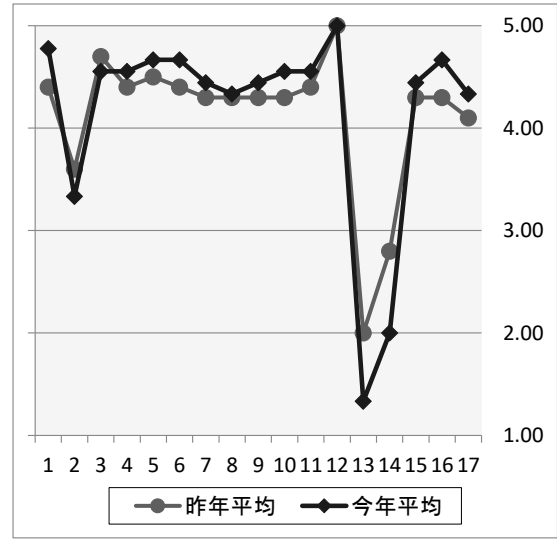
今年度はこれまでと同様に全15回対面授業となり、今後もおそらく従来通りの対面授業に戻ると思われる。そういう状況であっても、対面授業の良さを生かしながら、オンライン授業の中で得た授業方法も取り入れて、より効果的な授業となるよう心掛けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記において示したように、本授業では難易度の高い論文作成指導を通じて、各受講生の学習進度やレベルを把握して、きめ細かな指導を行っていきたい。そして、企業法および会社法と継続する科目であるので、これまでの各受講生の学習進度・レベルや弱点等を把握したうえで、効率的な授業を進める工夫を行いたい。

科目	国際税務論		
配当年次	2	開講時限	春金2
受講者数	9	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.78	5	5	4
2	3.60	3.33	3	4	3
3	4.70	4.56	5	5	4
4	4.40	4.56	5	5	4
5	4.50	4.67	5	5	4
6	4.40	4.67	5	5	4
7	4.30	4.44	4	5	4
8	4.30	4.33	4	5	4
9	4.30	4.44	4	5	4
10	4.30	4.56	5	5	4
11	4.40	4.56	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	1.33	1	3	1
14	2.80	2.00	1・2・3	3	1
15	4.30	4.44	4	5	4
16	4.30	4.67	5	5	4
17	4.10	4.33	4	5	4
回答者数	10	9			



受講生の傾向

受講生は、税理士志望者8名と会計士志望者1名から構成され、全員が国際租税法の初学者であった。予習と復習に充てる時間が昨年度よりも減少している(アンケートNo.13及び14)点は気になるが、授業では全員が真面目に公認会計士試験の過去問を解くことなどに取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第一は、講義レジュメの見直しを行った。具体的には、まず学習すべき内容の全体像を示し、次に個々の内容を紹介するスタイルを採用した。第二は、公認会計士試験の過去問に加えて、事例問題を用いて、受講生に出来る限り、条文の当てはめを学ぶ時間をとるようにすべく、受講生との質疑応答にウェイトを置いた講義を行った。第三は、国際租税法の解釈適用の理解向上を目指し、図を多用したことである。これは、テキストに図解シリーズを採用しただけでなく、レジュメやホワイトボードにも図を多用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

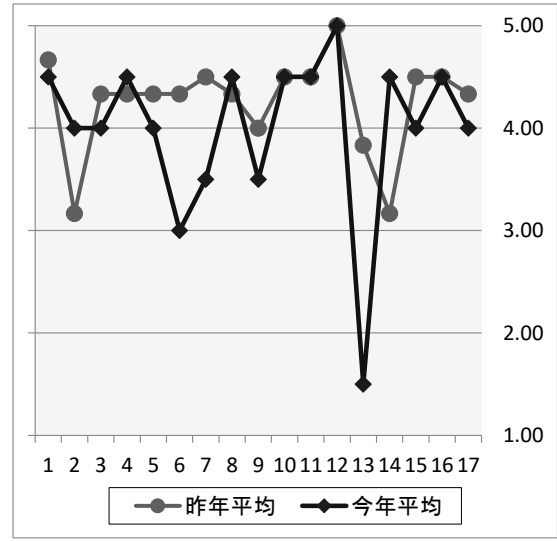
今年度の方法で、受講生に国際租税法のフレームワーク自体を理解させることは出来たように思われる。次年度は、個々の規定の具体的な解釈適用のレベルまで、受講生の理解が及ぶよう講義計画を見直していきたい。具体的には、インバウンド(対内)取引に関する取扱いを学習する時間を増やすことである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度を実施した上記3つの方法は、国際租税法の初学者にとって有益であったように思われるため、次年度も実施したい。なお、国際租税法の領域では取り扱うべき内容が毎年増加していることに鑑み、次年度の講義計画を見直す必要がある。令和5年12月ごろに出される税制改正大綱の内容や公認会計士試験の動向も踏まえつつ、講義で取り扱うべき項目を取捨選択する予定である。

科目	インベストメント論		
配当年次	2	開講時限	春月3
受講者数	7	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	4・5	5	4
2	3.17	4.00	4	4	4
3	4.33	4.00	4	4	4
4	4.33	4.50	4・5	5	4
5	4.33	4.00	3・5	5	3
6	4.33	3.00	3	3	3
7	4.50	3.50	3・4	4	3
8	4.33	4.50	4・5	5	4
9	4.00	3.50	3・4	4	3
10	4.50	4.50	4・5	5	4
11	4.50	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.83	1.50	1・2	2	1
14	3.17	4.50	4・5	5	4
15	4.50	4.00	4	4	4
16	4.50	4.50	4・5	5	4
17	4.33	4.00	4	4	4
回答者数	6	2			



受講生の傾向

昨年の学生に比べると、ファイナンス、特に数学についてあまり分かっていない学生が多く、反転授業的に授業を行うことで、予習を怠るつもりであったが、十分な予習なく授業に臨む学生もいたため、詳しく説明するとともに、言い方を変えて話すようにした。
また、理解するというよりも暗記という学習傾向があり、課題を提出するものの、誤りがあり再提出も見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の学生は、割合優秀だったので、ほぼ同じ授業レベルと内容を行う予定であった。昨年の授業と同様の授業を行うおうとしたが、一部の学生は、反転授業についてこれない面があり、授業の中ではやや苦労した。また、小テストを実施することができなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今回行った授業を元に、オンデマンド授業、ZOOMによる授業のみならず、対面授業においても、今年度行った「反転授業」的要素『前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の揭示(⇒時間外授業で問題解答・提出)』を取り入れた授業を行っていきたい。
さらに、小テスト等も組み合わせ、効果的な授業を行いたい。

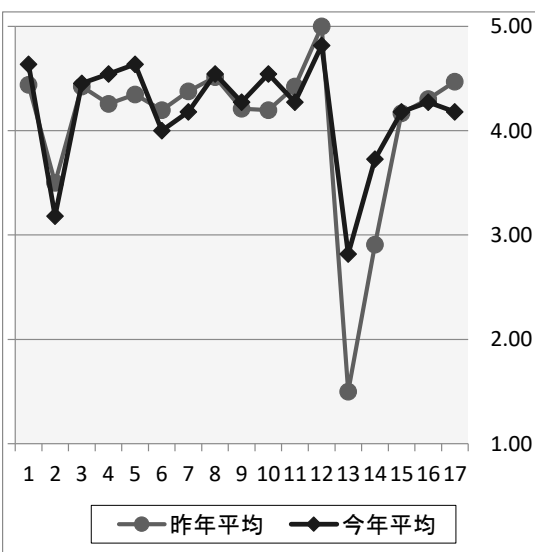
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回行った授業を元に、今年度行った「反転授業」的要素『前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の揭示(⇒時間外授業で問題解答・提出)』を取り入れた授業を行っていきたい。ただし、ついてこれない学生に対しても、落ちこぼれないように、今年の授業の経験をもとに、授業の内容等を工夫していきたい。
さらに、小テスト等も組み合わせ、効果的な授業を行いたい。

科目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	春火1
受講者数	13	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.64	5	5	4
2	3.50	3.18	3	5	3
3	4.42	4.45	5	5	3
4	4.26	4.55	5	5	4
5	4.35	4.64	5	5	4
6	4.20	4.00	5	5	1
7	4.38	4.18	5	5	2
8	4.52	4.55	5	5	3
9	4.21	4.27	5	5	3
10	4.20	4.55	5	5	4
11	4.42	4.27	5	5	3
12	5.00	4.82	5	5	4
13	1.50	2.82	1	5	1
14	2.91	3.73	3	5	2
15	4.17	4.18	5	5	3
16	4.30	4.27	4	5	3
17	4.47	4.18	4	5	3
回答者数	14	11			

※昨年平均数値は、A1・A2クラスの2クラス分の平均値



受講生の傾向

ほとんど受講生が真摯に受講していたと感じた。また、IT関連ということもあり、理解度に差が生じていると感じるが、理解不足をなんとか復習などで補おうとする受講生も少なくなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コンピュータでのデータ処理について、理解しづらい受講生も少なくないことから、板書での説明について、演習のタイミングでの机間巡回の際、全ての受講生に声がけし、気軽に質問しやすい環境づくりに留意しつつ、理解のきっかけとなるような追加の説明を加えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

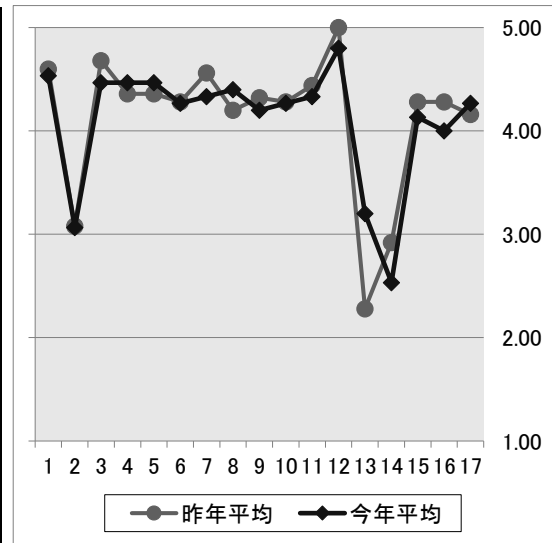
コンピュータの処理について、会計や従来の簿記とは異なり理解しづらいところも多いようであるため、基本的な処理の流れ、相違点や変異点を繰り返し説明することを継続しようと考えている。また、授業内容もアドバンスとなる部分は紹介にとどめて基本形の理解を徹底するつもりである。また、引き続き、演習時には個々の実施状況を把握し、補足的な説明やポイントを強調した説明を繰り返し理解の定着に心がけるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と比較し、受講生の反応がよくなった部分と悪くなった部分があり、より理解しやすい説明を心がけるつもりである。全体としては、昨年度と同様に、コンピュータの処理について、会計や従来の簿記とは異なり理解しづらいところも多いようであるため、基本的な処理の流れ、相違点や変異点を繰り返し説明することを継続しようと考えている。また、授業内容もアドバンスとなる部分は紹介にとどめて基本形の理解を徹底するつもりである。また、引き続き、演習時には個々の実施状況を把握し、補足的な説明やポイントを強調した説明を繰り返し理解の定着を心がけるつもりである。

科目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	春水1
受講者数	16	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.53	5	5	4
2	3.08	3.07	3	4	3
3	4.68	4.47	4	5	4
4	4.36	4.47	5	5	3
5	4.36	4.47	4	5	4
6	4.28	4.27	4	5	3
7	4.56	4.33	4	5	4
8	4.20	4.40	4	5	4
9	4.32	4.20	4	5	3
10	4.28	4.27	4	5	4
11	4.44	4.33	4	5	3
12	5.00	4.80	5	5	4
13	2.28	3.20	4	5	1
14	2.92	2.53	2	4	2
15	4.28	4.13	4	5	3
16	4.28	4.00	4	5	1
17	4.16	4.27	4	5	4
回答者数	25	15			



受講生の傾向

質問項目13の予習時間が昨年の2.28ポイント(「3:1時間程度」より「2:30分程度」より)から3.2ポイントの1時間超へ改善している。それ以外の項目はほぼ昨年と変わらない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・関大LMS添付資料やスライド枚数の削減及び説明論点の絞りこみにより、院生の「解った」感を引き出すよう心掛けた。
- ・グループディスカッションを控える点は継続した。各自発表時のフィードバックはより丁寧に個々へ行き、良い着眼点は口頭でその旨を言うよう心掛けた。
- ・関大LMSへ添付した事前提示資料を事前に斜め読みする事だけでも、授業の理解が深まる点を伝えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

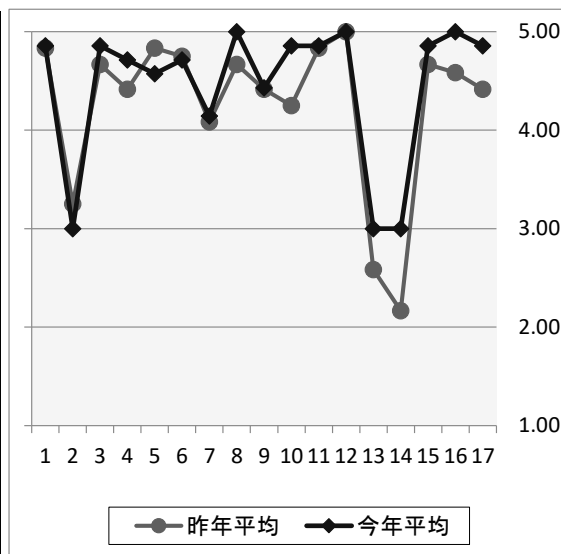
- ・関大LMS添付資料やスライド枚数をもっと削減して説明論点を絞り、院生の「解った」感を引き出す。
- ・グループディスカッションを控える点は継続。各自発表時のフィードバックはより丁寧に個々へ行く。良い着眼点は口頭でその旨を言う。
- ・関大LMSへ添付した事前提示資料を事前に斜め読みする事だけでも、授業の理解が深まる点を伝える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・関大LMS添付資料やスライド枚数の削減は引き続き留意し、院生の「解った」感を引き出すよう心掛ける。
- ・来年は、グループディスカッションを復活させ、2人から3人での発表を進める(ただし、リーダーは明確にする)。各自発表時のフィードバックはより丁寧に行い、良い着眼点へは口頭でその旨を言うよう心掛ける。
- ・関大LMSへ添付した事前提示資料を事前に斜め読みする事だけでも、授業の理解が深まる点を引き続き伝える。

科 目	論文指導(導入)(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	春火5
受講者数	10	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.86	5	5	4
2	3.25	3.00	3	3	3
3	4.67	4.86	5	5	4
4	4.42	4.71	5	5	4
5	4.83	4.57	5	5	4
6	4.75	4.71	5	5	4
7	4.08	4.14	5	5	3
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.42	4.43	5	5	3
10	4.25	4.86	5	5	4
11	4.83	4.86	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.58	3.00	3	4	2
14	2.17	3.00	2	5	2
15	4.67	4.86	5	5	4
16	4.58	5.00	5	5	5
17	4.42	4.86	5	5	4
回答者数	12	7			



受講生の傾向

受講生は、公認会計士と税理士の両方を志望する1名と税理士を希望する9名から構成されていた。いずれも本科目を通じて、最終的には税理士試験の税法2科目免除を希望していた。受講生のうち1名は所得税法の実務経験があるが、その他の受講生は所得税法の初学者であった。アンケートNo.13及び14のとおり、今年度の受講生は昨年度よりも予習と復習に充てる時間が多かったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第一は、受講生に対して条文を報告レジュメに記載するよう指導したことである。第二は、質疑応答の前にグループワーク(3人～4人ずつのペア)の時間を設け、かつ、質疑応答をペア単位で行わせる方法を今年度も採用したことである。第三は、シラバスの内容を租税法の分野に置き換えた講義レジュメを作成し、それに基づく指導を行ったことである。また、受講生の学習向上のため、講義前に講義レジュメをLMSにアップした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

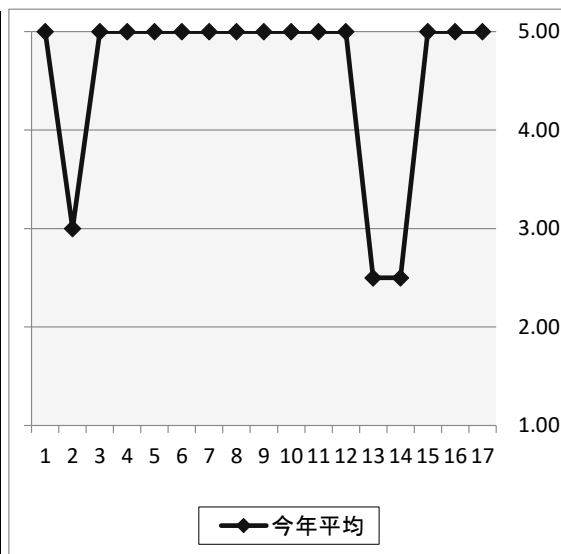
受講生に条文をベースとした質疑応答をしてもらうため、報告レジュメに参考条文を記載させ、条文の内容についても報告させることにしたい。また、質疑応答を活発化させるべく、次年度もペア方式を採用したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度を実施した上記3つの方法は、教育効果として有効と思われるため、次年度も実施したい。なお、第一及び第二の実施にあたり、受講生への継続的な注意喚起は必要である。第一については、受講生が条文を読まずに報告レジュメを作成していたことが多かったためである。第二については、条文とは全く関係のない質疑応答が展開される場面が頻繁に散見されたためである。

科 目	論文指導(導入)(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	春火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.50	2・3	3	2
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	2			



受講生の傾向

受講生は2名ということもあり、授業態度はまじめで、授業に取り組む姿勢も熱心である。また、この授業の最終的な目的は論文作成能力を高めることにあり、自らが主体性を持って授業ないし論文作成に取り組む必要があり、そのような授業の趣旨も理解して、受講しているようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業で工夫した点としては、受講生が論文作成をすることが初めてであるということなので、論文作成に関する基本的な事項(論文を執筆する際の作法等)を丁寧に扱った。また、実際に文章を書く練習を行い、文章の書き方について詳細な指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(昨年度不開講)

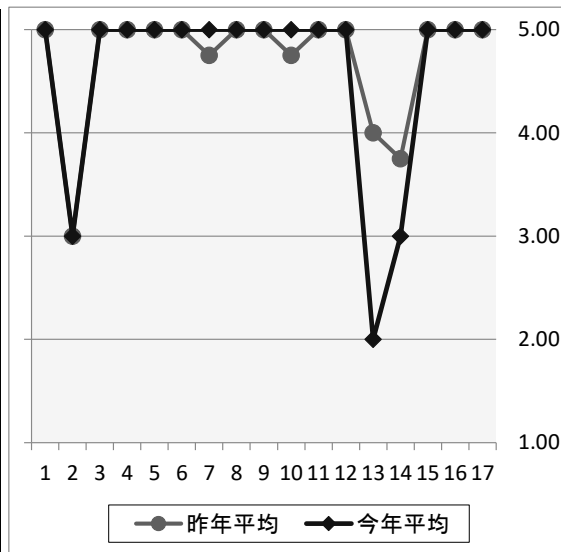
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「論文指導・修士論文(導入)」の授業を終えたが、いまだに導入にあたる部分のすべてを授業の中で扱えたとは思っていない。もっと文章を書く練習を積み重ねる必要があったし、それらの文章についてもっと細かくチェックできればなおよかったと思う。今後はこれをふまえた指導を行えるようにしたい。

Ⅲ-(2). 2023 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科目	中級商業簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋金5
受講者数	5	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	4.75	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.75	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	2.00	2	2	2
14	3.75	3.00	3	3	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	4	1			



受講生の傾向

受講生は、再履修の学生であった。成績評価に必要な所定の出席回数(3分の2以上)を満たした受講生は1名であった。他の受講生は所定の出席回数に達しておらず、なかには、この授業に対して消極的な学生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記一巡の流れを明確に意識するように指導した。取引の仕訳は、パターンとして覚えるのではなく、勘定科目の属性を常に意識してその増減を考えて仕訳し、取引の内容に応じて勘定科目を使い分けるように指導した。講義中は問題演習と質問対応に重点をおき、個々人の習熟度に応じて個別に指導を行った。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

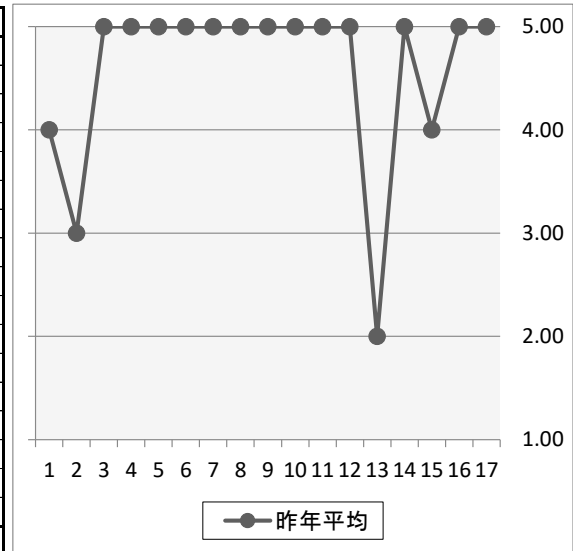
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにした。

中級工業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火2
受講者数	3	回答者数	0

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	—	—	—	—
2	3.00	—	—	—	—
3	5.00	—	—	—	—
4	5.00	—	—	—	—
5	5.00	—	—	—	—
6	5.00	—	—	—	—
7	5.00	—	—	—	—
8	5.00	—	—	—	—
9	5.00	—	—	—	—
10	5.00	—	—	—	—
11	5.00	—	—	—	—
12	5.00	—	—	—	—
13	2.00	—	—	—	—
14	5.00	—	—	—	—
15	4.00	—	—	—	—
16	5.00	—	—	—	—
17	5.00	—	—	—	—
回答者数	1	—	—	—	—

※未実施または未回答のため、今年平均値なし



受講生の傾向

本講義は、工業簿記の知識及び計算技法が十分ではないと判断された学生を対象とした導入科目の再履修クラスである。本年度の受講生の出席率は相当に低かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
欠席が続いた受講生には関大LMSを通じて出席を促した。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

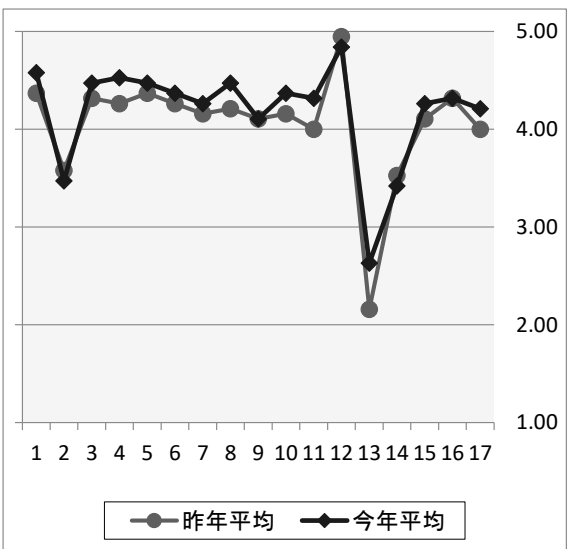
本年度の評点は、全体的に良好であったと解釈している。そのため、次年度も本年度と同様の取り組みを継続することが重要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年度と同様の取り組みを継続する予定である。

科 目	上級簿記論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木4
受講者数	27	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.37	4.58	5	5	3
2	3.58	3.47	3	5	3
3	4.32	4.47	5	5	3
4	4.26	4.53	5	5	3
5	4.37	4.47	5	5	2
6	4.26	4.37	5	5	2
7	4.16	4.26	5	5	2
8	4.21	4.47	5	5	2
9	4.11	4.11	4	5	1
10	4.16	4.37	5	5	3
11	4.00	4.32	4	5	3
12	4.95	4.84	5	5	4
13	2.16	2.63	2	5	1
14	3.53	3.42	3	5	2
15	4.11	4.26	4・5	5	3
16	4.32	4.32	5	5	2
17	4.00	4.21	5	5	1
回答者数	19	19			



受講生の傾向

受講生は、未履修の学生と再履修の学生と入学前履修の学生であった。一部の受講生を除き、全体的に簿記の習熟度は低く、簿記の基礎力に欠ける受講生も多くいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記の習熟度が低い受講生が多く、それに配慮して講義を展開した。複雑な論点よりも基本的で重要な論点を優先的に取り上げるようにした。講義中に問題演習の時間を設け、できるかぎり全員の理解を確認して回った。春学期と同様に課外講座を実施して授業との連携をはかり、受講生のスキルアップを図った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

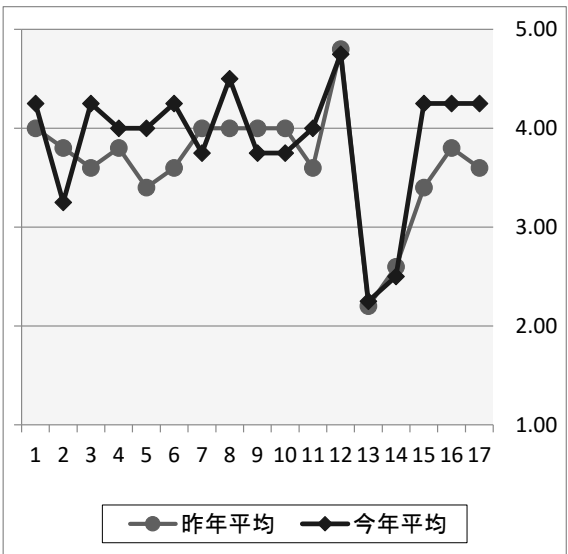
今年度のアンケート結果は昨年度と比べて若干低い項目はあるが、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。ただ、日商2級までの内容を理解できていない受講生に対して、この講義で日商1級レベルの指導をすることには限界がある。授業時間外の学習として講義動画の視聴や積極的な反復練習を勧めることのほか、基礎力の強化として導入科目「中級商業簿記」の履修を推奨していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の履修を促すように指導する。

科目	上級財務会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋火3
受講者数	19	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.25	4	5	4
2	3.80	3.25	3	5	2
3	3.60	4.25	4	5	4
4	3.80	4.00	5	5	2
5	3.40	4.00	4	5	3
6	3.60	4.25	4	5	4
7	4.00	3.75	4	5	2
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	4.00	3.75	4	4	3
10	4.00	3.75	4	4	3
11	3.60	4.00	4	5	3
12	4.80	4.75	5	5	4
13	2.20	2.25	2	3	2
14	2.60	2.50	2・3	3	2
15	3.40	4.25	4	5	4
16	3.80	4.25	4	5	4
17	3.60	4.25	4	5	4
回答者数	5	4			



受講生の傾向

受講生に対する回答数が少ないので本クラスの平均像は示せない。しかし、前年度も同じだとすれば、授業態度も効果も昨年度より上昇していると考えられる。ただし、前年度は講義担当者が別である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業会計原則、ASBJ概念フレームワーク、IASB概念フレームワークの3者を比較し、会計学の基礎概念の習得を徹底させた。講義中には何度も発言を求め、口頭による表現の弱さを修正させた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

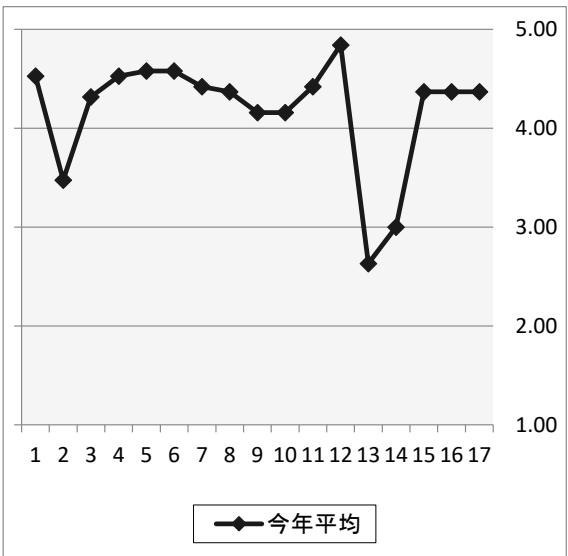
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度は担当者が異なる

科 目	上級原価計算論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋水3
受講者数	26	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.53	5	5	4
2	—	3.47	4	4	3
3	—	4.32	5	5	3
4	—	4.53	4	5	4
5	—	4.58	4	5	4
6	—	4.58	5	5	4
7	—	4.42	4	5	4
8	—	4.37	5	5	4
9	—	4.16	4	5	3
10	—	4.16	4	5	4
11	—	4.42	4・5	5	3
12	—	4.84	5	5	5
13	—	2.63	4	5	2
14	—	3.00	1・2・4・5	5	2
15	—	4.37	4	5	3
16	—	4.37	4	5	3
17	—	4.37	4	5	3
回答者数	—	19			



受講生の傾向

必修科目のため、大変真面目に講義を聴き、真面目に取り組もうという意欲がある学生がほとんどである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初めて受け持ったため、昨年度と比較することはできない。

上級論点であるため難しい内容であるが、なぜこのような計算方法となるかを理解してもらえるように説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

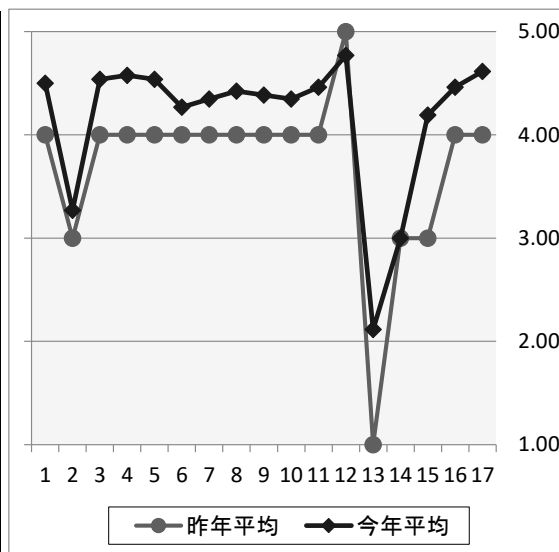
該当なし(担任者変更・昨年度未実施)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度は受け持たないため、特になし。

科目	上級管理会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木2
受講者数	30	回答者数	26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.27	3	5	2
3	4.00	4.54	5	5	3
4	4.00	4.58	5	5	4
5	4.00	4.54	5	5	4
6	4.00	4.27	4	5	2
7	4.00	4.35	4・5	5	2
8	4.00	4.42	5	5	3
9	4.00	4.38	4	5	3
10	4.00	4.35	5	5	3
11	4.00	4.46	5	5	3
12	5.00	4.77	5	5	4
13	1.00	2.12	1	5	1
14	3.00	3.00	2	5	1
15	3.00	4.19	5	5	2
16	4.00	4.46	5	5	3
17	4.00	4.62	5	5	4
回答者数	1	26			



受講生の傾向

本科目は、基本科目の上級管理会計論の秋学期開講クラスである。受講者は概ね授業に対してまじめに取り組んでいた。ただし、例年と同様に、受講者間の知識のばらつきは大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評点は全体的には良好であったとはいえ、一昨年度と比べて評点が低下する傾向にあった。そこで、昨年度は従来の講義方法を継続しながらも、きめこまかな指導を行うように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

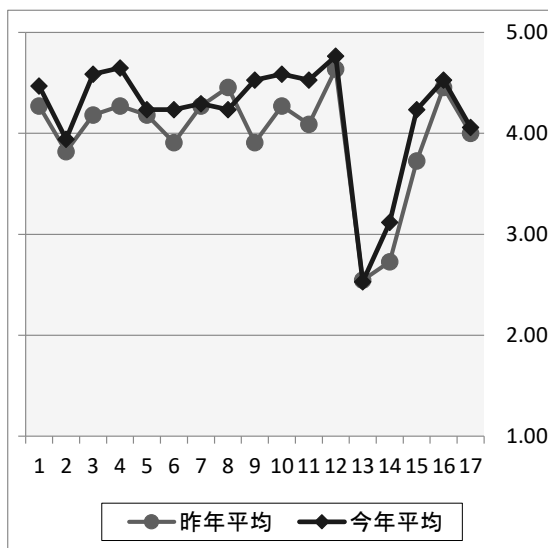
昨年よりも評点が低下する傾向にあるとはいえ、全体としては良好な評点であったと考えられる。そのため、次年度も今年度と同様の取り組みを継続することが必要だと考えている。ただし、授業の予習と復習に関する結果は十分であるとは言いがたい。そのため、次年度は予習と復習に関する意識付けを行うよう対応策を検討する予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度の評点は、全体として昨年度よりも改善しており良好であったと解釈している。また、昨年度で課題としていた予習と復習についても評点が改善している。そのため、次年度も本年度の講義方法を継続していきたいと考えている。

科目	監査制度論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋金4
受講者数	22	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.27	4.47	5	5	3
2	3.82	3.94	3	5	3
3	4.18	4.59	5	5	3
4	4.27	4.65	5	5	3
5	4.18	4.24	5	5	1
6	3.91	4.24	5	5	2
7	4.27	4.29	5	5	3
8	4.45	4.24	5	5	2
9	3.91	4.53	5	5	2
10	4.27	4.59	5	5	3
11	4.09	4.53	5	5	3
12	4.64	4.76	5	5	4
13	2.55	2.53	2	5	1
14	2.73	3.12	2	5	2
15	3.73	4.24	5	5	2
16	4.45	4.53	5	5	3
17	4.00	4.06	5	5	1
回答者数	11	17			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、出席率(項目12)は昨年以上に高くなっており(約90%)、非常に高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。

昨年度(秋学期)の評価に比べると全体的に評価(項目8を除き)が向上している。特に教員による準備(項目3)、熱意・努力(項目4)という教員の姿勢、ならびに宿題と小テスト(項目9)、クラス規模(項目10)、満足度(項目11)といった学生側の項目において、昨年実績より向上している。

また、課題予習(項目13)は昨年度並ではあるが、復習(項目14)は改善しているため、小テストの実施が復習の動機付けに寄与した部分も認められる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂後の監査基準及び監査実務指針に基づいた網羅的かつ体系的なスライドに基づき、監査制度に関する基礎概念を盛り込んだ講義資料を作成し、LMSを通して事前に配布した。これら講義資料の最後に受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。

2回の講義が終了する毎に講義の理解度を確認するため、また同時に復習を動機付けるために、小テストを実施し次の回までにそれらを添削しコメントを付記した上で次の講義で返却した。返却に当たっては、返却時の講義の冒頭で添削上のポイントを解説した。

この結果、講義2回→復習課題実施→小テスト→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

講義配信のためLMSによる講義録画を適時に行い、配信を当日中に行えるように措置した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

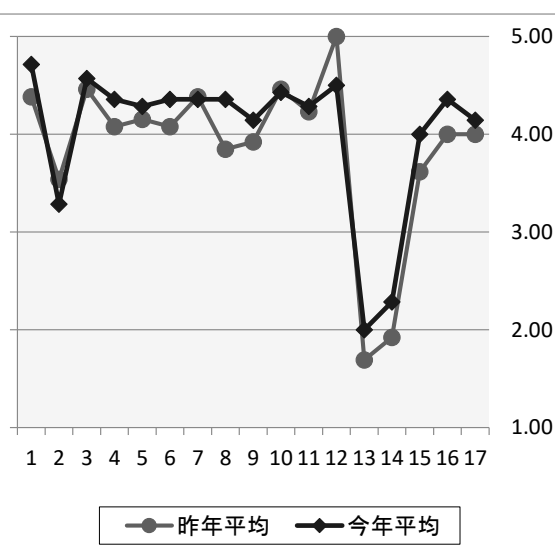
添削済みの小テストの解答用紙を翌講義で返却する際に採点のポイントとともに模範答案へのコメントも説明すると同時に、復習課題の予復習を促すよう講義時に毎回言及するようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習課題を毎回の講義後に動機づけるため、次に実施する小テストの対象となる復習課題を指示するとともに、添削済みの解答用紙返却時にも個々にコメントするようにしたい。

科目	監査基準論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋水1
受講者数	20	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.71	5	5	4
2	3.54	3.29	3	4	2
3	4.46	4.57	5	5	4
4	4.08	4.36	4	5	3
5	4.15	4.29	4・5	5	3
6	4.08	4.36	5	5	2
7	4.38	4.36	5	5	2
8	3.85	4.36	5	5	3
9	3.92	4.14	5	5	3
10	4.46	4.43	4	5	4
11	4.23	4.29	4・5	5	3
12	5.00	4.50	5	5	2
13	1.69	2.00	1・2	4	1
14	1.92	2.29	2	4	1
15	3.62	4.00	3・5	5	3
16	4.00	4.36	4	5	3
17	4.00	4.14	4	5	3
回答者数	13	14			



受講生の傾向

質問事項4「学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか」、6「教科書・配布資料の利用は適切でしたか」、8「教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか」は、いずれも0.25～0.5ポイント改善した。また、質問項目15「この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いますか」及び16「この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか」も0.25ポイント程度改善した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業スピード(口頭スピード)は抑制し、関大LMS提示資料も抑制のうえ、メリハリをつけた授業を心掛けた。また、毎回の授業で、記憶する事の重要性と、各回「覚える」ことで理解が容易になる点に言及した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

授業スピードは現状維持を心掛ける。

配信提示スライドのページ数や添付資料数は削減する。重点項目の説明により時間をかける。

監査基準論の理解に際しては、「基本項目は覚える」点を強調する。受講前に当日のスライド内容の概要を把握しておく事が、理解を容易にする点を伝達する。

さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか? 監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか? を最後に付言する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業スピードは引き続き現状を維持し、抑制を心掛ける。

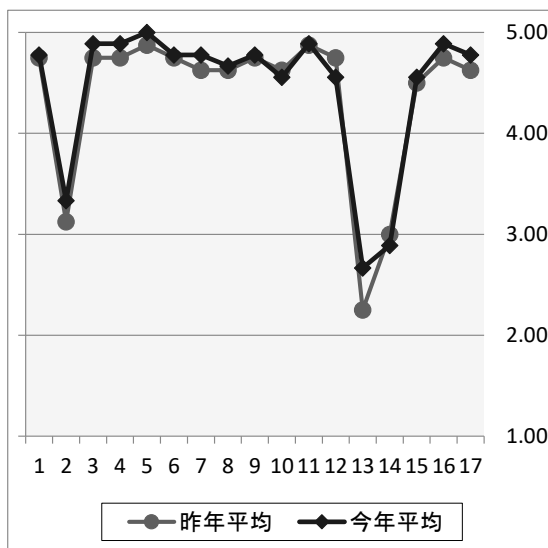
引き続き配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明に時間をかける。

監査基準論の理解に際しては、基本項目を覚えるの必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達する。

さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか? 監査の現場で監基報がどう助けてくれるのか? (監査人を守ってくれる点)を付言する。

科目	企業法(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木1
受講者数	15	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.78	5	5	4
2	3.13	3.33	3	5	3
3	4.75	4.89	5	5	4
4	4.75	4.89	5	5	4
5	4.88	5.00	5	5	5
6	4.75	4.78	5	5	4
7	4.63	4.78	5	5	4
8	4.63	4.67	5	5	3
9	4.75	4.78	5	5	4
10	4.63	4.56	5	5	3
11	4.88	4.89	5	5	4
12	4.75	4.56	5	5	3
13	2.25	2.67	2	5	1
14	3.00	2.89	2	5	2
15	4.50	4.56	5	5	4
16	4.75	4.89	5	5	4
17	4.63	4.78	5	5	4
回答者数	8	9			



受講生の傾向

今回の秋学期開講の企業法は、受講生は15人であった。その中には先取り履修の学生が一定数見られた。企業法はほとんどの学生が春学期に受講しており、この秋学期の企業法は、秋学期において初めて企業法を受講する学生(先取り履修含む)と春学期開講の企業法の再履修として受講する学生が混在している。授業の参加状況はおおむね良好で、授業態度も大変よかったが、その理解度についてはかなりばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様、講義の中では、対話と文章作成のウエイトを高めるという授業を心掛けた。特に、春学期に企業法を受講したが、再履修となった学生は、一概に法的な文章の作成能力をしっかりと身につけることが必要であった。論理的な思考能力とそれに結び付けられた説得力を持った文章の作成能力を習得できるように配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

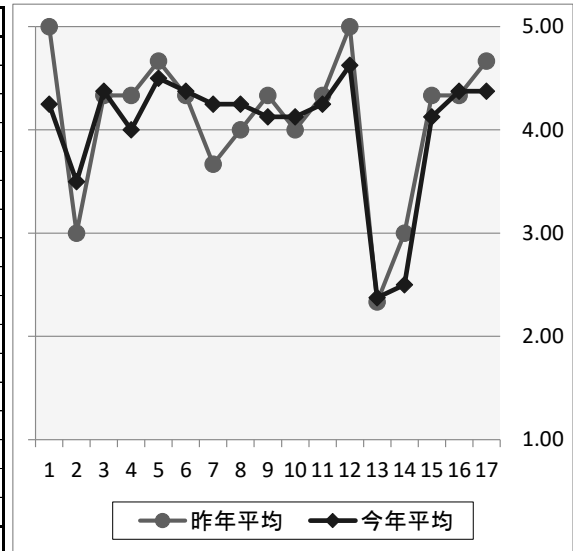
企業法の講義内容の理解ということではできているが、それをを用いて応用的に問題を解決したり、文章で書いたりということになると難しくなる学生が多い。このギャップを埋められるような授業、すなわち、講義と問題解決および文章作成のバランスをうまく考慮した授業を行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法の授業の理解ということではできているが、それを自分で口頭で説明したり、文章で書いたりということになると難しくなる学生が多い。特に学部学生時代から文章作成能力に問題があったのではという受講生も見受けられる。このギャップを埋められるような授業、すなわち、レクチャーと対話と文章作成のバランスをうまく考慮した授業を行いたい。

科目	会計専門職業倫理(B)		
配当年次	2	開講時限	秋木1
受講者数	9	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.25	4	5	3
2	3.00	3.50	3	5	3
3	4.33	4.38	5	5	3
4	4.33	4.00	4	5	2
5	4.67	4.50	4・5	5	4
6	4.33	4.38	5	5	3
7	3.67	4.25	4	5	3
8	4.00	4.25	4	5	3
9	4.33	4.13	4	5	2
10	4.00	4.13	4	5	3
11	4.33	4.25	4	5	3
12	5.00	4.63	5	5	4
13	2.33	2.38	1	5	1
14	3.00	2.50	3	3	1
15	4.33	4.13	4・5	5	3
16	4.33	4.38	4	5	4
17	4.67	4.38	4	5	4
回答者数	3	8			



受講生の傾向

受講生は、例年に比べて9名と比較的多かった(3班編成とした)。日本語の理解に時間を要する学生はいなかったため、授業の進行はスムーズに行えた。そのようなことも要因と考えられるが、授業内容の理解度は高く、小論文等の評価は全体的に高かった。一方、事例研究については、時間の制約のためかグループ間の連携にばらつきがあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期、秋学期を通して、授業評価アンケートの回収率を上げる努力を行った。その結果、回収率は90%程度に上昇したことは良かったと考えられる。授業内容については、概ね満足が行くものとの結果が出ている。この状況を維持していくことが望まれる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

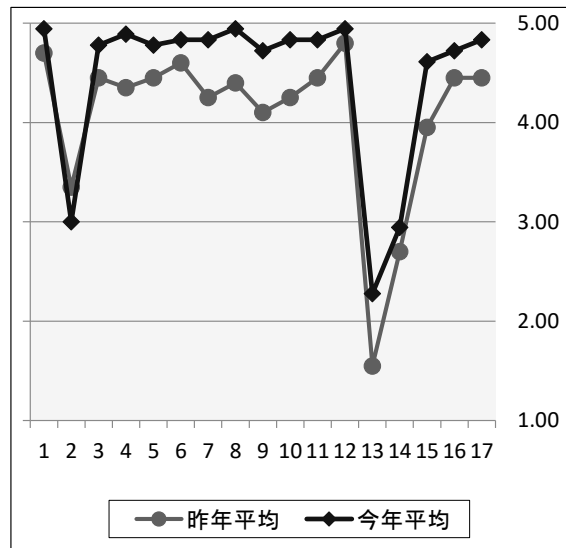
まずは、授業中にアンケートを実施したにも拘わらず、3名の実施者しか居なかったことを反省している。今後は必ず実施させることとしたい。受講者の人数及びレベルにより、進め方を変えていく必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートは100%回収を目指すこと。その上で、受講生の満足度を継続的に維持・向上させる努力を行っていく必要がある。

科目	財表作成簿記論		
配当年次	1	開講時限	秋金3
受講者数	23	回答者数	18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.70	4.94	5	5	4
2	3.35	3.00	3	3	3
3	4.45	4.78	5	5	4
4	4.35	4.89	5	5	4
5	4.45	4.78	5	5	4
6	4.60	4.83	5	5	4
7	4.25	4.83	5	5	4
8	4.40	4.94	5	5	4
9	4.10	4.72	5	5	3
10	4.25	4.83	5	5	4
11	4.45	4.83	5	5	4
12	4.80	4.94	5	5	4
13	1.55	2.28	1	5	1
14	2.70	2.94	2	5	1
15	3.95	4.61	5	5	4
16	4.45	4.72	5	5	4
17	4.45	4.83	5	5	4
回答者数	20	18			



受講生の傾向

受講生は、資格試験の勉強に取り組んでいる学生や、春学期の「上級簿記論」で優秀な成績を収めた学生が多く、全体的に簿記の習熟度が高い状況であった。ほとんどの受講生は向上心が高く、資格試験対策に注力している受講生も講義の趣旨を理解し、この機会に知見を広げ深めようと努めていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

複雑な論点よりも基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるようにした。とくに連結財務諸表の作成は、いわゆるタイムテーブルを使ってテクニカルに問題を解くのではなく、簿記のプロセスとして仕訳を中心に理解するように指導し、そのように講義資料も工夫した。講義中に問題演習の時間を設け、できるかぎり全員の理解を確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

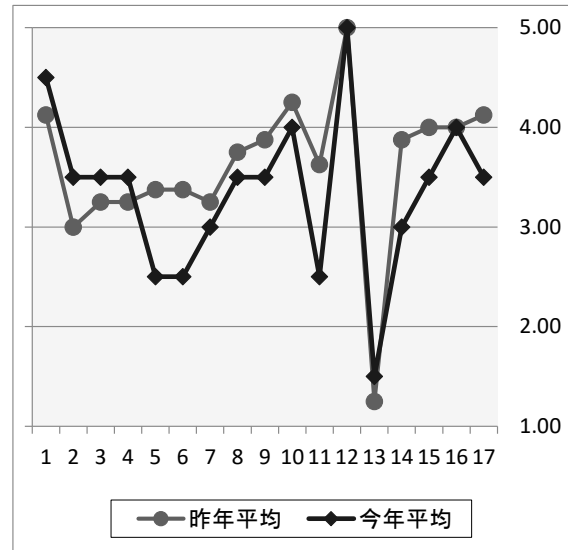
今年度のアンケート結果は昨年度と比べて若干低い項目はあるが、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにしたい。

科目	企業分析論		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	18	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.13	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.50	3・4	4	3
3	3.25	3.50	3・4	4	3
4	3.25	3.50	3・4	4	3
5	3.38	2.50	2・3	3	2
6	3.38	2.50	2・3	3	2
7	3.25	3.00	2・4	4	2
8	3.75	3.50	3・4	4	3
9	3.88	3.50	3・4	4	3
10	4.25	4.00	4	4	4
11	3.63	2.50	2・3	3	2
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.25	1.50	1・2	2	1
14	3.88	3.00	2・4	4	2
15	4.00	3.50	3・4	4	3
16	4.00	4.00	4	4	4
17	4.13	3.50	3・4	4	3
回答者数	8	2			



受講生の傾向

一部の学生は熱心に授業並びに課題に取り組んで、企業分析の手法や考え方を熱心に学んでいたが、他の学生は授業は熱心に聞いているものの、課題は必要最低限ですますという状況であり、学生によって大きな差があった。昨年度は、非常に熱心に取り組む学生がおり、他の学生もそれについていくように熱心に取り組んでいたが、今年度はそのような熱気がある学生がおらず、淡々と授業をこなしているような状況であった。アンケートの回答が2名しかなかったが、あまり熱心でなかった学生の回答ではないかと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様、反転授業的要素を取り入れた授業を行った。今年度は同業の4社の比較を行うことにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

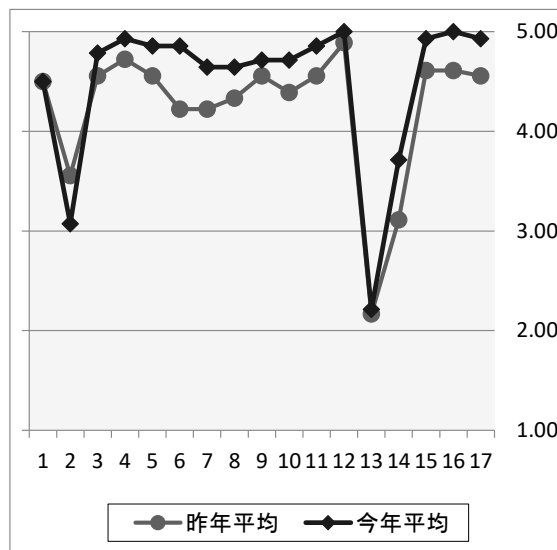
来年度からは「対面授業」を実施することになるが、これまで同様、反転授業的要素を取り入れた授業の流れを行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

対面的授業を継続するが、授業内容を工夫して、熱心に取り組ませるようにしたい。具体的には、指標の意味や使い方を自分で考えさせるように、授業と課題を工夫する。

科目	監査報告論		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	15	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.50	5	5	3
2	3.56	3.07	3	4	2
3	4.56	4.79	5	5	4
4	4.72	4.93	5	5	4
5	4.56	4.86	5	5	4
6	4.22	4.86	5	5	4
7	4.22	4.64	5	5	3
8	4.33	4.64	5	5	3
9	4.56	4.71	5	5	4
10	4.39	4.71	5	5	4
11	4.56	4.86	5	5	4
12	4.89	5.00	5	5	5
13	2.17	2.21	1	5	1
14	3.11	3.71	5	5	2
15	4.61	4.93	5	5	4
16	4.61	5.00	5	5	5
17	4.56	4.93	5	5	4
回答者数	18	14			



受講生の傾向

監査報告に関する監査基準改訂が続いたため、当該改訂内容を反映した講義資料を作成し、LMSを通して事前に配布した。受講生の出席状況(項目12)は昨年よりもさらに改善し極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも相対的に高いと看做し得る。

また授業評価に係わる全ての項目(項目2~11)で、受講生による評価が昨年度より向上している。一方、予習時間(項目13)は昨年度並みではあるが復習時間(項目14)は昨年度より改善した。さらに受講生の満足度(項目16・17)や啓発度(項目15)の全ても改善した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

監査報告に関する最新の論点をできるだけ適時に講義に反映するとともに、監査報告の基礎概念に基づいた講義資料を作成しLMSで配布するとともに、重要論点とともに解説を加えた。

毎回の講義資料の最後に受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。

受講生の理解度を確認するために2回分の講義が終了する毎に論述式小テストを隔週で実施し、添削後に採点のポイントを全員に配布し、最高点の受講生による解答を模範答案として配布して解説を行った。個々に返却することで各自がエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

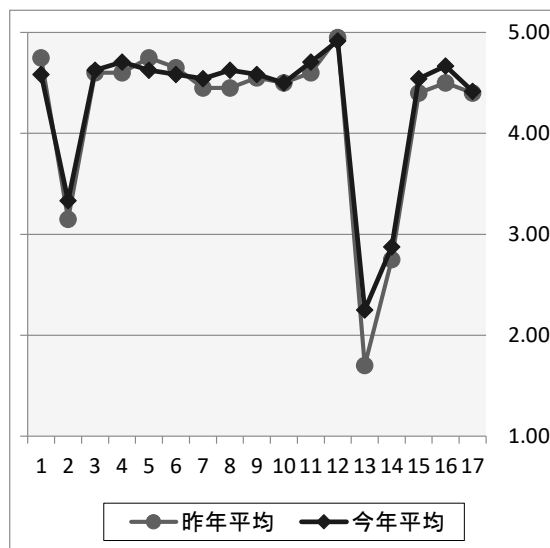
講義中に復習課題として実施すべき範囲を毎回明示することで、復習を促すよう動機付けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は昨年度の対応が授業評価アンケート結果の改善に結び付いたと考えられるため、引き続き毎回の講義終了時に次回の小テストの対象となる復習課題を明示することで、復習を動機付けたい。

科目	会社法		
配当年次	1	開講時限	秋木3
受講者数	31	回答者数	24

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.58	5	5	3
2	3.15	3.33	3	5	3
3	4.60	4.63	5	5	3
4	4.60	4.71	5	5	4
5	4.75	4.63	5	5	4
6	4.65	4.58	5	5	3
7	4.45	4.54	5	5	3
8	4.45	4.63	5	5	3
9	4.55	4.58	5	5	3
10	4.50	4.50	5	5	3
11	4.60	4.71	5	5	4
12	4.95	4.92	5	5	4
13	1.70	2.25	2	5	1
14	2.75	2.88	2	5	2
15	4.40	4.54	5	5	3
16	4.50	4.67	5	5	4
17	4.40	4.42	5	5	1
回答者数	20	24			



受講生の傾向

今回の会社法の受講生は、31人と全体の学生数から考えても比較的多いほうであった。公認会計士試験を受験する学生にとっては必須の科目になり、そのような受講生が多いように思われるが、必ずしも公認会計士試験を受験しない学生もまた受講しているようであった。受講態度はおおむね良好であり、熱心に取り組んでいるようであった。ただ、理解度についてはそもそもの事前勉強量の違いなどからさまざまであったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は会社法について広く全体的な理解と同時に応用力の養成することを心掛けた。ただし、深い内容については、極力課外講座である基礎講座や上級会社法で扱うこととした。さらに、広い内容とはいえお互いの項目がリンクしている部分も多く、これらを結びつけながら授業するということを工夫した。また、学生にとっては、負担であったかもしれないが、企業法で扱った部分については、すでに理解していることとして進め、会社法が単なる企業法の復習科目とならないように意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

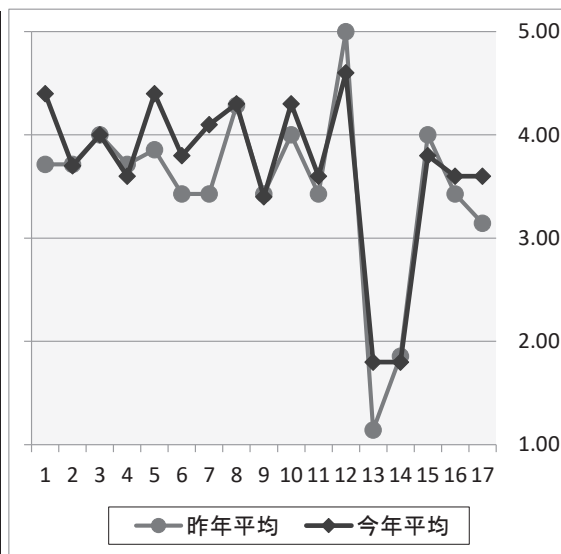
会社法は、企業法の発展科目としての位置づけであり、かつ上級会社法的前提となる科目である。また、会社法の授業については、これに対応した基礎講座を開講している。重要なことは、これらの連携である。課外講座を含めてこれらの各種科目を有機的に結合させて授業を行うことが必要となる。企業法関連科目の中の一つとしての会社法としての位置づけを意識しながら、受講生がトータルとして、会社法ひいては企業法全体を理解できるように心がけたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回は授業の中で、応用力を身につけられるようなトピックを要所で扱うこととしたが、このような論点は、興味を抱く学生も多いが、授業の進度や流れ、また課外講座である基礎講座や上級会社法との関係性を踏まえてバランスよく取り入れていきたい。また、会社法では、広い内容を扱う中であって、それらを何らかのトピックスでくくって扱うことで、その広い内容をより効率的かつ興味深いものとした。

科目	特殊講義(税務と会計)		
配当年次	1	開講時限	秋前火6~7
受講者数	15	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.71	4.40	5	5	3
2	3.71	3.70	4	5	3
3	4.00	4.00	4	5	2
4	3.71	3.60	4	5	1
5	3.86	4.40	5	5	3
6	3.43	3.80	4	5	1
7	3.43	4.10	4	5	3
8	4.29	4.30	4	5	4
9	3.43	3.40	4・5	5	1
10	4.00	4.30	4	5	3
11	3.43	3.60	5	5	1
12	5.00	4.60	5	5	4
13	1.14	1.80	1	5	1
14	1.86	1.80	1	5	1
15	4.00	3.80	5	5	1
16	3.43	3.60	5	5	1
17	3.14	3.60	4	5	1
回答者数	7	10			



受講生の傾向

本科目の受講者数は15名であるが、大学院生と社会人の共同授業であって、うち社会人は6名であった。本科目の授業は、コロナ禍の影響を受け久しぶりの授業となったが、対面形式での実施で、出席率はよく、学生もまじめに授業に取り組んでいた。なお、授業のスタートは18時30分であるため、社会人にとってはこれに間に合うことが難しく、若干の遅刻者が見られた。また、社会人6名のうち、3名は最終日の試験を受験しなかった。大学院生は単位取得のためにかなりの勉強をして最終日の試験にも臨んでいるのに対し、現在の方式では、社会人にとっては授業の内容が重要で、単位取得はあまり意味がないとも考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、コロナ明けでようやく開講することができた状態であったが、今年はそれに引き続き開講で、受講者も増加した。各講師ともキャンパスにおける院生と社会人との共同授業という特性を、極力生かしたような授業運営、例えば、授業における対話やグループ演習などを心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

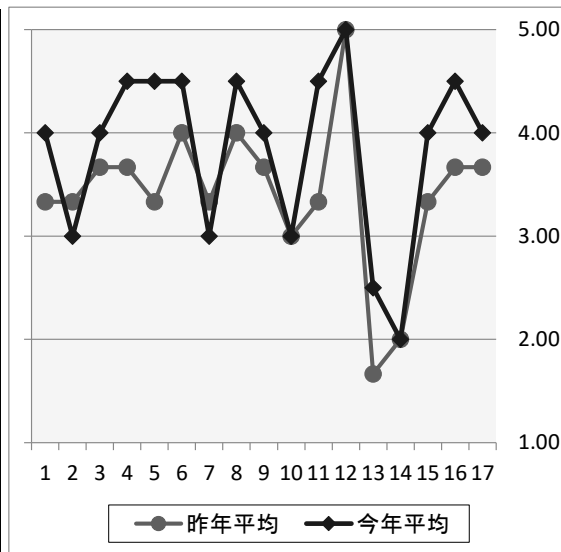
今後は、大学の方針として授業におけるコロナ対応は緩和されるとのことなので、授業中での学生と社会人との交流が積極的に行われるような授業運営、すなわち対話およびグループ演習を多く取り組んだ授業運営としていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前回の振り返りを受け、各回ともグループ演習を取り入れるなどして、学生と社会人との交流が図られていた。今後改善すべき点としては、毎回のレジュメの様式が不統一であること、レベル感もまちまちであること、コマの間の連続性がないこと、等が挙げられる。授業が難しかったので、自分で勉強するにはどうしたらよいか(参考書はどのようなものがよいか)という問い合わせもあった。何を目的として学生と社会人との梅田キャンパス授業を行っていくのか、目的を明確にする必要があると思われる。

科目	特殊講義(公会計論)		
配当年次	1	開講時限	秋火4
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.33	4.00	4	4	4
2	3.33	3.00	3	3	3
3	3.67	4.00	4	4	4
4	3.67	4.50	4・5	5	4
5	3.33	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.50	4・5	5	4
7	3.33	3.00	3	3	3
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	3.67	4.00	3・5	5	3
10	3.00	3.00	3	3	3
11	3.33	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.67	2.50	2・3	3	2
14	2.00	2.00	2	2	2
15	3.33	4.00	4	4	4
16	3.67	4.50	4・5	5	4
17	3.67	4.00	4	4	4
回答者数	3	2			



受講生の傾向

受講者数・回答者数共に2である。統計的には「傾向」とまでは言えない「個別の特徴」に近い。2人とも、皆勤であり、極めて真面目である。それぞれが選んだ地方公共団体の分析を中心に据え、これらを絡めて公会計の基礎を教授した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に書いたように、履修生のレベルに合わせて、負荷を高めた。基本的知識に関しては10点以上を必読とし、予算・決算分析、財務書類分析、他団体比較を求めた。履修生は十分にそれに応えていた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

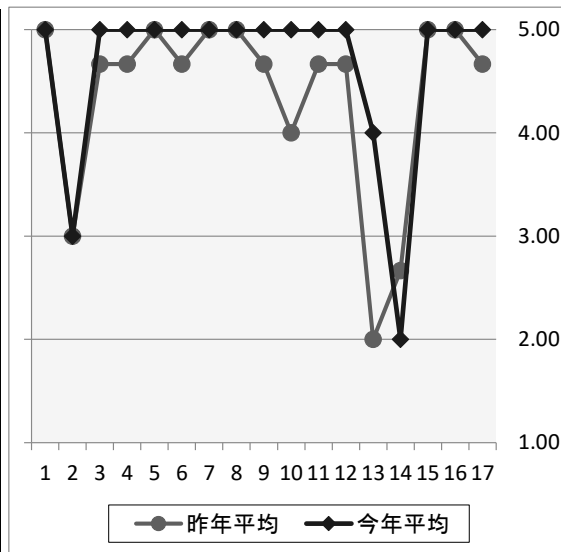
次年度は履修者の緊張度を維持できるように昨年度並みに負荷を高めようと思う。端的には予習復習の時間を高めるといこと、そのことにより、参加意識を高めるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度は本科目を担当しない。

科 目	特殊講義(貸借対照表論)		
配当年次	1	開講時限	秋月4
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.67	5.00	5	5	5
4	4.67	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.67	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.67	5.00	5	5	5
10	4.00	5.00	5	5	5
11	4.67	5.00	5	5	5
12	4.67	5.00	5	5	5
13	2.00	4.00	4	4	4
14	2.67	2.00	2	2	2
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.67	5.00	5	5	5
回答者数	3	1			



受講生の傾向

回答者数が1なので、個人的な特徴になる。全回出席で、予習復習、課題もしっかりやってくる。すでに公認会計士試験も合格しているので、公認会計士としての優位性を模索する学習態度であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

履修生も1であったため、前半は貸借対照表の情報価値を学習し、後半は本人の関心の高いサステナビリティ会計の研究が進むように誘導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

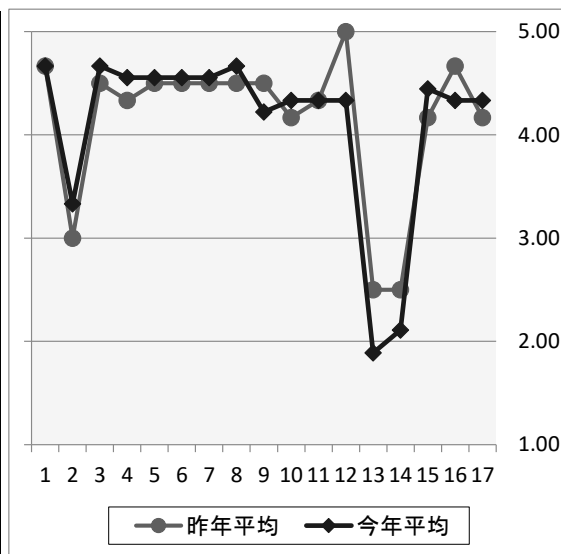
次年度も人数次第であるが、10名を超えるまでは、昨年度・今年度と同じ方法を採用したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年は担当しないので、今後の対応はない。

科目	特殊講義(企業情報の読み方と使い方)		
配当年次	1	開講時限	秋後火6~7
受講者数	14	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.67	5	5	4
2	3.00	3.33	3	5	3
3	4.50	4.67	5	5	4
4	4.33	4.56	5	5	4
5	4.50	4.56	5	5	4
6	4.50	4.56	5	5	4
7	4.50	4.56	5	5	4
8	4.50	4.67	5	5	4
9	4.50	4.22	5	5	3
10	4.17	4.33	4・5	5	3
11	4.33	4.33	4・5	5	3
12	5.00	4.33	4・5	5	3
13	2.50	1.89	1	5	1
14	2.50	2.11	2	5	1
15	4.17	4.44	5	5	3
16	4.67	4.33	4・5	5	3
17	4.17	4.33	4・5	5	3
回答者数	6	9			



受講生の傾向

社会人はとても熱心である。大学院生からは内容は簡単だが、社会人とのコミュニケーションを取りたい人が多いように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

社会人には会計の基礎知識の習得を、大学院生にはコミュニケーション能力の向上をはかれるように留意した。社会人と大学院生のディスカッションの機会を設けることができた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

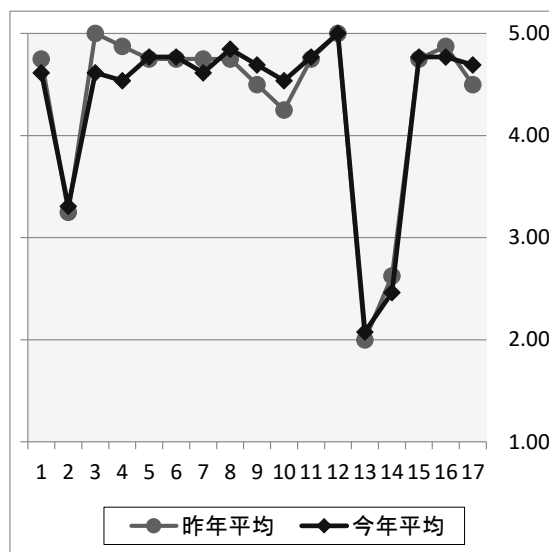
社会人には会計の基礎知識の習得を、大学院生にはコミュニケーション能力の向上をはかれるように留意したい。今年には社会人と大学院生のディスカッションの機会を設けることができたが、次年度も引き続きディスカッションの機会を増やしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度は受け持たないため、特になし。

科目	租税法理論		
配当年次	2	開講時限	秋火4
受講者数	13	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.62	5	5	4
2	3.25	3.31	3	4	3
3	5.00	4.62	5	5	4
4	4.88	4.54	5	5	4
5	4.75	4.77	5	5	4
6	4.75	4.77	5	5	4
7	4.75	4.62	5	5	2
8	4.75	4.85	5	5	4
9	4.50	4.69	5	5	4
10	4.25	4.54	5	5	4
11	4.75	4.77	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	2.08	1	5	1
14	2.63	2.46	2	5	1
15	4.75	4.77	5	5	4
16	4.88	4.77	5	5	4
17	4.50	4.69	5	5	4
回答者数	8	13			



受講生の傾向

受講生13名の内訳は、会計士志望3名、税理士志望9名、その他1名であった。本科目では昨年と同様、受講生に判例レポートを課したが、受講生全員が全ての課題を提出するなど、本年度の受講生は真面目に本科目に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

令和5年度の公認会計士試験の過去問を講義レジュメに取り込み、過去問を題材として受講生と積極的に議論を行うように心がけた。また、消費税法については、受講生との議論の時間を確保すべく、講義レジュメの大幅な見直しを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

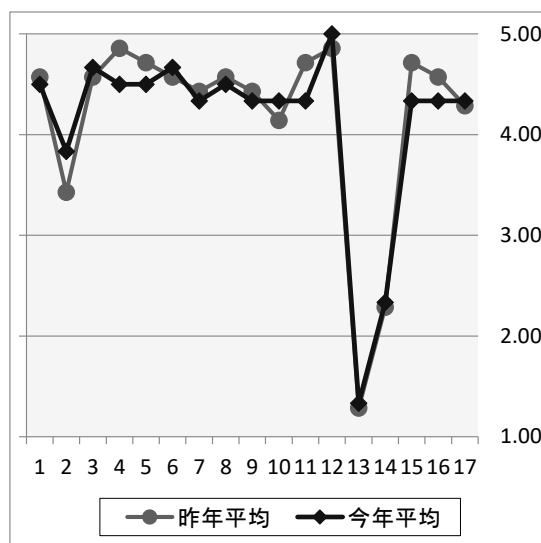
講義内で取り扱うべき公認会計士試験の過去問は増え続けているが、過去問を題材に受講生と議論を行うことは教育効果が高いと考える。このため、議論の時間を出来る限り多く確保すべく、講義内容の更なる絞り込みと講義レジュメの見直しを引き続き行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様、公認会計士試験の過去問を中心に講義レジュメを作成し、受講生との議論を積極的に行っていきたい。また、最新の税制改正に出来るだけ対応すべく、テキストを金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂・2021）から、スタンダードシリーズへ変更する。

科目	租税法会計論		
配当年次	2	開講時限	秋月4
受講者数	7	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.50	4・5	5	4
2	3.43	3.83	4	5	3
3	4.57	4.67	5	5	4
4	4.86	4.50	4・5	5	4
5	4.71	4.50	4・5	5	4
6	4.57	4.67	5	5	4
7	4.43	4.33	4	5	4
8	4.57	4.50	4・5	5	4
9	4.43	4.33	4	5	4
10	4.14	4.33	4	5	4
11	4.71	4.33	4	5	4
12	4.86	5.00	5	5	5
13	1.29	1.33	1	2	1
14	2.29	2.33	2	4	1
15	4.71	4.33	5	5	3
16	4.57	4.33	4	5	4
17	4.29	4.33	5	5	3
回答者数	7	6			



受講生の傾向

受講生7名の内訳は、会計士志望3名、税理士志望2名、他の志望2名であった。毎年、消費税法を苦手とする初学者は多いが、今年度の初学者は定期試験の結果から推測すると、講義時間外の学習(質問No.14)に取り組んでいたと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、令和5年度の公認会計士試験の過去問を講義レジュメに取り込み、講義レジュメをテキストとして使用する形式を採用した。次に、計算プロセスを含む解答を記載した資料を別途配布した上で、難度の高い箇所を重点的に解説した。最後に、各回の授業内容の理解の定着を図るべく、前回講義の確認問題を毎回準備して、受講生に解答させるようにした。なお、欠席者へのフォローとして、LMSに授業の動画データと講義レジュメ等のファイルを授業後、速やかにアップした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

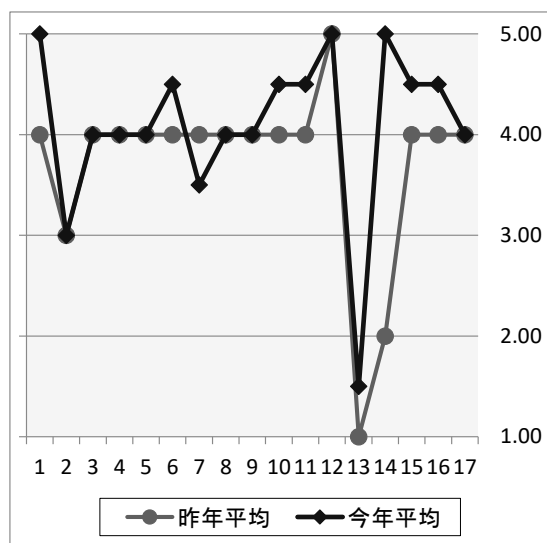
講義レジュメの充実(特に、最新の過去問の取り込み)、重点を置いた解答解説、授業録画等のLMSアップを今後も行うことで、教育効果の更なる向上を目指していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果の質問No.2(授業の進度)が昨年度に比べて若干上昇している。本科目で取り扱う公認会計士試験の過去問が増加していることに拠ると考えている。本年度の対応(講義レジュメの充実、過去問の解答と前回講義の確認問題の作成)を引き続き実施することに加えて、重要度に応じた解答解説を行っていくことで対応したい。

科目	コーポレート・ファイナンス論		
配当年次	2	開講時限	秋火3
受講者数	5	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.00	4	4	4
4	4.00	4.00	4	4	4
5	4.00	4.00	4	4	4
6	4.00	4.50	4・5	5	4
7	4.00	3.50	3・4	4	3
8	4.00	4.00	4	4	4
9	4.00	4.00	4	4	4
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	4.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.00	1.50	1・2	2	1
14	2.00	5.00	5	5	5
15	4.00	4.50	4・5	5	4
16	4.00	4.50	4・5	5	4
17	4.00	4.00	4	4	4
回答者数	1	2			



受講生の傾向

非常に熱心というわけでもなく、かといって、単位が取ればよいという態度でもなく、淡々と授業並びに課題をこなしているという印象であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年同様、反転授業的要素を取り入れた授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

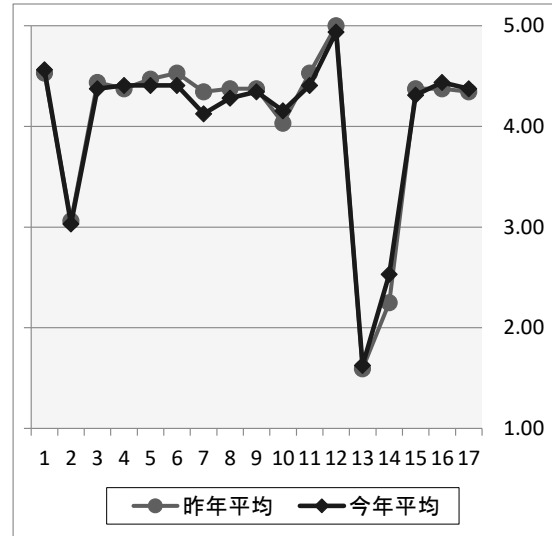
来年度からは「対面授業」を実施することになるが、これまで同様、反転授業的要素を取り入れた授業の流れを行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も、反転授業的要素を取り入れた授業を行っていきたい。

科目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	秋水2
受講者数	43	回答者数	32

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.53	4.56	5	5	4
2	3.06	3.03	3	4	2
3	4.44	4.38	4	5	4
4	4.38	4.41	4	5	3
5	4.47	4.41	5	5	2
6	4.53	4.41	4	5	3
7	4.34	4.13	4・5	5	3
8	4.38	4.28	4	5	3
9	4.38	4.34	4	5	3
10	4.03	4.16	4	5	3
11	4.53	4.41	4	5	4
12	5.00	4.94	5	5	4
13	1.59	1.63	1	5	1
14	2.25	2.53	2	5	1
15	4.38	4.31	4	5	3
16	4.38	4.44	4	5	3
17	4.34	4.38	4	5	3
回答者数	32	32			



受講生の傾向

簿記の計算ではイメージしにくい経理実務を理解しようと熱心に講義を聴く受講生が多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したことより具体的な各経理業務をイメージしてもらえるような説明を心がけた。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

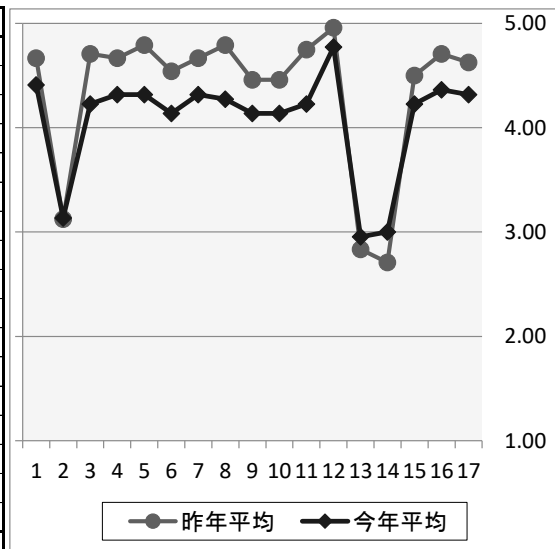
課題をほぼ毎回課すことにより、学生の復習の機会を増やせたので、次年度も今年度と同じように実施していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題をほぼ毎回課すことにより、学生の復習の機会を増やせたので、次年度も今年度と同じように実施していきたい。

科目	監査事例研究		
配当年次	1	開講時限	秋水2
受講者数	23	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.41	4	5	3
2	3.13	3.14	3	4	3
3	4.71	4.23	4	5	3
4	4.67	4.32	4	5	3
5	4.79	4.32	4	5	3
6	4.54	4.14	4	5	3
7	4.67	4.32	4	5	3
8	4.79	4.27	4	5	3
9	4.46	4.14	4	5	2
10	4.46	4.14	4	5	2
11	4.75	4.23	4	5	2
12	4.96	4.77	5	5	4
13	2.83	2.95	1・5	5	1
14	2.71	3.00	2	5	1
15	4.50	4.23	4	5	3
16	4.71	4.36	4	5	3
17	4.63	4.32	4	5	4
回答者数	24	22			



受講生の傾向

昨年に比し、評価項目3から11が軒並み0.5ポイント程度低下してしまっている。

これは、昨年までの授業形式が、個人発表(こちらが指名)を元に福島との質疑やコメントを加える形式だったのに対し、コロナ禍も明けた事から2~3名のグループ制(毎回入れ替えてこちらが指名。リーダーとサポーターの組み合わせ)とした点が影響していると考えられる。

また、評価項目15から17も0.2から0.3ポイント低下してしまっている。

これは、グループ提出に配慮して課題の提出期限を授業日前日の夜までとした結果、事前のレビューが行えず、当日、投影しながらのコメント対応になってしまった事によるものと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コロナ禍も明け、来学形式が定着したため、説明フェーズの授業後半に、次回の発表グループ(リーダーとサポーター)を指名し、グループリーダーからの発表に切り替えた。そうすることで、チーム内でのディスカッション機会も増える点を期待した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

質問の時間は、授業の最後に確保し、声掛けも行う。

来学形式が定着した場合、説明フェーズの授業後半に、近くのグループでの「ディスカッション機会」を設定し、「リスク評価」と「リスク対応」の案を各グループで話させたい。

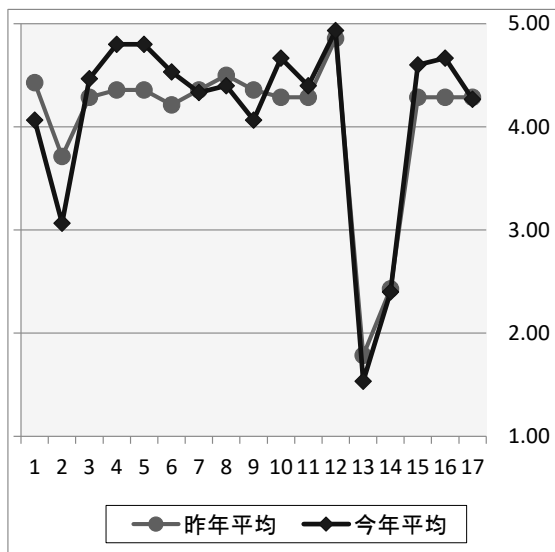
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果を受け、新年度の監査基準論では、グループでの発表形式(発表者はリーダーのみ)を取りやめ、2022年度までの個人発表形式(福島が翌週の発表者を指名)に戻すこととする。

また、課題の提出期限を日曜の夜までにし、事前の準備を充実させることとしたい。

科目	基本監査プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋火1
受講者数	16	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.07	5	5	2
2	3.71	3.07	3	4	2
3	4.29	4.47	5	5	3
4	4.36	4.80	5	5	3
5	4.36	4.80	5	5	3
6	4.21	4.53	5	5	3
7	4.36	4.33	5	5	3
8	4.50	4.40	5	5	2
9	4.36	4.07	4	5	2
10	4.29	4.67	5	5	4
11	4.29	4.40	5	5	3
12	4.86	4.93	5	5	4
13	1.79	1.53	1	3	1
14	2.43	2.40	1・2・3	4	1
15	4.29	4.60	5	5	2
16	4.29	4.67	5	5	3
17	4.29	4.27	5	5	2
回答者数	14	15			



受講生の傾向

授業に対する参加度を測る出席率(項目12)において、昨年度に続きほぼ100%を達成しており非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。またPC実習を対面で実施できたことから、教員評価に関する項目(項目3～項目6)は改善した。

また、受講生側の項目においては、授業の予復習(項目13・14)は昨年度並みではあるものの、受講生に対する啓発や満足度(項目15・16)は向上した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂後の監査実施基準を反映し、監査実施に関する基礎概念を纏めた講義資料及びテキストに基づいて作成したスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針等の参考資料を配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。

今年度は、監査実施プロセスと内部統制評価に関する理解度を確認するため、2つの課題(掛け売上取引に関するフローチャートの作成、当該取引に係る内部統制の整備状況評価)を課した。加えて、PCを利用した監査手続(銀行預金・売掛金)を経験するとともに、証憑突合による実証手続の実施、ならびに監査調書の作成を課題とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

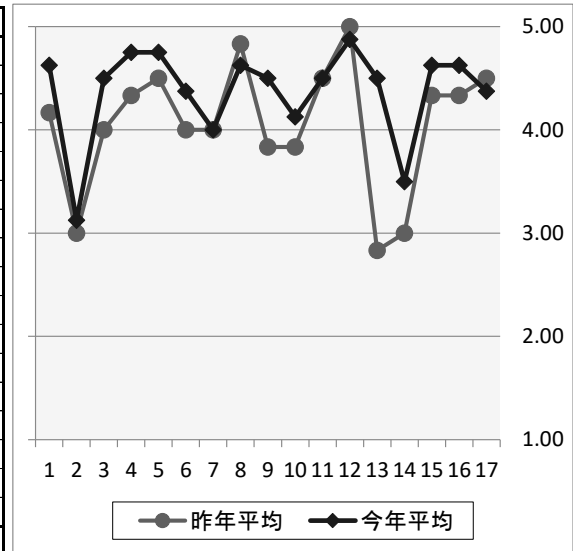
監査実施に関する基礎理論の修得とともにそれがPCを用いた監査手続の実施ならびに文書化(監査調書)にどのように反映されるかをより具体的に講義に取り入れることで、授業への参加意欲を向上させたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

監査実施に関する基礎理論の修得に重きを置きすぎたため、PC利用による監査手続の実施が必ずしも十分に実施できず、監査調書への文書化についてをより具体化して導入することで講義への参加意欲の向上を図りたい。

科目	アカデミック・ソリューション(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	10	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.63	5	5	4
2	3.00	3.13	3	4	3
3	4.00	4.50	5	5	3
4	4.33	4.75	5	5	4
5	4.50	4.75	5	5	4
6	4.00	4.38	5	5	3
7	4.00	4.00	3・5	5	3
8	4.83	4.63	5	5	4
9	3.83	4.50	5	5	3
10	3.83	4.13	4	5	3
11	4.50	4.50	5	5	3
12	5.00	4.88	5	5	4
13	2.83	4.50	5	5	3
14	3.00	3.50	5	5	1
15	4.33	4.63	5	5	4
16	4.33	4.63	5	5	4
17	4.50	4.38	5	5	3
回答者数	6	8			



受講生の傾向

10名の受講生の内訳は、税理士志望8名、公認会計士志望1名、その他1名であった。本科目では判例分析を学習するが、質問No.13(予習時間)と14(復習時間)の結果が昨年度よりも良くなっているにもかかわらず、今年度の受講生の多くは判例分析を上手く行えなかった。その原因の1つに、必要な評釈をきちんと集めることができていないことが挙げられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第1回講義で判例分析に必要な事項を講義後、第2回講義で判例分析のデモンストレーションを実施した。第3回講義以降は、受講生に報告を行わせ、評釈の入手方法や私見の作り方について繰り返し指導を行った。また、受講生間との議論も重要であることから、グループワーク形式を採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

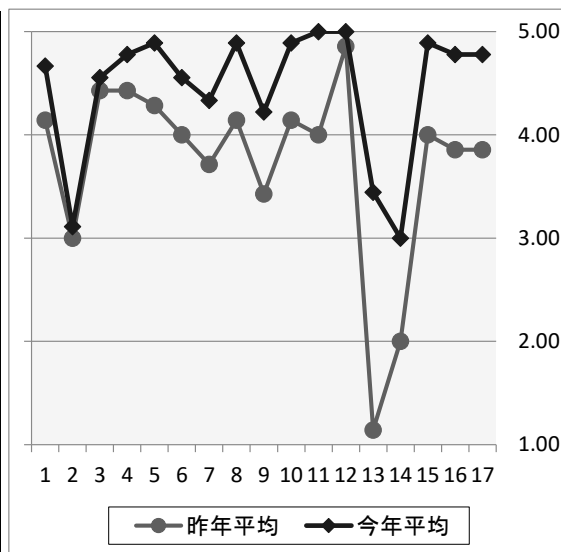
引用表記と私見が不十分であるという課題のうち、前者は今年度の方法で改善傾向にあるが、後者はあまり改善されなかった。その原因の1つとして、入手すべき評釈を入手しないまま私見を述べる事例が散見された。次年度は評釈の入手方法を第1回講義に行うとともに、評釈の重要性を繰り返し指導していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様、引用表記(形式面)と私見(実質面)に関しては、引き続き対応する必要がある。また、新たに対応すべき事項として、税務訴訟に関する基礎知識を提供することを考えている。なぜなら、基礎知識の欠如が事案の概要や判示をきちんと理解できていない一因になっていると考えられるためである。

科 目	アカデミック・ソリューション(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	8	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.14	4.67	5	5	4
2	3.00	3.11	3	4	3
3	4.43	4.56	5	5	4
4	4.43	4.78	5	5	4
5	4.29	4.89	5	5	4
6	4.00	4.56	5	5	4
7	3.71	4.33	5	5	3
8	4.14	4.89	5	5	4
9	3.43	4.22	5	5	3
10	4.14	4.89	5	5	4
11	4.00	5.00	5	5	5
12	4.86	5.00	5	5	5
13	1.14	3.44	3	5	1
14	2.00	3.00	3	5	1
15	4.00	4.89	5	5	4
16	3.86	4.78	5	5	4
17	3.86	4.78	5	5	4
回答者数	7	9			



受講生の傾向

受講生の授業参加意欲を測る出席率(項目12)においては90%以上を達成しており、非常にモラルの高い受講生であり、それに伴い授業評価における全ての項目(項目3~11)で改善しており、また演習参加のための予習時間(項目13)と復習(項目14)時間も大きく向上した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生からの希望を聴取し、監査論の各種論点に関する課題を効果的に実施できるような演習形式とし、全員に当該論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討すると同時に解説を行った。

当該課題については、予め事前に配布して予習を促し(項目13)と復習時間(項目14)も確保するように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

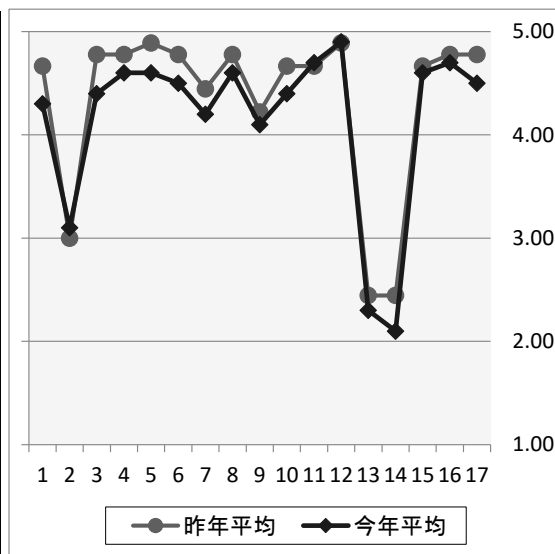
課題を用いたアウトプット中心の演習が参加演習生にとってモラルの低下をもたらした可能性が高いため、解答中心の演習だけでなく監査論の基礎概念のインプットのための措置を講じたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題に対する受講生の予習時間を増やし、演習時間はできる限り添削と解説に充てるようにしたい。

科 目	アカデミック・ソリューション(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	10	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.30	4	5	3
2	3.00	3.10	3	4	3
3	4.78	4.40	4	5	4
4	4.78	4.60	5	5	4
5	4.89	4.60	5	5	4
6	4.78	4.50	5	5	3
7	4.44	4.20	4	5	3
8	4.78	4.60	5	5	4
9	4.22	4.10	4	5	3
10	4.67	4.40	4	5	4
11	4.67	4.70	5	5	4
12	4.89	4.90	5	5	4
13	2.44	2.30	2	3	2
14	2.44	2.10	2	3	1
15	4.67	4.60	5	5	4
16	4.78	4.70	5	5	4
17	4.78	4.50	5	5	3
回答者数	9	10			



受講生の傾向

今回はこの授業の受講生は10人であって、その全員が公認会計士を目指しているというのもあり、授業には熱心かつまじめに取り組んでおり、予習・復習もしっかりと行っていた。ただ、授業の理解という点においては、これまでの学習深度からばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業においてはコロナ禍においては行っていなかったグループワーク中心という組立で授業を行った。今回の授業で特に工夫したこととしては、グループワークの中で様々に議論が行われるよう心掛けた。すなわち、個々人において即答が可能なもの、たとえば、知っているか知らないかというものよりもむしろ、グループワークであれば答えを導き出せるような内容について、じっくり考えてもらって、解答してもらおうということを心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

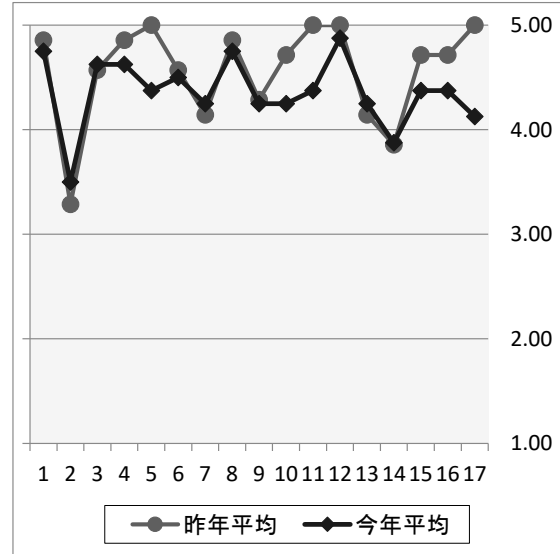
今後の対応としては、大学の授業方針としてこれまでのコロナ禍対応の授業方法は解除されるものであるので、ソリューション授業としてふさわしい授業形態に戻したい。具体的には、受講生同士による意見交換および議論その結果としての結論としてのまとめなどを、グループ学習によって実行したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

グループワークとはいえ、特定の受講生が議論を主導しがちで、全員で議論するというレベルにはいかないこともあったため、この点を改善していきたい。全受講生の学習進度やレベルを最初の段階でしっかりと把握したうえで、アシストしながらそれぞれのグループワークを見守る必要性を感じた。

科目	論文指導(基礎)(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火5
受講者数	9	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.75	5	5	4
2	3.29	3.50	3	5	3
3	4.57	4.63	5	5	4
4	4.86	4.63	5	5	4
5	5.00	4.38	5	5	3
6	4.57	4.50	5	5	3
7	4.14	4.25	4	5	3
8	4.86	4.75	5	5	4
9	4.29	4.25	4	5	3
10	4.71	4.25	4	5	3
11	5.00	4.38	5	5	3
12	5.00	4.88	5	5	4
13	4.14	4.25	4	5	3
14	3.86	3.88	4	5	2
15	4.71	4.38	4	5	4
16	4.71	4.38	4	5	4
17	5.00	4.13	4	5	3
回答者数	7	8			



受講生の傾向

受講生9名は全て、税理士試験の税法科目免除を希望する学生である。受講生は2名を除き、研究テーマの決定に苦しんでいた。共通点は、先行研究者の論文をきちんと理解できていない点と解釈論による研究方法を理解できていない点であった。結果として、9名のうち、2名が論題設定に至らなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、研究テーマの決定に必要な情報を講義レジュメにまとめ、授業日より相当早い段階でLMSにアップした。次に、先行研究者の論文理解に必要な情報をLMSに事前アップ後、授業内で講義した。最後に、受講生に報告レジュメ作成の上で報告を行わせた。今年度は、受講生の全員が解釈論による研究方法であったため、解釈論による研究方法を繰り返し説明を行った

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

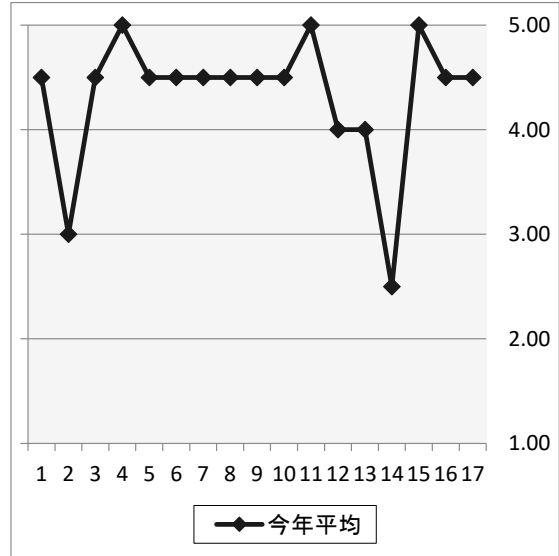
今年度も2名が論題設定に至らなかったが、その原因としては先行研究者の論文をきちんと理解できなかった点にあると思われる。次年度も引き続き、アカデミック・ソリューションとの連携を行いつつ、先行研究者の論文理解に資する情報を提供し、指導を行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

研究方法(解釈論)と研究材料(論文)に関する受講生の理解向上が、今後の課題と考える。今年度の方法を引き続き実施していきたい。

科目	論文指導(基礎)(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.00	3・5	5	3
13	—	4.00	3・5	5	3
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

今年度の本授業では受講生が2名であったが、これまでは基本的には受講生がいなかったため、久しぶりの本授業開講となった。出席率もよく、個別演習科目でもあり参加度は高かった。各課題にも真摯に取り組んでいる姿勢が見られた。本授業は一般に履修する学生が少なく特定の目的を持った学生が履修するため、このような受講状況となったのであろう。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は本授業は開講されなかったが、今回の授業では、2名の受講生それぞれの学習状況や本授業の受講目的に応じて授業を行うよう工夫した。それぞれの受講生を個別に授業をすることで、よりきめ細かな指導を行うことができた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

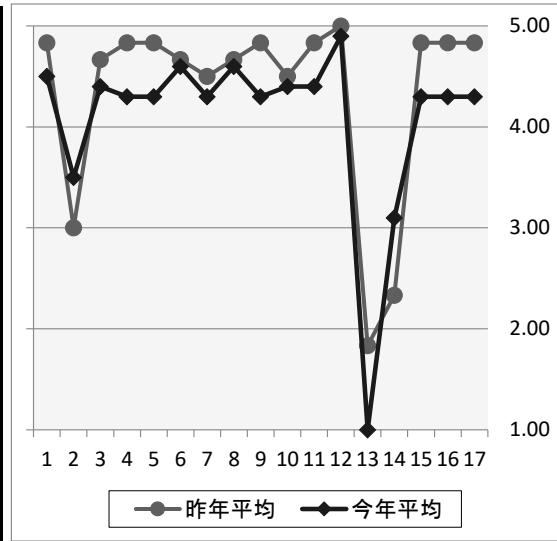
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回は受講生が2名であったために個別に対応することができたが、今後は本授業の受講生が3名以上となるようなケースも想定されるので、その場合に適応した方法での授業が必要になる。その場合には、必要に応じて全員による授業と個別授業を使い分けて、効果的な指導ができるように心がけたい。

科目	実践会計プログラム演習		
配当年次	2	開講時限	秋水3
受講者数	18	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.50	3	5	3
3	4.67	4.40	4	5	4
4	4.83	4.30	4	5	4
5	4.83	4.30	4	5	4
6	4.67	4.60	5	5	4
7	4.50	4.30	4	5	4
8	4.67	4.60	5	5	4
9	4.83	4.30	4	5	4
10	4.50	4.40	4	5	4
11	4.83	4.40	4	5	4
12	5.00	4.90	5	5	4
13	1.83	1.00	1	1	1
14	2.33	3.10	3	5	1
15	4.83	4.30	4	5	4
16	4.83	4.30	4	5	4
17	4.83	4.30	4	5	4
回答者数	6	10			



受講生の傾向

受講生の内訳は、公認会計士志望者8名、税理士志望者4名、企業等への就職希望等6名のうち留学生は4名であった。演習講義のため出席を重視していたが、出席率は良好であった。PCを利用した演習講義のため、基本的には各自PCを操作して演習に取り組むのであるが、受講生同士でPC操作のテクニックなどについて教えあう様子なども見られ、講義内演習や課題について熱心に取り組んでいた。ほとんどの受講生が会計ソフトの「勘定奉行」をはじめで使用することであったが、演習を通じて、仕訳伝票の起票から会計帳簿の作成までの一連の流れを体感できたようである。また、会計データの分析、固定資産管理、経営計画の作成などについても、より実践的な内容であり、興味深かったとする感想が多かった。課題はほぼ提出されており、真面目に取り組んだ様子が窺えた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

PC操作には個人差があり、時間配分を意識し、先に終了した受講生には応用課題を用意するなど、各受講生の進捗に合わせた進度、内容とするように工夫した。また、講義中は受講生の間を巡回し、適宜声掛けを行い、受講生が質問をしやすいように留意した。さらに、グループでのディスカッションを取り入れ、グループ内で、各自の考えを数字を使って説明する、他人の分析視点を知るという取り組みを行い、講師は、適宜アドバイスをする形式とした。自分の考えを数字で説明する難しさ、他人の視点を知る面白さ、自分へのフィードバックなど、グループ内での発表は有意義だったとする受講生が多く、巡回していても受講生同士の適切な説明、質問などが行われていた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

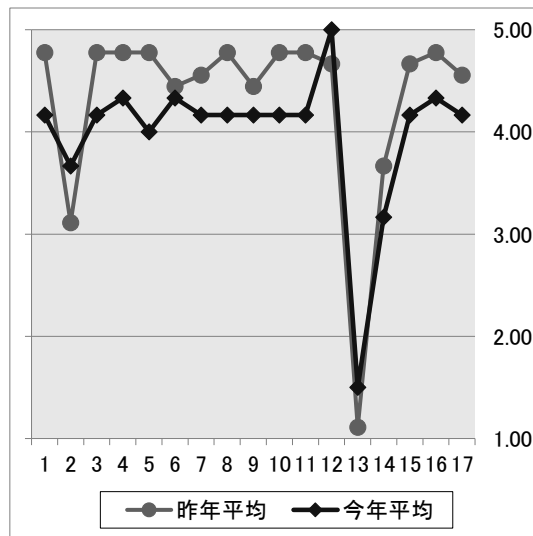
今後も「勘定奉行」を使用するという本講義の特色を活かし、経理業務の一連の作業を演習にて実施するとともに、受講生がより興味を持てるよう実践的な内容も取り扱う。また、PC操作等については、引き続き受講生の間を巡回し、各々の状況に応じてアドバイスし、質問等に対応するなど、受講生の理解に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、PCを使用した演習講義の特色を活かし、経理業務の一連の作業を「勘定奉行」を使用した演習にて実施するとともに、会計データの分析、固定資産管理、経営計画の作成など、より実践的な内容も取り扱う。また、PC操作等については、受講生の間を巡回し、各々の状況に応じてアドバイスし、質問等に対応するなど、受講生の進捗度に合わせた対応に努める。さらに、グループでのディスカッションを取り入れ、「数字に落とし込む」、「説明する」、「質問する」といった会計専門職に必要な基本的なビジネスのスキルの向上を図る。

科目	ディスクロージャー実務		
配当年次	2	開講時限	秋木2
受講者数	14	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.17	4	5	3
2	3.11	3.67	4	4	3
3	4.78	4.17	5	5	2
4	4.78	4.33	4	5	4
5	4.78	4.00	4	5	3
6	4.44	4.33	4	5	4
7	4.56	4.17	4	5	3
8	4.78	4.17	4	5	3
9	4.44	4.17	4	5	4
10	4.78	4.17	4	5	3
11	4.78	4.17	4	5	3
12	4.67	5.00	5	5	5
13	1.11	1.50	1	4	1
14	3.67	3.17	1・5	5	1
15	4.67	4.17	4	5	3
16	4.78	4.33	4	5	4
17	4.56	4.17	4	5	3
回答者数	9	6			



受講生の傾向

受講生の内訳は、会計士志望者8名(うち2名は論文試験合格者)、税理士志望者3名、企業等への就職希望等3名で、うち留学生は1名であった。講義内容は広範で難易度もやや高めではあったが、全体的に講義における受講態度は真面目で、出席率も高く、質疑応答にも適切に対応しており、課題についても真面目に取り組んでいた。グループディスカッション及びグループ発表を3回行ったが、受講生同士の交流、意見交換等にも積極的であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義で対象としている内容が制度の変革期にあることもあり、できるだけ直近の事例を取り上げ、新聞や雑誌記事などを紹介しつつ身近な話題として提供し、各受講生が自己の考えを深めると共に、グループで議論する機会を設けた。グループディスカッションはメンバーを変えながら3回行い、多様な意見を聞き、多角的な検討が行えるようにした。ディスカッションについては、講師はグループ間を巡回し、受講生の意見や議論を聴き、また適宜アドバイスに努めた。新聞記事等を紹介したことは、受講生から、身近に感じた、新聞をよく読むようになった、などの感想があった。幅広いテーマを取り扱うため、受講生が興味を持つテーマは様々であったが、受講生から「講義中の質疑応答により緊張感を保つことができた」、「課題を通じてテーマに興味をもった」、「ディスカッションはテーマについて深く考えるきっかけとなった」、「他人の意見を聞くことができ興味深かった」等の感想があった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

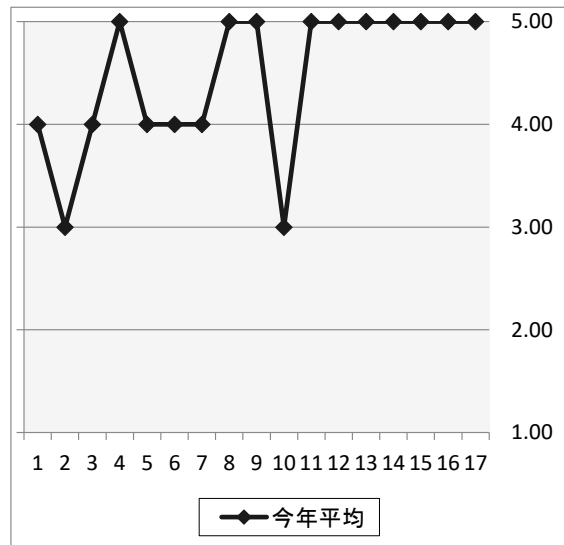
引き続き、受講生が興味をもてるように直近の事例を取り入れながら、講義を進めていく予定である。また、グループディスカッション等の機会を複数回設定し、多角的な検討や、主体的に取り組む姿勢などを促していくように努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、変革期における制度の概要について、その背景等を理解しながら習得し、さらにはどうあるべきかという自己の視点をより深めることを重視した講義設計とする。そのため、講義だけではなく、ディスカッション、発表などを取り入れ、自己の考えを深め、さらに他の受講生の意見などを聞き、議論する機会を設ける。また、事例としてできるだけ身近な話題を取り上げ、積極的に教材として取り入れる。

科目	プロフェッショナル・ソリューション(宗岡クラス)		
配当年次	2	開講時限	通隔月5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.00	4	4	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	3.00	3	3	3
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

非常に熱心に取り組み、多くの企業の分析を行い、素晴らしい成果を出した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

課題企業の企業分析を多面的に解説して、将来予測の重要性並びにその手法及び考え方を講義した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

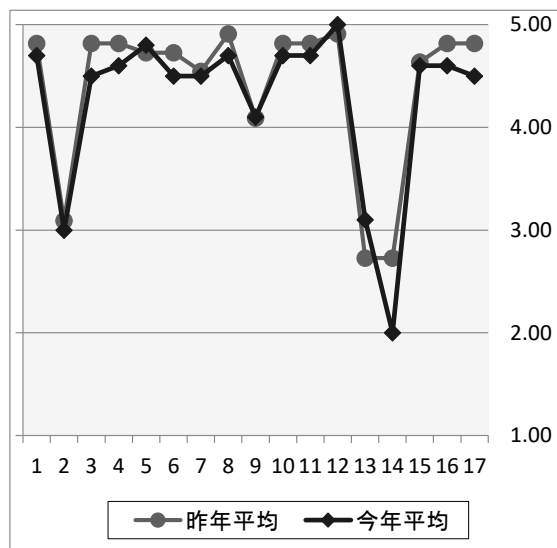
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題企業の企業分析を多面的に解説して、将来予測の重要性並びにその手法及び考え方を講義し、基礎的なところを講義する。

科目	プロフェッショナル・ソリューション(三島クラス)		
配当年次	2	開講時限	通隔水1
受講者数	11	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.82	4.70	5	5	4
2	3.09	3.00	3	3	3
3	4.82	4.50	4・5	5	4
4	4.82	4.60	5	5	4
5	4.73	4.80	5	5	4
6	4.73	4.50	4・5	5	4
7	4.55	4.50	5	5	3
8	4.91	4.70	5	5	4
9	4.09	4.10	5	5	3
10	4.82	4.70	5	5	4
11	4.82	4.70	5	5	4
12	4.91	5.00	5	5	5
13	2.73	3.10	3	4	2
14	2.73	2.00	2	3	1
15	4.64	4.60	5	5	4
16	4.82	4.60	5	5	4
17	4.82	4.50	5	5	3
回答者数	11	10			



受講生の傾向

今年度は11人の受講者があり、受講目的に応じてクラス分けを行ってはいしたが、基本的には受講生は授業にはすべて出席しており、予習・復習も丁寧に行われていた。また、受講目的に応じたものではあったが、授業進度やレベルについてもちょうど良いようであった。11人の受講生のすべてが、目的意識を明確にもっており、授業に対して真面目にかつ熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も引き続き、受講生の受講目的に応じて、クラス分けをして授業を行った。クラス分けの中で、それぞれの受講目的に応じて、授業形態を変えるということを行った。例えば、グループワークを行うクラスや、個別指導に応じるクラスなどである。なお、昨年度記述の今後の対応のところでも述べた、グループワークについては、実行することができた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

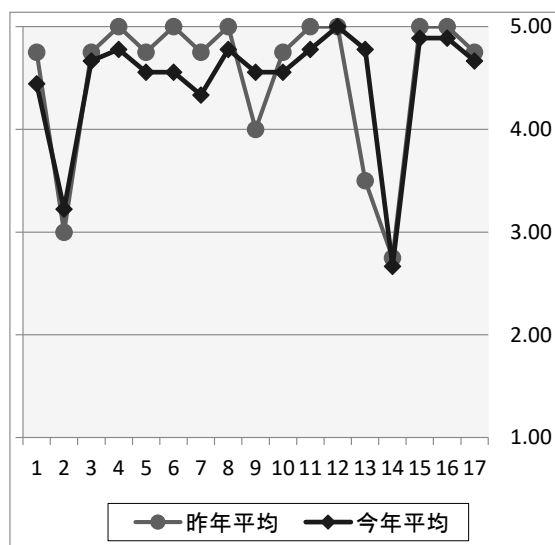
今後の対応としては、まずは今年度と同様に、受講生の学習目的に応じてクラス分けをすることを継続したい。また、大学の授業方針としてこれまでのコロナ禍対応の授業方法は解除されるものであるため、ソリューション授業としてふさわしい授業形態に戻したい。具体的には、受講生同士による意見交換および議論その結果としての結論としてのまとめなどを、グループ学習によって実行したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

クラス分けにより授業を行うことは、うまくいっているように思うので、今後もこれは継続していきたい。その中で、クラス分けされた中で、グループワークの充実は今後より一層図っていかなければならない。グループワークの中で全員が積極的に参加し、議論をして一定の結論を導き、また質疑応答の中で、議論を成熟していくような工夫が必要であると考える。

科目	プロフェッショナル・ソリューション(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	通隔水1
受講者数	9	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.44	4	5	4
2	3.00	3.22	3	4	3
3	4.75	4.67	5	5	4
4	5.00	4.78	5	5	4
5	4.75	4.56	5	5	4
6	5.00	4.56	5	5	4
7	4.75	4.33	4・5	5	3
8	5.00	4.78	5	5	4
9	4.00	4.56	5	5	3
10	4.75	4.56	5	5	4
11	5.00	4.78	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	4.78	5	5	4
14	2.75	2.67	2	4	2
15	5.00	4.89	5	5	4
16	5.00	4.89	5	5	4
17	4.75	4.67	5	5	4
回答者数	4	9			



受講生の傾向

受講生の授業参加度(項目12)は非常に高く積極的に演習に参加している。また教員に対する評価が昨年度に比して若干下がったものの、予習時間(項目13)は改善している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の希望により、監査論に関する各種論点を課題として配布し、自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討する形態とした。このため担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行えるように、複数の課題を事前に配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

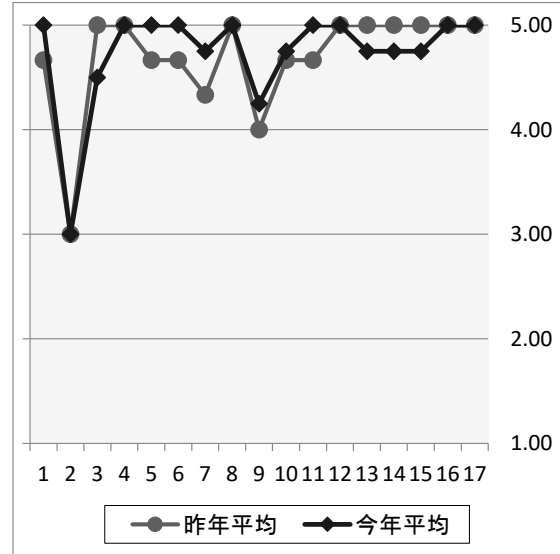
論述指導を必要とする受講生について、演習中の課題への解答を添削指導するために別の機会を設けることで論文作成能力を高めるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論文作成に応用できるように、複数の課題に対する解答間の関係にも配慮した解説を行うようにしたい。

科目	論文指導(実践)(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年木5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.67	5.00	5	5	5
6	4.67	5.00	5	5	5
7	4.33	4.75	5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	4.25	5	5	3
10	4.67	4.75	5	5	4
11	4.67	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.75	5	5	4
14	5.00	4.75	5	5	4
15	5.00	4.75	5	5	4
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	4			



受講生の傾向

受講生は4名であり、比較法研究が1名、解釈論による研究が3名であった。受講生間に学力差があり、2名は年内にほぼ修論が完成したが、残り2名は年越しの完成となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生に報告レジュメを作成させた上で、質疑応答を実施した。次に、報告者への質問については、グループワーク形式を採用し、受講生間の意見交換、議論の喚起を図った。最後に、修論の最終章については、口頭ではなく、文字ベースでの指導を行った。なお、留意した点は引用表記である。残念ながら、1回の指導では不十分であったため、授業終了まで繰り返し指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

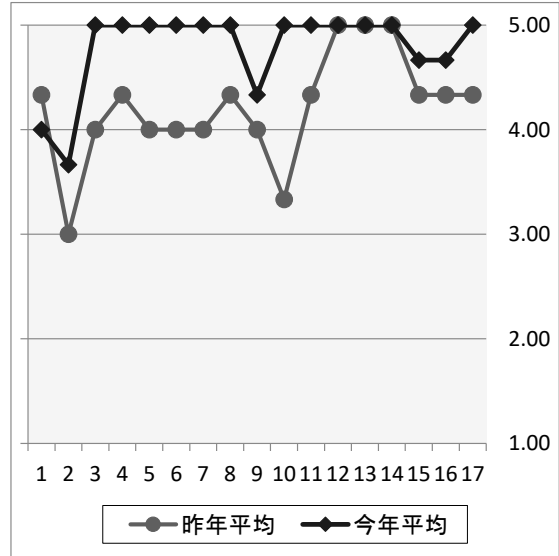
今年度の1名の修論未完成の原因は、質疑応答が不十分で、論理的な長文が書けない点にあった。対応としては、毎回の報告にレジュメを作成させることが重要と考える。なぜなら、当該受講生と修論を完成させた受講生との明確な違いは、その点にあったためである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

修論執筆が進まない受講生への対応が、今後の課題である。今年度の受講生の例では、口頭では説明できていたものの、文字ベースではきちんと書けていなかった。修論の提出期限との関係から、12月上旬には文字ベースでの指導が行えるよう、修論指導を行っていく必要がある。

科目	論文指導(実践)(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年金5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.00	5	5	2
2	3.00	3.67	3	5	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.33	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	4.33	5.00	5	5	5
9	4.00	4.33	5	5	3
10	3.33	5.00	5	5	5
11	4.33	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	5.00	5	5	5
14	5.00	5.00	5	5	5
15	4.33	4.67	5	5	4
16	4.33	4.67	5	5	4
17	4.33	5.00	5	5	5
回答者数	3	3			



受講生の傾向

受講生は3名であり、全て解釈論であった。受講生は報告レジュメを毎回作成するなど、真面目に修論に取り組んでいた。結果として、受講生3名全員が修論を完成することができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生に報告レジュメを作成させた上で、質疑応答を実施した。次に、修論執筆にあたり、「はじめに」と「おわりに」を先に記述させることで、受講生に論理的一貫性を確認させた。最後に、修論の最終章については、口頭ではなく、文字ベースでの指導を行った。なお、留意した点は引用表記である。残念ながら、1回の指導では不十分であったため、授業終了まで繰り返し指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

火曜クラスと異なり、金曜クラスは全員が修論完成に至った。その違いは、金曜クラスの受講生は全て、報告レジュメをきちんと作成し臨んでいた点である。次年度の指導では、報告レジュメを作成する重要性を受講生に認識させ、その上で、質疑応答を実施し、修論完成に向けた指導を行っていきたい。

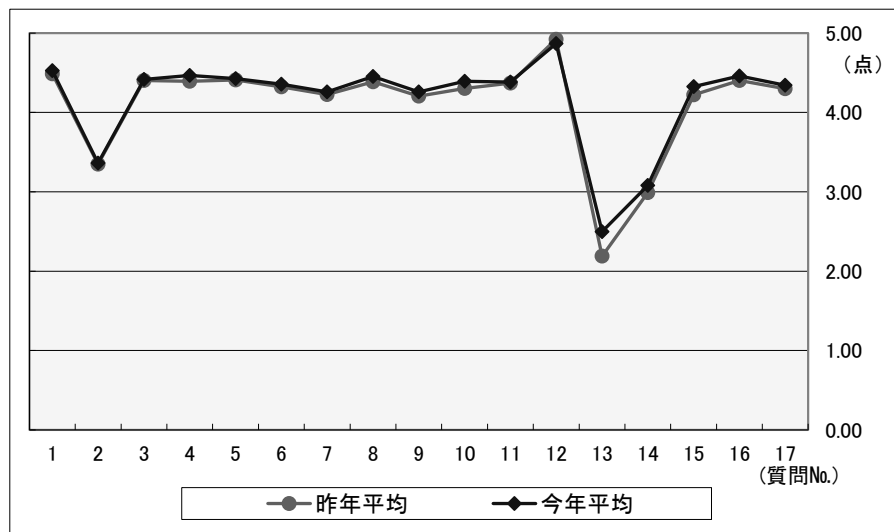
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論理的一貫性をもった修論をいかに作成させるかが、今後の課題である。今年度の受講生の例では、各章立てが論理的につながらない問題が生じたため、「はじめに」と「おわりに」を予め記述させることによって、論理的一貫性を確保させることができた。次年度も引き続き実施したい。

Ⅲ-(3). 2023 年度授業評価アンケート総括

総 括

質問No.	昨年平均	今年平均
1	4.49	4.53
2	3.35	3.36
3	4.40	4.42
4	4.39	4.47
5	4.41	4.43
6	4.32	4.36
7	4.23	4.26
8	4.39	4.45
9	4.21	4.26
10	4.30	4.39
11	4.37	4.38
12	4.92	4.87
13	2.19	2.50
14	2.99	3.08
15	4.22	4.32
16	4.40	4.46
17	4.30	4.34
回答者数	629	733



新型コロナウイルス感染症は、2023年5月8日から感染症法上の5類感染症に位置づけられた。それを受けて、2023年度は2022年度と同様、春学期の授業開始時から感染症対策を講じながらの対面授業が実施できただけでなく、マスク着用が新たに学生・教員とも個人の判断に委ねられることになった。その点で、2023年度はようやくコロナ前の教育環境に戻ったといえるのではないかとと思われる。

さて、2023年度の総括を行う。上記グラフのとおり、2023年度も項目2(授業の進度)、項目13(予習)、項目14(復習)がグラフ上、下位の方に位置する形である点で、2022年度と同じであった。2023年度は、項目12(出席状況)で若干、2022年度を下回る評価(4.87→4.92=△0.05)であったものの、それ以外の評価は全て2022年度を上回っており、その点で2023年度は2022年度よりも授業評価が改善されたと判断できるとと思われる。

ただ、その判断にあたり、2022年度に指摘された課題がどの程度改善されたか、確認しておく必要はある。そこで、以下は、2022年度に指摘された以下の3つの課題について、確認を行いたい。

第1の課題は、春と秋の受講者数の平準化という課題である。これは、項目8(教員は、学生からの質問に的確に対応したか)、項目11(満足度)、項目15(この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか)の評価が、相対的に春学期よりも秋学期の評価の方が高いという事実にもとづく。2023年度の当該項目を確認すると、項目8(春4.37→秋4.53)、項目11(春4.26→秋4.51)、項目15(春4.18→秋4.47)であった。従って、2023年においても2022年度で指摘された第1の課題は、そのまま残っていると考えられる。

第2の課題は、元々低評価傾向にあった項目13(予習)、14(復習)の水準が2022年度ではさらに低下したという課題である。そこで、2023年度における各項目の結果を2022年度だけでなく、2021年度まで含めた推移を確認すると、項目13(2021年度2.57→2022年度2.19→2023年度2.5)、項目14(2021年度3.08→2022年度2.99→2023年3.08)であった。従って、2022年度で指摘された第2の課題は、2023年度において改善されたと判断できる一方、あくまでもそれは2021年度の水準に戻っただけであり、項目13、項目14の低評価傾向に歯止めがかかったとまで判断することはできないであろう。従って、第2の課題に関しては、今後の推移を確認していく必要があると考えられる。

第3の課題は、授業評価アンケートの実施において、回答者数が受講者数を大きく下回っている科目があり、受講者の評価を十分反映できているか否かという課題である。2023年度では、回答者数の向上を目指すべく、各講義担当者に紙媒体の授業評価アンケートを配布し、出来る限り授業内でのアンケートの実施を依頼した。ただ、回答者数が受講者数を下回ってしまう別の理由として、途中から授業に全く来なくなる受講生が一定数存在することが挙げられる。アンケートは第14回あるいは第15回の講義で実施されているが、当該受講生の授業評価も把握した方が良かった場合には、実施のタイミングを第7回あるいは第8回など、途中段階でも実施することが検討されることになると考えられる。

上記を踏まえ、2023年度を総括すれば、2022年度よりも授業評価は改善されたと判断できるであろう。ただ、第1の課題のようにそのまま残っている課題もあることから、2024年度も引き続き授業評価の向上を目指すべく、検討が必要であろう。

IV. 組織的な研修等

2023 年度 関西大学大学院会計研究科セミナー開催一覧

■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2023 年 4 月 4 日(火)開催]

◇元国際会計士連盟会長／元日本公認会計士協会会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「目指そう・挑戦しよう 会計プロフェッションへの道」

■客員教授講演会 ※オンライン開催

[2024 年 2 月 15 日(木)開催]

◇慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「2024年の世界と日本」

■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2024 年 2 月 22 日(木)開催]

◇ 有限責任あずさ監査法人 専務役員/公認会計士

原田大輔氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化の中で果たす公認会計士の役割とやりがい」

藤沼亜起 客員教授講演会

日本公認会計士協会元会長及び国際会計士連盟(IFAC)元会長
～目指そう・挑戦しよう 会計プロフェッションへの道～

会計専門職大学院では、2023年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、日本公認会計士協会元会長及び国際会計士連盟(IFAC)元会長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：2023年4月4日(火)

10:40～12:10

■場所：第2学舎2号館5階507教室

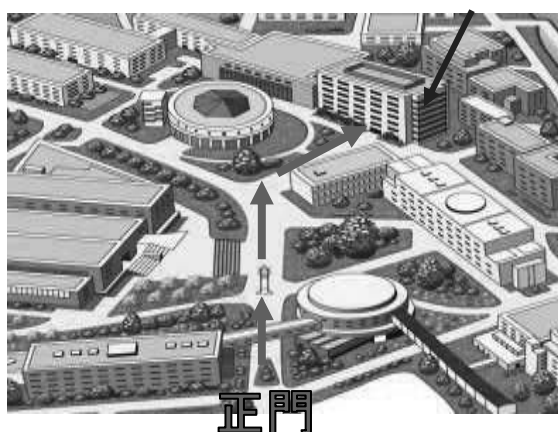
■演題：目指そう・挑戦しよう
会計プロフェッションへの道

■対象：会計研究科新入生・在学生、
幅広い分野で活躍する会計
プロの道に興味のある学部生

■事前申込は不要です。

<会場案内図>

第2学舎2号館
5階 C507教室



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

E-Mail kaikei@ml.kandai.jp



竹中平蔵

客員教授講演会

慶應義塾大学名誉教授

「2024年の世界と日本」

元国務大臣で、総務大臣や郵政民営化担当大臣等を歴任された竹中平蔵客員教授のオンライン講演会を開催します。学生及び教職員の皆様のご視聴をお待ちしております。

■日 時：2024年 **2月15日(木)**
14:30~16:00

■実施方法：オンラインで開催します。
リンク先等の詳細については、
申込時にお知らせします。

■申込：**2月5日(月) 17時**までに
以下のQRコードからお申込ください。
(定員150名・先着順)



〈お問合せ先〉

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

Mail: kaikei@ml.kandai.jp

原田大輔 客員教授講演会

有限責任 あずさ監査法人 専務役員 公認会計士

会計専門職大学院では、2024 年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、有限責任 あずさ監査法人 専務役員の前田大輔客員教授をお招きし、講演会を開催します。

公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■ 日時：2024 年 2 月 22 日（木）

14：30～16：00

■ 場所：第 2 学舎 2 号館 5 階 507 教室

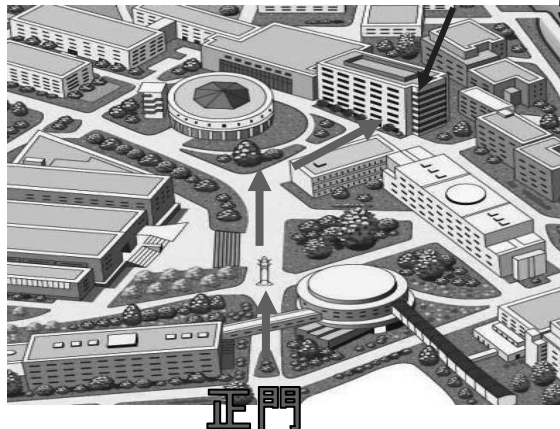
■ 演題：監査を取り巻く環境変化の中で果たす公認会計士の役割とやりがい

■ 対象：会計研究科入学予定者・在学生
公認会計士を目指す学部生

■ 事前申込は不要です。

<会場案内図>

第2学舎2号館
5階 C507教室



講師 原田大輔 氏
関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代表)
E-Mail kaikei@ml.kandai.jp